



Process

第20回全道造形教育研究大会 ● 旭川提言

ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか

第20回全道造形教育研究大会●旭川提言（1970・7・30・31／旭川市立北星中学校）



指導の構築化がさげばれて数年、それなりの成果をもって一応の終局をみたが、それは必ずしも一点に集まる意味の結論がでたものではなく数々の疑問や、これからの方向が多岐にわたり研究の積み上げや、検証の必要性にせまられているものと考えている。

第20回旭川大会は、かかる意義づけから、これからの研究視点をどうとらえ、指導の構築化をどう受けとめ発展させるかという今後の研究を進める方向を探る点で重要な大会ととらえている。

旭川提言の特色をあげるならば、公開授業と提言内容を密着させたことであろう。これは日々の授業の中で「子どもが豊かに生きる」ことを願い、指導の系統化を考えようとし、

その目的を達成できないとすれば、どこに問題点があるのかということをもより明確にし、理論と実践を子どもや作品を通して検証しようとする願いから生まれたものである。

また、教師の願いを子どもがどう受けとめ、どう感じ、どう変容したかをとらえるために、A分科会のはじめに子どもを参加させてみた。授業の主体は子どもであると考えていること

から、子どもの見方、考え方を通して大会のテーマにせまろうとするものである。

A分科会での結論を予測することはむずかしいが、子どもを主体とした視点で討議されたいろいろな問題点が、つぎのB分科会に引き継がれにつめられれば、それなりの成果を得るものと期待している。

資料の組み立ては、幼稚園から高校までを領域別に分け、小学校では低・高あるいは低・中・高に分け、領域のその学年での問題点を中心に話し合いがなされ、指導の系統をおさえた上での討議が重ねられるよう配慮したが、公開授業と提言内容を密着させたためのいろいろな欠点が出てしまった。たとえば、系統表を作成したもの、公開授業をするもの、提言をするものが必ずしも同じひとでないために、ことばの解釈がちがったり、内容のおさえが、多少ニュアンスとしてくいちがったりするなど、順調な研究をさまたげる幾多の問題点が出てそれを完全にのり越えることができなかったが、これは私たちの今後の研究の課題として解釈していかなければならないと考えている。



主 題

「ゆたかに生きる子供の造形能力をどう育てるか」

幼 稚 園 部

- ・ 幼児期ののぞましい造形指導

小学校低学年部

- ・ あらわすことの喜びをもつ子どもを育てるための指導

小学校中学年部

- ・ たしかなものを創る子どもを育てるための指導

小学校高学年部

- ・ 自分の願いをゆたかに表わす子どもを育てるための指導

中 学 校 部

- ・ 表現をゆたかにするための基礎的能力を生かす指導

高 等 学 校 部

- ・ 技法練習と創造表現を関連させての指導

幼稚園	絵画	<4才児>	池島みち子	1
	製作	<5才児>	平山エイ子	2
	絵画	<4.5才児>	泉秀雄	6
小学校	絵画			17
		<低学年>	脇神玲子	19
		<中学年>	新飯田登	20
	版画			23
		<低学年>	川島信也	24
		<高学年>	古屋栄隆	28
	彫塑			35
		<中学年>	宮下林	37
		<高学年>	飯塚礼二	39
	デザイン			44
		<中学年>	渡辺正勝	46
		<低学年>	島田俊英	53
	<高学年>	西道喜代	59	
工 作				65
		<低学年>	宮田静二	67
		<中学年>	小倉孝	70
		<高学年>	松藤浄治	74
中学校	絵画		中西清治	79
	デザイン		鈴木俊昭	85
	版画		築山尚明	93
	彫塑		及川輝夫	98
	鑑賞		杉山徹	107
高 校	絵画		野上好彦	113
	彫塑		佐藤範夫	115



幼稚園活動報告

幼児期のおもしろい遊形指導 よくみてかくことの一考察

山崎 隆夫、藤原 幸、島崎 幸子
（大阪府立大学）

幼稚園の活動は、遊形の活動である。遊形の活動は、幼児の生活の中心である。遊形の活動を通して、幼児は自分の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。

遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。

遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。

遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。

遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。

遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。

図表 1

遊形の種類	遊形の名称	遊形の目的
①	かくるかくる	かくるかくる
②	かくるかくる	かくるかくる
③	かくるかくる	かくるかくる
④	かくるかくる	かくるかくる
⑤	かくるかくる	かくるかくる
⑥	かくるかくる	かくるかくる
⑦	かくるかくる	かくるかくる
⑧	かくるかくる	かくるかくる
⑨	かくるかくる	かくるかくる
⑩	かくるかくる	かくるかくる

幼稚園

図表 2

遊形の種類	遊形の名称	遊形の目的
①	かくるかくる	かくるかくる
②	かくるかくる	かくるかくる
③	かくるかくる	かくるかくる
④	かくるかくる	かくるかくる
⑤	かくるかくる	かくるかくる
⑥	かくるかくる	かくるかくる
⑦	かくるかくる	かくるかくる
⑧	かくるかくる	かくるかくる
⑨	かくるかくる	かくるかくる
⑩	かくるかくる	かくるかくる

遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。遊形の活動は、幼児の生活の世界を認識し、社会生活のルールを学び、社会生活のルールを身につけていく。

図表 3

遊形の種類	遊形の名称	遊形の目的
①	かくるかくる	かくるかくる
②	かくるかくる	かくるかくる
③	かくるかくる	かくるかくる
④	かくるかくる	かくるかくる
⑤	かくるかくる	かくるかくる
⑥	かくるかくる	かくるかくる
⑦	かくるかくる	かくるかくる
⑧	かくるかくる	かくるかくる
⑨	かくるかくる	かくるかくる
⑩	かくるかくる	かくるかくる

図表 4

遊形の種類	遊形の名称	遊形の目的
①	かくるかくる	かくるかくる
②	かくるかくる	かくるかくる
③	かくるかくる	かくるかくる
④	かくるかくる	かくるかくる
⑤	かくるかくる	かくるかくる
⑥	かくるかくる	かくるかくる
⑦	かくるかくる	かくるかくる
⑧	かくるかくる	かくるかくる
⑨	かくるかくる	かくるかくる
⑩	かくるかくる	かくるかくる

幼稚園絵画領域

幼児期ののぞましい造形指導 よくみてかくことの一考察

幼稚園4歳児 提言者 池嶋美知子
(大谷さくら幼稚園)

幼 絵



1

◦題材について

幼児が自己中心的であって、客観的に物を把握し、描写するということができないとしてもいつも想像、経験などによる絵を描くだけでなく、できるだけ物をよくみ、観察し、そこから物をとらえていくという経験をさせたい。そして、「からだ」を各視点からみて表現していくなかで、1人1人が自信をもって生々と表現できるようにと願う。そこで1年保育5歳児30名を対象に、日常保育を中心とした実践を通し、下記のネライを達成すべく考えていきたい。

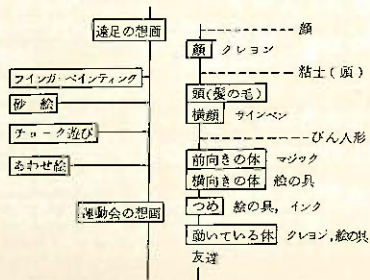
描けないといって泣く子に、ぬたくり遊びなど精神解放すると共に、じっくり考えたり発見したりして認識する態度を育て、描く事が好きになるようにしたい

理解力、表現力が発達段階に達していない子、消極的で自信のない子など、描けないといって泣く子にとってその苦しみは大きい。「先生、目はどうやって描くの」、「石ころってまるいよね」、描くことの不安をいつも心に秘めて、はげしく模索しながらの創造活動である。

すでに人物とは、こう描くのだと、何の工夫も苦心もみられない、いわゆる概念的な絵を打破していきたい

- ①いままで知っている人形らしい顔の描き方を、よくみることにより、既成の概念を砕いていく。
- ②体の各部分や全体との比較をする中で、生きている人間を感じとり、表わし、各々の美しさやおもしろさを遊びを通して知らせたい。

◦保育計画(5~7月)



◦実践例

I 頭(髪の毛)

幼児の活動	指導上の留意点
◦髪の毛(流れ、つむじ)を知る。	◦とぎれとぎれの線では感じがない。
◦線の強弱を知り、表現する。	◦1本1本生きている線で描くように。
	◦鉛筆の使い方を知らせる

材料 色画用紙(横) 鉛筆 HB

実践過程

※T「前にすわっているお友達の髪の毛の流れをみて、何かさがしてみましよう」

S「○○ちゃん、じっとしててよ」

S「先生、○○ちゃんをつむじ二つあってまがっているどうするのー」。子供達にとって、初めて経験する二つの要素(観察画、鉛筆画)をもった描画に興奮と不安でざわめく。

※棒のように先がとがらず止まってしまう子には、黒板に白チョークで髪の毛のさきの表現を工夫させる。

※S「髪の毛なんかもっと多いよ。それじゃはげ頭みたい」鉛筆をねせて、べったりと活気のない平面的な髪を描いている子には、もう一度自分の頭をさわり、かたまりの中から1本1本の毛をとり出し、感じとらせる。

※結果

流れ、強弱の表現できた	9人
流れは表現できた	14人
感じをつかめない	7人

※反省

鉛筆より線のやわらかくできるクレヨンか、鉛筆Bを使った方が効果的であった。

II 横顔

幼児の活動	指導上の留意点
◦前と横では表情が違うことを知る。	◦みえなくなる部分などを発見させる。
◦口・目・眉・鼻・耳などの形が変わることを知る	◦にらめっこなどを通し、表情の変化に興味をもたせる。

材料 白画用紙 サインペン

実践結果

この保育活動での発見は、目・口・鼻などみえなくなった部分、形の変った部分などは、その表情をよくとらえていると思われたが、横顔の観察をしてそこに「あご」を発見し表現したのは、わずかに1人しかいなかった。

髪表現の経験を思い出して、70%の子が横顔に於ける髪の流れを意識し、よくみて、みたものを本物らしく表現していこうとする姿勢をみる事ができたと思われる。

Ⅲ つめ

幼児の活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○押したり、にぎったりすると色が変わることを知る ○濃さの違い色水をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○セロファンを重ねる遊びをして、同じ色でも、感じの違い色になることを知らせる。 ○マニキュアあそびをしてつめに関心をもたせる。

材料 白画用紙 インク・絵の具

通常、絵の具は大きく描く時や、解放的なぬたくり遊びによく使われるが、もっと積極的に、色の見方、感じ方を発展させる為に使ってみたいと考える。

Ⅳ 動いている体

幼児の活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○マリオネットの動きをみて、自由表現する。 ○まがる部分、ひじ、ひざなどを発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マリオネットを使って、その動きに興味をもたせる。 ○体の各部分のつながりを感じとらせる。

材料 色模造紙(水色) クレヨン・絵の具

○予想される反省点、問題点

※材料の機能、特色に固定観念を押しつけてはいないだろうか。

自分が表現するものには、何が必要で何をどう抜いていくとよいかを判断できるように導くうえに於いてその扱いは正当であろうか。

幼稚園教育要領 絵画製作3(1)

※観察画について

よく見るという事を通して、手や指先による運動機能、又、認知機能の発達を促すことはあっても、例えばプロポーションはひどく狂ってはいるが、そこに未分

化性の強いおもしろさ、生活感情のあふれたバイタリティーに富んだ幼児の心の芽、表現の芽を、早急についばむことはないだろうか。

幼稚園教育要領 絵画製作1(1), 2(1)

幼稚園製作領域

平山エイ子
(旭川市立幼稚園)

1. 領域のおさえ

ア 製作の意義とねらい

幼稚園教育要領では領域「絵画製作」に属するねらいを17事項をあげ、更に整理して4項目にまとめている。
(ア) のびのびと絵をかいたり、ものを作ったりして、表現の喜びを味わう。

(イ) 感じたこと、考えたことなどをくふうして表現する。

(ウ) いろいろな材料や用具を使う。

(エ) 美しいものに興味や関心をもつ。

製作の領域を考えると、「製作」ということばは4項目の1にでている「ものを作る」の意味である。したがってこの内容は小学校では工作、彫塑、デザイン、の領域が合わさったものである。

幼児は生来ものにさわったり積んだりくずしたりして或は何かを作ったりすることが大好きである。このような肉体的生理的な運動感覚を、造形活動を行なわせる中で高め、豊かな創造力を育てていくのがこの製作のねらいである。描画は感動のおもむくままに表現していけばよいが、製作は作る目的や工作的な条件があり、それらをふまえてどう作ればよいかを考えて進められるものである。

イ 教師の指導

(ア) 幼児の創造力を信頼する

(イ) 積極的な指導姿勢をとる

(ウ) 計画準備は幼児の立場で考える

(エ) 話しかたのくふう

(オ) 活動中の助言、助力のしかた

(カ) ほめること

(キ) 作品を生かすこと

(ク) 各領域とのつながりをもつこと

ウ 5歳児の造形的な特徴

<描く>

画用紙の上部に帯状の空を描き太陽をかく。このことは物と物との関係がわかってきたことを示す。興味や関心の強いところは大きく描く。線描だけでなく色彩を使って面的に表わすことを覚えてくる。紙版画が作れデザイン的発想も豊かになる。

<作る>

- ・はさみの使い方をおぼえうまくなる。
- ・ホッチキス、セロテープなども使ってものが作れる。
- ・4つ折りはできるが3つ折りはできない。
- ・遊び道具など何か目的をもった製作をくふうして作ることを喜ぶ。

<見る>

友だちの作品について思ったことが言える。美しさの発見については、すごい、大好きといった程度だが、しだいに関心をもってくる。

エ 共同での製作をめざして

力を合わせてみんなで作るということによって、個人個人ではできない作品を作りあげることができたり、また仲よくみんなで力を合わせて活動するというそれ自体にも教育的な貴重な意義をもっている。特に配慮しなければならないのは、幼児の個々の活動や喜びが、そのために疎外されないようにしなければならない。

初めはグループの1人1人が相手をあまり考慮に入れず、自分で切り抜いた絵などを1枚の大きな紙にはり合わせていくような集団による活動をさせる。この集団による製作を更に話し合いの中で確かにして作業の分担まできめ、協力し合う段階にまで進歩させたい。

ね ら い	料にふれて、造形活動の楽しさを知らせる	しみながら自分の表現力を豊かにする。	い経験を多くさせ、表現意欲を高める。集団および共同製作へと導きその喜びを味わわせる。
材	・フィンガーカラー、色紙、画用紙、空箱、セロテープ、セロファン、ピン、ホッチキス、木片、模造紙、粘土、牛乳のふた、マジック、積み木、ポストカード	・紙袋、セロファン、新聞紙、モール、ダンボール箱、空箱、粘土、わりばし、木の葉、木の実、色紙、中厚紙、画用紙、その他はい品の利用	・画用紙、紙袋、毛糸、包装紙、布、空びん、雪あそびの道具、色紙、その他はい品の利用
料			

3. 実践(みんななかよく)

題 材

かたつむりのさんぽ

題材について

幼児は虫と遊ぶのが大好きである、特に動きのあるものにひかれる。かたつむりを作ることをとおして、生き物を可愛がるやさしい心を育て、また表現のよこびを味わわせたい。材料は色紙と画用紙を使用する。

指導のめあて

みんなで木の葉やかたつむりを作り、表現の喜びを味わう。

2. 年間の指導計画

	1 期	2 期	3 期
題 材 名	・フィンガーペインティング ・チューリップ ・砂あそび ・かたつむり ・時計 ・積み木あそび ・動物園 ・汽車あそび ・粘土あそび	・魚 ・運動会の道具 ・木の葉 木の実 ・くだもの ・粘土あそび ・遊戯会の小道具 ・クリスマスのかざり	・ふくわらい ・おにの面 ・びんの人形 ・雪像 ・修了記念製作
	・いろいろな材	・遊びの中で楽	・興味ある新し

指導計画

- ① かたつむりの採取、かたつむりと遊ぶ。
- ② 図かんをみたり食べ物や種類について話し合う。
- ③ かたつむりの身体表現をする。
- ④ かたつむりや木の葉を作る。
- ⑤ みんなでかたつむりをにがしに行く。

反 省

- ① 折り紙のかたつむりは、立体的なので幼児は喜んだができ上りが同じようなので面白くない。
- ② 葉が小さかったせいか、かたつむりも小さかった。
- ③ かたつむりを作った次の日、粘土での表現へと発展して楽しかった。

題 材

みんなで動物園をつくろう

題材について

幼児は動物が大好きである。遠足の行先が動物園であったので、このチャンスをとらえてみんなで画用紙の材料で、半立体的な動物園を作りたい。みんなと作るといってもまだ6月なので、個々の作品のモチよりによる総合製作にする。動物園のテーマは大へん発展性がある。他の領域と関連づけて動物の動きの表現あそび、動物園ごっこなど豊かに活動させたい。

題材のめあて

それぞれ好きな動物をのびのびと作らせ、起伏のある台におくことを通して、みんなといっしょに作った喜びを味わわせる。

指導計画

- ① 動物園に遠足
- ② 動物のうたをうたったり、動物の表現あそびをする。
- ③ みんなで動物園を作る。
- ④ 動物園ごっこをして遊ぶ。

反 省

- ① 動物を作るのに同じ大きさの紙を与えたが、大きな動物、小さな動物に合った紙の材料を用意し、それぞれ子どもにえらばせた方がよかった。また色画用紙も用意すべきだと思った。
- ② ねらいの、のびのびに対し、もっともっと具体的なねらいが必要である。
- ③ 話し合い導入の段階に、いろいろ大小さまざまな動物をひきだしてやるべきだった。(同じ動物が多かった。)
- ④ 子どもの中から同じ動物は、かためた方がよい。またまたほくはかめを作るからあんたはうさぎを作って、いろいろな動物を作ろうなどと、1グループで話し合いがでていた。これが共同製作への芽えになるのであろう。
- ⑤ 教師の環境設定はよかった。それによって子どもは製作意欲も高まるのでなかるうか。
- ⑥ ハサミの使い方、のりのつけ方など道具の基本的な使い方は、しっかりおさえて指導することが必要である。

題 材

ぼくの私の汽車がとおる道(粘土)

題材について

乗り物ごっこの遊びをとおして、子どもは乗り物に対して

関心が高まっている。前時ではそれぞれ木片で汽車を作り自分の作った汽車で楽しく遊んでいる、本時はぼくの私の汽車がとおる道のまわりには、どこにどんなものがあったら楽しいか考えさせながら、可塑性である粘土を使い、いろいろなものを作らせ、子どもなりの楽しい夢を持たせ造形への芽を育てたい。また個々に製作した作品ではあるがそれぞれ共通な空間を持つことにより、そこには共同製作への足がかりを作るとともに、完成した作品でいっしょに遊ぶことから、仲間意識を育てることに意義を持たせたい。

題材のめあて

素材の特質を利用して、のびのびと作らせ楽しく遊ばせたい。

指導計画

単 元	のりものごっこ	目 標	のりもの遊びを通して、交通のきまりを知らせ、友だちと協力する態度の芽生えを育てたい。
領 域 別 の ね ら い	健 康	・交通の規則を理解し、ごっこ遊びをする。 ・適切な服装で遊ぶ。	
	社 会	・友だちと仲よく楽しく遊ぶ。 ・遊びの約束を守る。 ・グループの中で簡単な役割を受け持って遊ぶ。	
	自 然	・乗り物の形、速さ、分類などに関心をもつ。	
	言 語	・人の話を注意して聞き、はっきりした言葉で話をする。 ・乗り物ごっこの遊びについて話し合う ・ごっこ遊びに必要なことばを使う。	
	音楽リズム	・のりもの(汽車、バス、ひこうき、舟)のうたをうたったり、リズムあそびをする。	
	絵画製作	・のりものを木片を利用して作る。 ・粘土でトンネルや鉄橋などを作って遊ぶ。	
指	日	保 育 内 容	
	1	言 語	・乗り物ごっこについて話し合う。
	1	音 楽 リ ズ ム	・乗り物のうたをうたったり、リズムあそびをする。

導 計 画	1	社会・健康	・乗り物ごっこ(汽車)をする。
	1	絵画製作・自然	・汽車を作る(木片利用)
	1	絵画製作	・ぼくの私の汽車がとある道を作る(粘土)

4. 反省および問題点

- ① 共同製作をめざして初歩としての指導について。
- ② のぞましい題材や、素材について。
- ③ 小学校への結びつきについて。
- ④ グループ活動をとおして、消極的な子や造形活動のにか手な子の指導について。

幼 絵



幼児の造形活動の原点

幼稚園 提言者 泉 秀雄(朝日小)

I まえがき

幼児の絵—それは野の花のように素朴で、情純で、無心に咲いている姿にも似ている。そのたどたどしい画紙に描かれた線や色の中に幼児の夢があり、童心の世界が扉を開けてまっている。私達は野の花園に入りこもう、幼い語らいの中に入り一緒に伸びていく掌を理解しよう。大きい温かい愛の手で無限にのびる可能性を大事に育てていきたい。

このように幼児の絵に魅力を感じたのは、随分むかしのことになる。今はすっかり成人した息子や娘たちがヨチヨチ歩きの時期で、当時は終戦を迎えた日本がどん底生活にあえいでいた頃、描く材料も紙も不足がちで大変困った時代であった。それで私は子どもたちの為に、玄關の中に手製の小黒板をかけて、チョークで落書きをさせていた。白い粉をかぶって真白になって夢中に描いている姿が浮かんでくる。従って子どもの作品なども、思いつきの程度で蒐集し、速大を企画で子どもの継続研究が出来ないままに大事な時期を過し、今になって悔まれる。

その後、1952年、昭和27年にイギリスのハーバード、リードの思潮である。「Education through Art」即、美術を通しての教育が、日本に紹介され、創造美育協会、の誕生となり、児童画の解放運動が俄かに活発になった。

昭和30年には、小学校の図工の教科書が採択の仲間入りをし、その中には子どもの作品が沢山掲載されたので、社会的にも注目され、教育学者や心理学者の美術に対する発言も多く、民間の研究団体の声と共に、子どもの絵が一段と見直されてきた。又幼児の絵についても同様で、子ども心理を尊重し、解放するということで、ややもすれば、大人の感覚で作品を過大評価する問題も起ったりしたことがしばしばであった。

そこで私は子どもの絵の描画能力はどうか、発達はどうあるべきかという問題ととりくみ、幼児期から児童期へ、更に青年期まで、外国の文献や国内の資料をあさって一貫した系統表をつくってみた。「児童画の発達」や「情操豊かな創造的人間」という研究をして皆様に御批判を頂きました。

その後、幼児画についての系統的な作品あつめの念願やみがたく、近所のS家やT家、又、学校の同僚のB君やGさんにもお願いして、幼児の作品あつめに協力して頂きました。

特に近年、日本の教育制度の改革案で、学令の一年引き上げが話題となり、幼児教育について強いスポットがあてられている現在です。本年度の旭川市の小学校新入学児童の実態は、4685名中、幼稚園1,964名、保育所その他2,108名で、計4,072名で約87%の入園、入所率です。10名中8~9名は幼児の保育指導を受けてきたことになり、小学校教育を充実する為にも、その前期にあたる幼児指導がいかに大事なものであるか、益々この調査の重要性がはつきりしてきました。

II 4人の幼児画の継続記録

幼児期は生理的には人間成長の中で、最もはげしい発達をとげるといふ。ハイハイとはい廻っている4足から、立って歩き、走り廻るといふ。造形的に見ても実に目をみはるような大変革をなしとげる時期である。脳の重さも、3歳で成人の約半になり、6歳で90%にも成長するという。この変化に富んだ未解決をふくんだ時代、この幼児期について、描画活動の発達段階はどうなっているのか、継続的調査は仲々根気を伴うが又興味深い問題である。

昭和39年、近所に丁度格好の子どもさんがいたので、Mちゃん一女、Yちゃん一男を対称としてお願いした。その後、昭和42年、Aちゃん一女、Gちゃん一女にもお願いして出来た貴重な記録です。

作画の条件

- ① 毎月1回作画した作品を提出する。
- ② 作画日は、その子の生れた日を中心とする。
- ③ 指導は特別なことはしない。自然のまま、普通に養育している生活の中で描いたもの。
- ④ 子どものことに就いて参考事項をかいでもらう。
かいた時間、言語、行動、態度、その他

上記の用紙を作品の下に貼っていただく

1. Mちゃんの記録一女 昭和39年12月7日開始

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
一歳半 なぐりがき期	ぬたくりをたのしむ時期	1	丸い線がき	12	1.7	画用紙にジジとかく円である アップル、メメ 中位の円、ペンがきすき、暖色系好き、TVのまね
		2	"	1	1.8	3日ばかりで描く、1つ1つ意味あり、体操、遊戯のまね、会話のまね
		3	小さい丸	2	1.9	メンメ、コーキライオン、いいながら描く、積木上手、食事、服も独りで出来る、手出しするとおこる
		4	線がき	3	1.10	
		5	"	4	1.11	ミーちゃんはんたい、ギュー、キリンといいながらかく、顔も動作も幼児らしくなり、外遊びすき
		6	"	5	2.0	ワンワン、ニャンニャンが中心で、自分で描くより親にせがむ
		7	"	6	2.1	外遊びが好きで歌いながら遊ぶ 絵はかかないで積木多い、言語

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録	
一歳半 なぐりがき期 二歳半 象徴期	ぬたくりをたのしむ時期 ぬたくりした後で言葉をつける時期	8	形らしいものを描く	8	2.3	は発達し大人と会話する ボールペンの赤を好む、ワンワン、ニャンニャンいいながら描く	
		9	点と線えのぐ	9	2.4	おばあちゃんのまねで1人前の手つき、反抗期らしく、短腹、泣虫	
		10	点つづきえのぐ	10	2.5	大人との会話上手、反抗的態度は妹が生まれてから目立つ	
		11	てがみの文字	11	2.6	寒くなって内遊び多く、絵が好きになる。記憶力もたしか会話もよい。	
		12	妹の千里ちゃん	12	2.7	絵と字をかくことに熱中する。人は全身をかく1日にノート3冊位つかう。ボールペンがすき	
		13	私と妹と車	1	2.8	人物を描くことが多く、三角服目、口、耳、鼻をかく、色でぬりつぶすことになれる	
		14	戸棚左への泣顔	2	2.9	記憶がよくTVの言葉もよくおぼえる折紙をする	



発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
三歳 命名期	形を描いて後で名前をつけていく時期	15	花(上)とミーチャン	3	2.10	折紙夢中 人物の横は自分の名前、オバQ、ブーフーを よく描く 家族の人をたくさん描いて物語的に作った。服も独りでできて、手つだいをきらう。理屈をいうおしやれ、おしやべり、甘子
		16	畑(上)と雨ふる(下)	4	2.11	
		17	ミーチャンと鬼(右) ユーレイ (左)	5	3.0	
		18	赤ちやんとミーちゃんおかあさん	6	3.1	
		19	花畑と私	7	3.2	

Yちゃんの記録 男 昭和39年12月14日開始

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
二歳半 象徴期	ぬったくりした後で言葉をつける時期	1	線がき	12	歳月 2.5	緑色は山、点々は足あと 銭湯のけむり、小さい丸はゴム風船 バスにのって遠出した後にかいた 真赤な顔、目、口、鼻、ヒゲと いいながらかく
		2	"	1	2.6	
		3	"	2	2.7	
		4	"	3	2.8	
		5	"	4	2.9	
		6	鯉のぼり	5	2.10	
		7	おめん天狗	6	2.11	

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
三歳 命名期	形を描いて後で名前をつけていく時期	8	金魚鉢の金魚	7	3.0	が形にならない 金魚と石と草をかく 祖父の家についてみたものをかく、トーキビ、イモ、玉ネギ、ニンジン色のぬりつぶし上手 エプロンをしたママ、スリッパもはく、パンを持っている、エプロンにポケットあり、ヒダもついている 土人の首ふり人形の写生、顔をかき、体、足、パンツ、手、頭目、鼻、口、耳カミ、乳の順にかく クリスマスのツリーを飾ったのをみてかく、色は自由、右手はローソク、左手はおみやげ袋
		9	ヤサイ	9	3.2	
		10	ママ	10	3.3	
		11	首ふり人形	11	3.4	
		12	サンタのおぢいさん	12	3.5	

Aちゃんの記録 女 昭和42年12月4日開始

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
一歳半		1	線がき	12	歳月 2.5	TVのうたをききながら絵にかく

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
一歳半 なぐりがき期	ぬたくりをたのしむ時期	2	顔	1	歳月 2.4	うたが好きで、オバQやスーパーマンのうたをうたいながらかく。顔をかいて目は2つ耳は2つという。
		3	お人形さん	2	2.5	人形は姉のまねをしてかく。目鼻、口、耳、かみの毛、手、足と必要なもの全部かく
		4	リンゴのひげ	3	2.6	TVをみながらリンゴをよるこんでかく。おひげをつけたあとかいたリンゴにかじりつく
二歳半 象徴期	ぬたくりして後で言葉をつける時期	5	パパのかお	4	2.7	夜、おしやべりしながらパパのかおにおひげがあるのをかいた
		6	パパとママとあけみ	5	2.8	地線があつた後描かせてみたら素直に家族の顔をかいた。横のは車
		7	みんなの顔	6	2.9	外遊びに夢中で絵を描かない。私の顔が一番大きく、パパは次だ。黒いお日さま
		8	線がき	7	2.10	外遊びが好きで絵を描かない。

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
三歳 命名期	形を描いた後で名前をつけていく時期	9	線がき	8	2.11	無理してかかせてみた 風邪気味、TVで事故をみせた後泣虫になって描いた絵
		10	コケシ	9	3.0	大きいコケシと小さいコケシとネコ
		11	パパとママと私と手をつなぐ	10	3.1	自分で作ったうたをうたいながら、パパとママと私、友達をかく。雨がふってきた
		12	ママとおねえちゃん	11	3.2	寒くなったので家の中で絵をかくのが一番楽しみ。体をかかないで手足をかく一頭足人のようだ
		13	ダットくんとピョンコちゃん	12	3.3	かおと体らしいものをかく

Gちゃんの記録 女

昭和42年4月27日開始

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
一歳半 なぐりがき期		1	丸の線がき	4	歳月 1.6	手あたり次第かく、人の名をよび、動物の名をよぶ、独り歩き出来るし走る。





発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
一歳半 なぐりがき期	ぬたくりをたのしむ時期	2	丸の線がき	5	1.7	段階はのぼれるがおりれない 単語は豊富だが十分会話出来ない、戸外運動は活発、色の区別出来る、絵の説明も大体する 赤色きらう
		3	線がき	6	1.8	声を出しながら描く、単語は豊富でTVのまねをする、庭のブランコのみ出来る、おしっこおしえる
		4	"	7	1.9	動物の絵に興味あり。描くことに対して親に依頼す、積木、砂場にて大いに遊ぶ
		5	"	8	1.10	手を運動感覚のように動かし、紙一ぱいに描く
		6	線がき直線も入る	9	1.11	今までに赤いクレヨンがあつたという恐怖心があった。線でかいてぬりつぶす様にもなった。戸外運動多い、ボール投げ出来る。反抗心つよい
		7	"	10	2.0	描いたものに名

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
一歳半 なぐりがき期	ぬたくりをたのしむ時期	8	線がき直線も入る	11	2.1	をつける、大根人参、飛行機だよ、むずかしい形は親にかかせる、会話殆んどわかる 描きなぐりに今までとちがった激しさがある、動く玩具に興味あり、黒板に絵をかかせる
		9	"	12	2.1	顔をかくことが多い、これもその一つ、目はどうか、ほめない不満、独占欲つよい
		10	おかあさん	1	2.3	形らしいものが初めてかけた、文字らしいものまねで名前だよ おなかは赤ちゃんだよレントゲン描法
		11	おとうさん	2	2.4	記憶力がよく、人の名前をよくおぼえる、絵本に興味あり
		12	オバQ	3	2.5	「頭のとっぺんに毛が3本」とうたいながらかく、得意に説明する、強情な処あり、反抗期か
		13		4	2.6	色の名前わかる、

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
二歳半 象 徴 期	ぬったくりした後で言葉をつける時期	14	うさぎ	5	2.7	クレヨンや積木の後片付出来るうたいながら描く、外でも得意になってうたう親におしえてもらう、玩具をよくつかって外遊び多い
		15	おとうさんミツちゃんかいものへ	6	2.8	お母さんと一しょの歌をうたうハサミで紙をきり、壁にはって名前をつける、連想つよい
		16	橋	7	2.9	目で見たものをすぐ描こうとするが形がきまらない、色の名もおぼえ、折紙に興味わき、どんどん折る
		17	月、チューリップ 鯉のぼり 蝶	8	2.10	説明して描くが形にならない、戸外遊び多く、クレヨン持たない、真似が得意でどんどん覚える、行動範囲広く近所の家遊ぶ、昨日あったこと話せるようになった
		18	コックさん	9	2.11	独言いいながら描く、特に信号機に興味をもつ

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
三歳 命 名 期	形を描いて後で名前をつけていく時期	19	なし (くだもの)	10	3.0	友達と一緒に遊ぶ、折紙も折る満3歳で期待するがあまり変化なし3人は3つ5人は5つをおぼえる、TVを30分位みる
		20	ラーメン屋さん	11	3.1	人をよくかく、よこにかいたのは文字、寒くなったので内の中で絵本をみたりTVや玩具遊びをする、妹は5カ月になった
		21	私と妹	12	3.2	線がきのあと色ぬりおぼえる、鉄をつかいきりぬき、のりづけ作業出来る。きせかえ、ぬり絵好き
		22	私と花 兎、亀 月、蝶	1	3.3	カルタの文を暗記、文字20位よめる、10まで正しく数えてぬり絵、きせかえ人形、色紙の順にほしがるTV90分位みる
		23	おともだち	2	3.4	折紙をやや複雑に、鉄使用器用だ、パズルを好み、ぬりえ10





発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
三歳 命 名 期	形を描いて後で名前をつけていく時期	24	およめさん	3	3.5	分位描く。記憶力強くなり、妹に乱暴する 絵の中のベール ネックレス、花束を説明する、大人との会話殆ど理解出来る、然し一度でいうことかかない— 反抗期のつづきか
		25	おかあさん	4	3.6	お友達とよく遊ぶ。絵本はよくみるが、カルタの文字にとらわれて読みは困難のようだ
		26	おとうさんと自動車	5	3.7	おとうさんが帰ってきて！自動車を車庫に入れる前だよ」と説明する。バックミラー、アンテナをよくかいた鉛筆をつかっていた。ねこの毛なみや、蝶々の羽のもようすばらしい
		27	私とねこと蝶と	6	3.8	動物をよく描く素晴らしい特長だ 戸外遊びが多い
		29	私が遊んでいる	8	3.10	お友達は幼稚園で私は独りで遊ぶ、花でママご

発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
三歳 命 名 期	形を描いて後で名前をつけていく時期	30	ライオンと鳥	9	3.11	とする。花は咲き蝶がとぶ、黒い蝶のもよう大切にかく ライオンと鳥は坐っているの 足は見えないと説明する、ライオンは寒いので服をさせた。切抜き折紙遊びが多い
		31	ひまわり月、花、蝶	10	4.0	一つ一つ順々に描く、みちの立っている処をかいたといっても受け付けない、文字はまねてかく 11.12月分は行不明
		32	お日さま	1	4.3	雑誌の付録の工作を喜んでする これもふるくの真似でつくったもの、文字がよくよめるようになる
四歳 カ タ ロ グ 期	図記号で思いつくままならべて描いていく時期	33	お友達かんちゃん	2	4.4	かんちゃんの髪の毛や犬の毛に興味があつて丁寧にかく、大人との会話自由、絵本もあっさり読む、行動範囲広くどんどん遠くへいく



発達段階	特色	作品番号	画題	作画月	年齢	作品解説 行動記録
四歳 カタログ期	図記号で思いつくままならべて描いていく時期	34	私のさんば	3	歳月 4.5	外遊びが好きで直ぐ外に出る。妹のために絵もおちつかない。鉋器用で動物など巧みにきる
		35	りんごの木と私	4	4.6	絵本をよむことが好きで、この絵もその影響があるようだ。平かな片かな始ど読める、20まで数えるがかくこと不十分
		36	犬と私	5	4.7	見たものを直ぐ絵にかく力がついてきた。絵本も短時間で読む妹と一緒に遊ぶ

研究調査してみて

上記の表の発達段階を1つとってみても、その区分やよび名が細分化され、昭和30年代と40年代とで確かに10年の開きがあり、迫養を感じさせる。私は現在、広く公認されている段階をつかって一応の尺度として、4人の子どもの継続観察と比較対照し、その接点はどこか、その共通しているものは何かということ进行分析し、実証的に解明していきたい。そして出来れば幼児指導等の手がかりを確固としたものにしたい。

III 幼児の描画指導のあり方

幼児の造形指導の基礎的知識として、下記の三つを理解し、これらのものを手がかりにして幼児の表現の世界を正しく知り、幼児がもっている心の中をみとってやり創造力をのばしていかなければならない。

1. 発達段階
2. 図記号

3. 表現型

1. 描画の発達段階については、年齢別にみると大よそ下記のようにいわれている。

2歳児—鉛画期

手の運動、目たらきがすすんで、自由な線がきのあそびができるようになる時期

3歳児—象徴期

おしゃべりしながら絵をかいたり、物をつくったりする。基礎的な感性的認識の時期で、体ごと積極的にぶつかって覚える時期です。

4歳児—前図式期(カタログ期)

概念形成期で、自分の体験を図や記号を用いて、どんどん描く時期、然し、目でみて確かめる方向への時期に入る。

5歳児—図式期


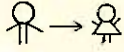

児童期の入口、描画も図式期の入口で、上下左右の関係を描き、時間空間もはっきりわかり、言語も完全に自分の主張も明確にいえるし、幼児期中、最も活動的で創造的な時代である。

主体的な個性のほじみ出る芽を大事にして、ぐんぐん育てていきたい時期である。

IIの項を参照のこと

2. 図記号

幼児は図形と言葉とのからみあいをおして、自分の表現を高めていくのだが、4.5歳児あたりでこの図式が概念的な形で定着すると、それを繰返して描くようになり、記号で単純化された家、花、人などが表現されることが多い、それを図記号といって、数は多くても15位で、基本的なものは6つ位である。

- 基底線—天と地のわけ方、空間のひろがりや地面を意味する。
- 家—台形の家に柱が2本という形 
- 人—型—円形から直線の手足がでている
頭足人 
- 木—外の一一般的な木を意味する、又屋外を意味する。 



- 花 - チューリップ型の花 - きれいなものを意味する。



- 太陽 - 円から放射線を出す。 - 広い空を意味する



以上のほかに、のりもの - トラック、でんしゃがあり動物 - ライオン、ゾウ、キリン、というものを特徴をつかんで図記号化することが多い。

これらは特徴的に表現することが多いし又作品としても優れたものがかかされている。

3. 表現型

幼児の描画にはこの外、独特なやり方を工夫して描くいくつかの表現型(パターン)がある。

イ、同心円で動き、組みたてをあらわす時期、 - 3歳位のおしやべりの時期、○の図形を意識する、 - ママであったり、ブーブーであったりする。

外から中に円をかいて意味づける。ママがリンゴを持って歩いているのというのは○に○をつけて表わす。

○の中に○をかく。

- ロ、円から放射線を出す時期、 - 3.4歳位の子
パパが歩いている。パパであり、花である。



ハ、十字方向を組みかてる時期、 - 4歳前後

円や楕円形のほかに平行線やジグザグ線をかき入れて上下の方向、左右の方向を表わすようになる。初期の頭足人はその典型的なもの、十字に直角する構図は幼児期の主流である。

表現型の種類

イ、並列表現 - 基底線の上に横にならべて描く

上下左右のことがらを認識し理解しはじめた

ロ、拡大表現 - 情緒的に執着をもっているものを大きくかく、 - 情的タイプ

興味が深くて視覚的に刺激がつよいもの

ハ、レントゲン透視画で内部が見えるようにかく、 - 知ン表現 的タイプ

知的興味を計るモノサシになる

ニ、視覚移動 - 展開表現や、同時表現、つみ木型遠近表の表現 (基底線を何本も引く)

ホ、アニイズ - 自然の物象に生命あるものとして目、口、ム型顔をつける。除々に指導していく、とりのぞく

ヘ、抹殺型 - かいたものをぬりつぶしてしまう。

情緒的な危機の表現、 - 自信喪失、不安原因をしらべてとりのぞいてやること。

IV 幼児の造形活動

1. 戦後の我が国の美術教育は自由解放というスローガンの下に、個性の尊重が重要視されるようになり、それは同時に子どもの自主性を尊重し、子どもの潜在的にもっている能力を可能なかぎり伸ばしてやるうという考え方が基礎になっている。然しそこには子どもの我ままと気まますを本当の個性と混同させる危険性もあった。種々の試みのうちに、自由に描くとは何か、個性を伸ばすとはどうすることかという問題をもっと掘下げて考えてみようということになり、子どもをもう一度、科学的な視点から分析して実証的に研究を深めることに力を入れていった。

子ども個性というものは自然発生的に生れながらにあるというのではなく、どんなにすぐれた資質でも発達段階をふまえた栄養を与えていかなければ成長は足ぶみません。、個性を一層みがくには集団の中での抵抗や協調をとおしてこそ自分を発見し自分の役割を意識していくものです。

2. 幼児の造形活動の領域

幼児の表現活動の領域を経験から観察へ、それから総合して想像へというみちすじから三つの領域を考えた。

a. 経験による表現 - 生活経験を土台にして描く、作る領域

自己表現は記憶に鮮明な経験ほど視覚的に再現できる。一般的な図式期の概念形成期の幼児には一私は何々をしたいという具体的な経験におとしてから表現させることが大切だ

例一私がおつかいをどのようにしたか

私がおつかいにいつて何々をか

ってきた

具体的にも
っていく

そのためには

話し合い→誘導刺激する→かきたい充実感→さあ、かくぞ

ひとりひとりの子どもをみつめ、ひとりひとりの性格をとらえ描画の上にはくはつさせ、はっさんさせる。

テーマの系列としては

- ・対人関係のテーマ
- ・周囲の事物のテーマ
- ・行事やあそびのテーマ

b. 観察による表現

ものちがいを比較し自分の目でとらえる一色彩、形、質

正しくかくよりも、正しく自分と物とのかかわりあいの態度でそこから発見されるものを大事にしたい

- ・単純から複雑なものえ
- ・珍しい、おもしろい、刺激的なものえ

は
し
ら

- 視覚を主にした観察
- さわつたりのぼつたり行動を主にした観察
- ものにたとえて連想させて比喩による観察

c. 想像による表現

- ① 直接経験から想像させていく、一生活経験を土台にして豊かな想像力を養う。
- ② 民話、物語、童話から想像させていくもの

写真やモデルをつかって視覚的場面をつかめるように、ことばでかくことを視覚的想像へ

1人1人の具体的なものを引き出すように

V むすび

絵の教育は幼児の心の奥底にひそむ造形的な表現意欲を高めると共に、それを十分に満足させるから、造形的表現や見的情操の基礎をつちかかっていく点にそのねらいがあるその表現活動の発想を二つにまとめてみた

1. おどろきから表現へ→創造へ
2. みることから発見へ→認識へ

この二つの活動領域が協同してからみあって幼児の心を豊かなものとし、私づくり即ち主体的な独立心をもった子どもに育ってほしい。造形活動の原点は私である。

生き生きした元気のある私の造形作品には、精神の自由さがあり、緊張さ、誠実さ、知識の量や認識の深さがあることなくみだされているものです。

さいごに

○望ましい教師像

1. 人間的感情のこまやかさ 中核であり原点である
2. 創造的指導者
3. 創造のよるこびを心から感じとれる
4. 幼児作品の特質を理解する





小学校の教育

小学校の教育 小学校の教育 小学校の教育 小学校の教育 小学校の教育

小学校



小学校の組織図

学年	学級	児童数	教員数
1年	1学級	25人	1名
2年	1学級	25人	1名
3年	1学級	25人	1名
4年	1学級	25人	1名
5年	1学級	25人	1名
6年	1学級	25人	1名
合計	6学級	150人	6名

「小学校の教育」は、児童の心身の発達を促し、基礎的な学力を養うことにある。この教育は、児童の生活と密着したものである。児童の生活の中で、自然に学習の機会が生まれるように工夫されている。また、児童の個性を尊重し、それぞれの能力を伸ばすことが目的である。この教育は、児童の将来の人生に大きな影響を与えるものである。したがって、小学校の教育は、社会にとって非常に重要な役割を果たしている。また、児童の生活の中で、自然に学習の機会が生まれるように工夫されている。また、児童の個性を尊重し、それぞれの能力を伸ばすことが目的である。この教育は、児童の将来の人生に大きな影響を与えるものである。したがって、小学校の教育は、社会にとって非常に重要な役割を果たしている。

小学校 絵画 領域

低学年 提言者 脇神玲子 (東町小)
 中学年 提言者 新飯田登 (北光小)

はじめに

「豊かに生きる子どもの造形能力をどう育てるか」という大テーマを基盤に低学年では「あらかずことの喜びをもつ子どもを育てるための指導」、中学年では「たしかかなものを創る子どもを育てるための指導」、高学年では「自分の願いをゆたかに表わす子どもを育てる指導」とおさえている。このねらいの系統は、旭川市美術・図工部編年間指導計画に具体化されているところであるが、私たちは、さらに具体的な授業を通してどう主題にせまるかを考え実践してきた。

絵画の表現によらず、図工科全領域にわたり児童に「何のように与えたらよいか」、「その目あてとするものは何か」を考えなければならないことはいうまでもないが、始めに何をねらいとするかは、図工科の目標と児童の実態や発達段階等のからみ合いの中から題材を選ぶことになると思う。ここで題材のもつ意味を児童の心に深く強く映し出させることが必要となってくる。そこで当然の要求として発想が重視され、なんらかの手だてにより児童の感情がよび起こされなくては、生きた絵にはならないのではないかと考える。

児童の感動をよび起こす手段としては、いろいろな方法があると思うが、特に大切なこととして、その題材の設定と、それをどんな方法で具体化していくかにしぼられてくると思う。

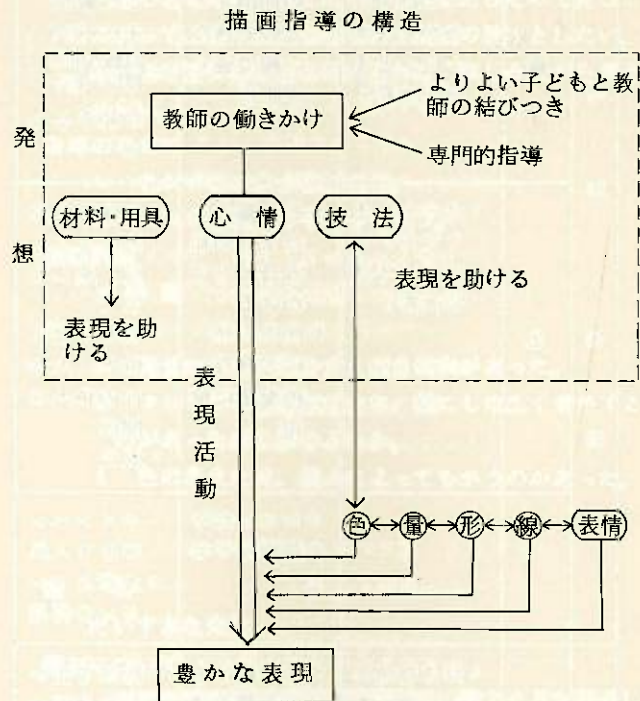
わたしたち描画領域研究部では、下図のような構造図をえがいてみた。

低学年では、おもに学級のたがやし（教師と子どもの結びつきを基盤として）の上に立って発想段階のイメージの焦点化をはかるため、発想→題材→方法（五感に訴える）材料用具の研究を進め、中学年では低学年でとらえたものの上になたってイメージの焦点化を助ける大きな働きとしての技法を側面からみつめてみた。

ここでは、技法の各分野はすべて相互的に働いていることは事実ではあるが、あるときは「色」に重点をしぼり、又ある題材では「線」に重点をしぼってみるといったように、それぞれの題材に技法のねらいの重点を計画的に置いて確めて

みたのである。

それらの結果は、つぎの系統表および指導実例の中で具体的に説明してみよう。



小学校絵画指導の系統表

		小 1 年	小 2 年	小 3 年
ね ら い	観察表現	好きなように思い出してかく	見てきてかける	中心になるものをしっかりかける
	生活体験の表現	自分の生活がかける	自分や自分の家族の生活がかける	学級の中での活動をかける
	構想による表現	聞いたお話から好きなようにかく	好きなお話やできごとがかける	お話の感動した場面や思っていることをかける

		小 1 年	小 2 年	小 3 年
材 料 技 法	線	<ul style="list-style-type: none"> 太い線や点でのびのびとかく。(クレヨンと不透明水彩) 	<ul style="list-style-type: none"> クレヨンその他消すことのできない線で強く大胆に 	<ul style="list-style-type: none"> 彩色を予想した線描 太く〜細く 直線〜曲線 長い〜短い の組み合わせ
	色	<ul style="list-style-type: none"> 色のかたまりでおいていく(不透明水彩) 	<ul style="list-style-type: none"> 色と線とかたまりの組み合わせでかける 明るい色・にごらない色を主に使用 	<ul style="list-style-type: none"> 対象物の色あいをよく見、感じた色で もとになる色と、となりの色との関係 混色
指 導 の 要 素		<ul style="list-style-type: none"> 好きな色のクレヨンをえらべる 水彩えのぐは色をといたもので使う 自由にのびのびと表現できる 色のつけた筆の始末ができる 余白をぬらせない 	<ul style="list-style-type: none"> その場にあった色のクレヨンをえらべる 水彩えのぐの初歩的技法 ◎よく見えるもの、目立つものをはっきりかく 清色のだし方 水彩による面の処理 ベースラインの意識 	<ul style="list-style-type: none"> 線描を生かした透明水彩の初歩的描法 パレット・画板の始末 画板の出し方 ◎印象のある対象を中心にしっかりととらえる 色相のくみあわせ 物の高低・上下の把握 無理に全面はぬらさない
			<ul style="list-style-type: none"> クレヨンだけの描画はやめる 	<ul style="list-style-type: none"> サインペンのとり入れ 水彩とクレヨンの併用

		小 4 年	小 5 年	小 6 年
ね ら い	観察表現	まわりのようすもみてかける	主題にあったものをよく見て自分のくふうでかける	自分の意図でよく見、くふうしてかける
	生活体験の表現	自分のすむ地域の人の生活がかける	身近な生産の姿がかける	地域の産業や社会組織の構造がかける
	構想による表現	お話の場面や状況、自分の考えがかける	物語の心になってその雰囲気、また自分の考えをうまく表わしてかける	物語や空想のテーマを集団でまた個人でねりあってかける
材 料 技 法	線	<ul style="list-style-type: none"> 生きた線で精密にかく大づかみでかく 	<ul style="list-style-type: none"> 質感の表現 かいたり消したりした線でフォルムを クロッキー 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の線描を有機的に総合して強い線・弱い線のくふう 精密な線
	色	<ul style="list-style-type: none"> 透明描法と不透明描法の組み合わせ 重ねて色をおく 	<ul style="list-style-type: none"> 透明描法と不透明描法の組み合わせ 点描のとり入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 色相や明度の対比 彩度の利用
指 導 の 要 素		<ul style="list-style-type: none"> ◎対象物だけでなく周りとの関係をよく観察させる 物の奥行き凹凸の感じの表現 くふうされた色の組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎遠近感の表現 ◎ふくらみ・明暗の追求 速く、印象的にとらえる工夫 主題と対象物及び描法のくふう 単純化のと 	<ul style="list-style-type: none"> ◎画面全体を自分の意図にもとづいてしっかり構成する テーマを生かすにはどんな表現をとるか 明暗・遠近・質感・量感

	小 4 年	小 5 年	小 6 年
指 導 の 要 素	<ul style="list-style-type: none"> ○色感のふかまり ○線描のぬりかえにならぬくふう ○できるだけ画面全体の構成 ○小集団学習による構想や技法の積みあげ ※紙しばいもとりに入れる	り入れ ※絵巻物もとりに入れる	などの適確な表現 ○微視的把握になれすぎて全体的把握を失ったり、客観性にまけて意図や主観を失ったりしなくふう



題 材

いろいろな色

題材について

色の名まえをおぼえたり、色数をあらためて見ることによって、色への関心をもたせ表現の助けとしたい。無感動な線引きにならないように、楽しみながら覚えさせたい。

指導の目あて

1. 色かずを、多く使わせる。
2. クレヨンを正しくもって使う。

指導計画

1 時間

反 省

1. 児童にすきな色を多く使う傾向があった。
2. クレヨンの巻き紙をとり、横にし巾広く着色するものがあつたがこれでよいか。
3. 色の名まえは、個人によってちがうのがあつた。

低学年提言 <小1>

題 材

すきな絵

題材について

入学して始めてかく絵である。新入児童だからといって、教師の目に映る児童はほぼ同じに見えても、個々の児童の絵に対する関心も表現力も同一であるはずがない。一体、この児童たちは何に関心をもっているのだろうか。そして、どんな方法で表現するのだろうか。

この題材は、こういった教師の期待と不安を確かめるためのものであると思われるのだ。

指導の目あて

1. 紙いっぱい、大きくのびのびかく。
2. 色かずを多く使わせる。

指導計画

1 時間

反 省

1. 児童になげかけるひとことが、適当だったか。
2. 画用紙の大きさや、素材はこれでよいか。
3. 友だちの作品への関心のもたせ方はどのようにすべきか。
4. 表現された絵のなかに、概念的な人物表現をみた。

題 材

だいすきな先生

題材について

学校生活を不安と期待のうちに、約2ヶ月を経過した。片時もじっとしてられない子どもも、自己閉鎖的で消極的な子どもも、自分をとりまく環境に目を向ける心のゆとりもでてきていると思われる。

この時期に当たり、受け持ちの先生を題材としてかかせることは、担任教師を、よりいっそう身近にし、親しさを増すことが予想されるのである。具体的に先生をみつめ、確かなイメージをもたせ、のびのびかかせたいと思う。

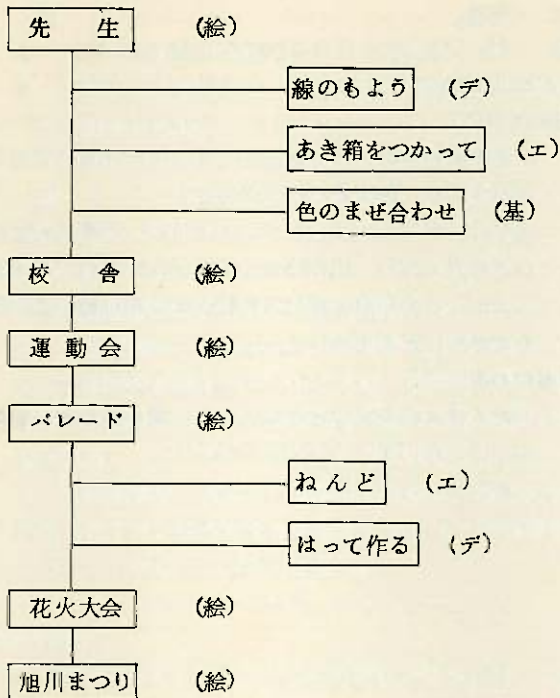
指導のめあて

1. 対象を自分の目でたしかめ、概念的なとらえ方をくだきたい。
2. 教師と児童の豊かな結びつきを大切にしたい。

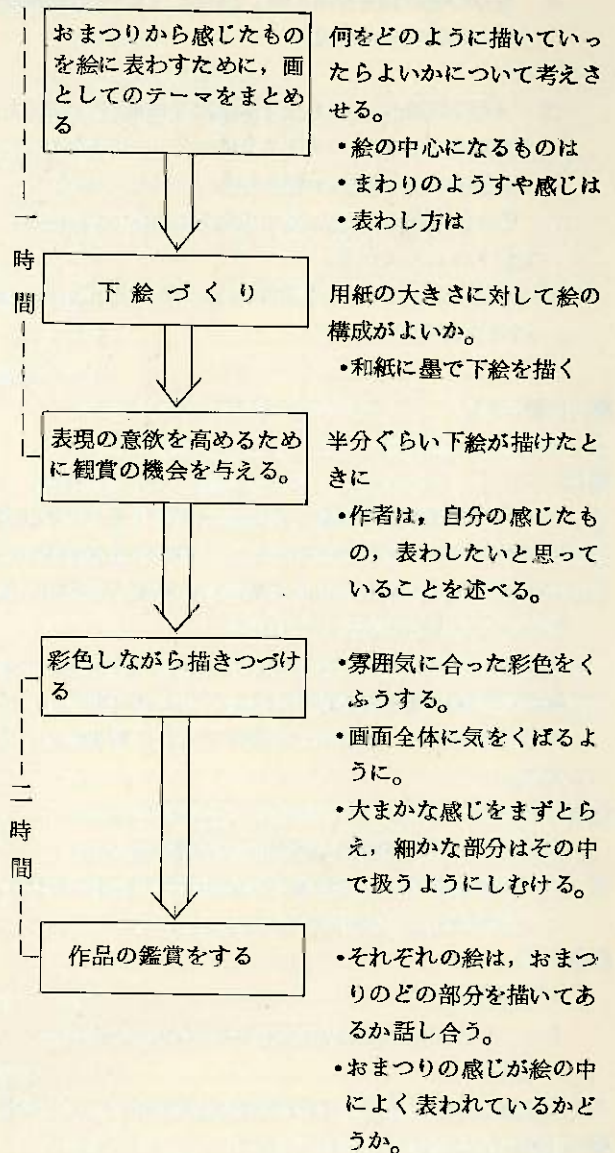
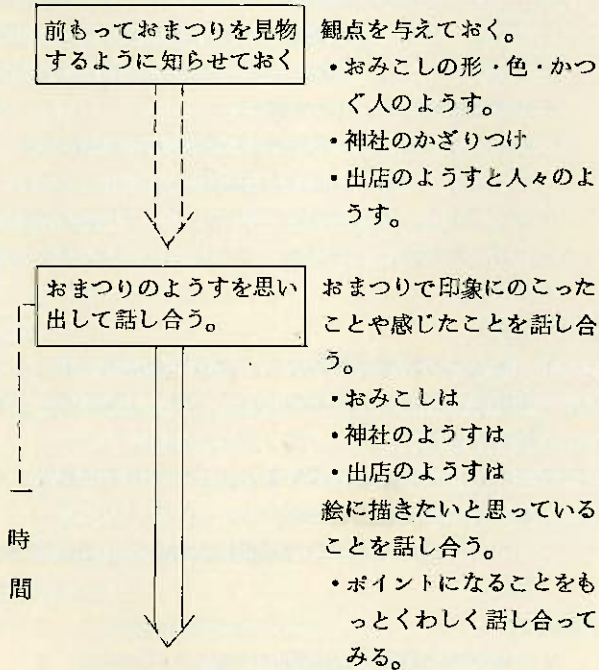
指導計画

2 時間

1. 心情にうったえ、いつ、どこで、なにをしているかがわかるように、概念的なとらえのないようにかく。
2. 雰囲気をもりあげる着色のくふうをする。



○ 題材「旭川まつり」の指導計画



小学校版画領域

低学年 提言 川島 信也(春光小)
 高学年 提言 古屋 栄隆(大成小)

小版



精選24に 巻 言 ち、下 24/

領域のおさえ

版画の領域は絵画的な要素を大部分しめながらも版画としての独自の要素がある。表現材料がちがうこと、単純化などの操作を通して画面構成をしっかり決めてかかるなどは充分におさえておかなければならない。またそのための材料、技法、用具などについての知識や理解が充分であることなどは、ぜひおさえておかなければならない。これらは自分なりの発想を具現化する制作の過程で一つ一つとりだして指導することによって能力化する必要があるものと考えている。

旭川の版画領域の指導の系統は別表の通りであるが、これはあくまでもめやすであって各学校ともあてはまるものではない。それぞれの学校で工夫された独自の指導体系もあっていいはずである。ただこの系統表を作成した時点で願いは小学校6年間にいろいろなちがった版形式の版画を経験させることによって、自分の願っていることを適切に表現する能力をつけさせたいと考えたのである。

以上の観点から学年別の版画領域のおさえをぬきだしてみると、

低学年では、表現方法の巾を広げさせるねらいで、スタンピング、フロッタージュの方法を知り、生活の中から楽しみながら自分なりにももしろい形を発見させながら、この領域にふみこませ、各種用紙、布などを使った、おうとつによる絵画的表現をさせることにより版画領域に親しませるのである。

中学年では、凸版、凹版の原理と表現方法をつかまえさせる意味で、3年では、ゴム版、4年では、板紙版画の凹版形式を材料として扱い、彫刻刀、プレス機などの使い方を知り刷って出来た時の感じを思いうかべて見通しをたて、意図的にまとまりのある空間を作らせることをねらいとしている。

高学年では、凸版、凹版の原理を知った上で、個々の児童が、個性的な表現を計画的に画面構成を考えながら制作する態度を養うことを主眼としている。指導の要素としては、4年生で指導する線の性質、構図のとり方、彫りの技術などを深めて、線彫りから面彫りへと発展させ、陽刻による表現にたれさせ、白黒のおもしろさに注意をむけさせることをねらいとしている。

以上簡単に旭川での版画領域のおさえを述べたが、これはあくまでも絵画の中での版画の分野として見たものであり、版画領域の窮極のねらいは、絵画と同一のものでなければならぬと考えている。

図工科の各領域はそれぞれ独立したものではなく互いにつながりあいを持つものである。この領域で学びとった造形能力が、デザインや彫塑の領域に発展していったり絵画の領域にもどっていったりするなどの応用度の高い造形能力を身につけさせることが重要なものとなろうし、これは、本大会のテーマである「ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか」にせまるこの領域での一つの視点でもあると考えられる。

小学校版画指導の系統

	1 年	2 年	3 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中から、楽しみながら束縛を受けずにおもしろい形を発見する。 表現方法の巾を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことや感じたことを喜びをもって表現する。 おうとつによる絵画表現。 	<ul style="list-style-type: none"> 刷ってできたときの感じを思いうかべてやや計画的に表現する。 凸版のつくり方の理解。
材 料 ・ 技	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">木の葉、マッチ箱～スタンピング</div> コイン、他～フロッタージュ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">各種用紙～紙版画</div> ガラス、他～モノタイプ 石こう板～石こう版画	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ゴム版～凸版画</div> 画用紙、他～紙版画 板紙～ドライポイント
法	<ul style="list-style-type: none"> うつし方の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 自然発生的で独自の表現技術。 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀の安全な使い方。 目的に応じた使用法。
指 導 の 要 素	<ul style="list-style-type: none"> 大小の配列。 くりかえし。 いろいろなもの活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な分割。 違いのものから順にはる。 物と物との関係。 	<ul style="list-style-type: none"> 陰刻による表現。 白黒の面白さ。 線の性質。

小学校版画指導の系統

	4 年	5 年	6 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをたてて、意図的にまとまりのある空間を作る。 ○おう版の原理と表現法をつかまえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を吟味して計画的に表現する。 ○画面構成を考えながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を吟味して計画的に表現する。 ○画面構成を考えながら進める。
材	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">板紙, 他 ～ドライポイント</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">版木, 他 ～木版画</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">版木, 他 ～木版画</div>
料 ・ 技	版木, 他 ～木版画 石こう板 ～石こう版画	セルロイド版 ～ドライポイント 粘土板 ～立体版画	木版共同製作 セルロイド版 ～ドライポイント うす紙 ～ステンシル
法	<ul style="list-style-type: none"> ○エッチングブレスの使用法 	<ul style="list-style-type: none"> ○彫刻刀の効果的な使用法, 刷る技術。 	<ul style="list-style-type: none"> ○材質を効果的に生かす技術方法。
指 導 の 要 素	<ul style="list-style-type: none"> ○線の性質。 ○軽重線。 ○構図のとり方。 ○刷りの技術。 	<ul style="list-style-type: none"> ○線ぼりから面ぼりへと発展。 ○陽刻による表現。 ○白黒の面白さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○線の動勢。 ○質感のとらえ。 ○白黒のおもしろさ。 ○特徴的にとらえる。

たり、白ノートに押ししたりして子どもたちは、はしゃぎまわっている。このような経験を生かして、身の廻りにあるいろいろなものを使い、型押しあそびをさせながら、版画に対する初歩的な理解と、新しい技法の発見と造形の喜びを味あわせる。

○題材の目あて

1. 表現の方法には、かくだけでなくいろいろな方法にあることに気づかせる。
2. 絵や、もようを型押しして作る。
3. いろいろなものに水絵の具やスタンプインキをつけ、紙に押しあそぶ。

○本題材の指導計画 1時間

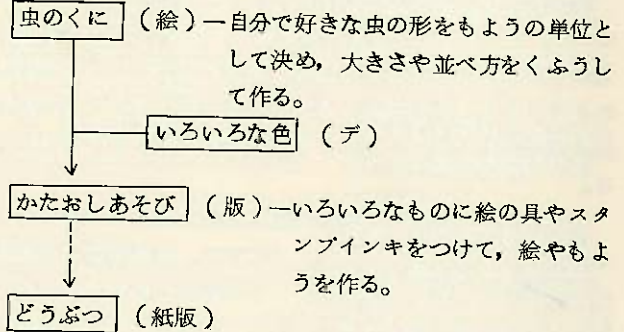
- ・ものもっている形や材質感をうまく生かすようにする。
..... 本時

○本時のながれ

○材料について

- ・児童—鉛筆、びんのふた、くぎ、マッチ箱、木片のこぐち等、新聞紙、前かけ、手ふき。
- ・教師—水絵の具をガーゼにしみこませ皿の上におく、いろいろな色のスタンプ台、わら半紙。

○全体の指導計画



低学年提言

かたおしあそび〈小1〉

○題 材

○題材について

机の上にゴム印とスタンプ台をおいておくと、手におし

小学校版画指導の系統

	4 年	5 年	6 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをたてて、意図的にまとまりのある空間を作る。 おう版の原理と表現法をつかまえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活を吟味して計画的個性的に表現する。 画面構成を考えながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活を吟味して計画的個性的に表現する。 画面構成を考えながら進める。
材	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">板紙, 他 ～ドライポイント</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">版木, 他 ～木版画</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">版木, 他 ～木版画</div>
料 ・ 技	版木, 他 ～木版画 石こう板 ～石こう版画	セルロイド版 ～ドライポイント 粘土板 ～立体版画	木版共同製作 セルロイド版 ～ドライポイント うす紙 ～ステンシル
法	<ul style="list-style-type: none"> エッチングプレスの使用法 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀の効果的な使用法, 刷る技術。 	<ul style="list-style-type: none"> 材質を効果的に生かす技術方法。
指 導 の 要 素	<ul style="list-style-type: none"> 線の性質。 軽重線。 構図のとり方。 刷りの技術。 	<ul style="list-style-type: none"> 線ぼりから面ぼりへと発展。 陽刻による表現。 白黒の面白さ。 	<ul style="list-style-type: none"> 線の動勢。 質感のとらえ。 白黒のおもしろさ。 特徴的にとらえる。

低学年提言

かたおしあそび〈小1〉

○題 材

○題材について

机の上にゴム印とスタンプ台をおいておくと、手におし

たり、白ノートに押ししたりして子どもたちは、はしぎまわっている。このような経験を生かして、身の廻りにあるいろいろなものを使い、型押しあそびをさせながら、版画に対する初歩的な理解と、新しい技法の発見と造形の喜びを味あわせる。

○題材の目あて

1. 表現の方法には、かくだけでなくいろいろな方法にあることに気づかせる。
2. 絵や、もようを型押しで作る。
3. いろいろなものに水彩の具やスタンプインキをつけ、紙に押しあそぶ。

○本題材の指導計画 1時間

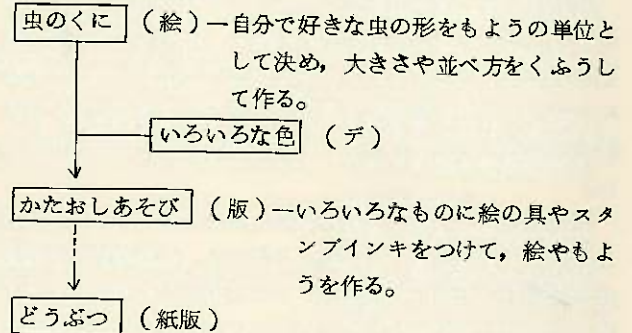
- ・ものもっている形や材質感をうまく生かすようにする。
..... 本時

○本時のながれ

○材料について

- ・児童—鉛筆、びんのふた、くぎ、マッチ箱、木片のこぐち等、新聞紙、前かけ、手ふき。
- ・教師—水彩の具をガーゼにしみこませ皿の上におく、いろいろな色のスタンプ台、わら半紙。

○全体の指導計画



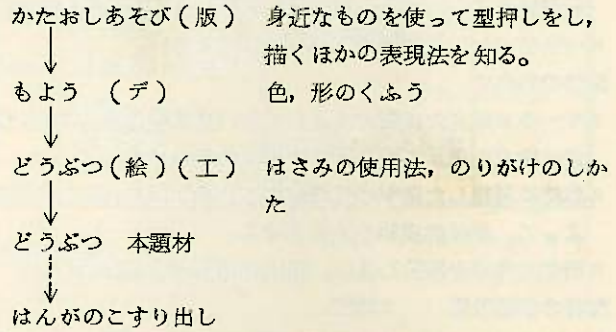


教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○用意してきた材料を机の上に並べさせる。 ○巡視しながら、励ましのことばをかけつつ、材料の交換や不足のものを補充する。 ○参考作品を見ながら話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・どれがすきか。 ・何をどのように押して作ったものか。 ○自分は何を作りたいか考えさせる。 ○材料に水絵の具やスタンプインキをつけて押させる。 ○巡視して、ほめたり、助言を与えながら意欲の持続をはかる。 ○できあがった作品を見ながら話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・どの押し方がくふうしてあるか。 ・自分の好きなのはどれか。 ○次時予告 ○あとかたづけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○鉛筆、びんのふた、マッパチ箱等持ってきたものを並べる。 ○どの材料をつかって押したのか話し合う。 ○作りたいものが決ったら、好きな材料を使って押す。 ○どうして好きか話しができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○押す時は紙の下に新聞紙を重ねておかせる。 ○水絵の具やスタンプ台は共同で使うのであるから、よごさないように注意する。 ○なるべく自分の思ったとおり、自由にのびのびと押させる。

- 紙の重ねによって、形ができることを知り、うしろのものからはって作る技能を身につけさせたい。
 - きる、はるなど初歩的な技法を身につけさせたい。
 - 題材の指導計画（3時間）
 - 参考作品を見ながら作り方を説明する。 1時間
 - 動物園の情景を考えて描き、切りとらせはらせる。本時 1時間
 - 印刷する。 1時間
- 本時のめあて

凹凸によって線が出ることをたしかめさせ台紙に遠いものからはらせる。

全体の計画



	教師の働きかけ	児童の活動	留意点
導入	前時の復習と本時のめあてを話し合う。		
展開	教師の作った原板を実際にクレヨンでこすり出し、凹凸をたしかめる。版を作らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○頭、胴、手、足と部分を切り取りそれを組立てることを知る。 ○線ができることを知る。 ○自分の作りたいものを描き切りとらせる。 ○台紙にはる。各自たしかめる。 ○くふうしたところ、むずかしかったところを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をおこさせる。 はさみの使い方 しっかりはらせる。 はっきりしない時は更にはる。
まとめ	各自に凹凸をたしかめさせる。できた作品を見て話し合わせる。		
	次時予告		

題材 どうぶつ（紙版画）＜小1＞

題材について

低学年の児童は動物園が好きで殆んどの子は動物園に行った経験がある。今回はそのようすを画用紙を切り台紙にはってあそびながら楽しく表現させ、描画にない版画独特の美しさを味わわせ、初歩的技能を身につけさせたい。

題材のめあて

○紙版画の作り方を知らせ、刷り方をくふうしながら版画をつくる楽しさを味わわせる。



教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
<ul style="list-style-type: none"> 用意してきた材料を机の上に並べさせる。 巡視しながら、励ましのことばをかけつつ、材料の交換や不足のものを補充する。 参考作品を見ながら話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> どれがすきか。 何をどのように押して作ったものか。 自分は何を作りたいか考えさせる。 材料に水絵の具やスタンプインキをつけて押させる。 巡視して、ほめたり、助言を与えながら意欲の持続をはかる。 できあがった作品を見ながら話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> どの押し方がくふうしてあるか。 自分の好きなのはどれか。 次時予告 あとかたづけ 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆、びんのふた、マッヂ箱等持ってきたものを並べる。 どの材料をつかって押したのか話し合う。 作りたいものが決ったら、好きな材料を使って押す。 どうして好きか話しができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 押す時は紙の下に新聞紙を重ねておかせる。 水絵の具やスタンプ台は共同で使うのであるから、よごさないように注意する。 なるべく自分の思ったとおり、自由にのびのびと押させる。

題材 どうぶつ(紙版画) <小1>

題材について

低学年の児童は動物園が好きで殆んどの子は動物園に行った経験がある。今回はそのようすを画用紙を切り台紙にはってあそびながら楽しく表現させ、描画にない版画独特の美しさを味わわせ、初歩的技能を身につけさせたい。

題材のめあて

○紙版画の作り方を知らせ、刷り方をくふうしながら版画をつくる楽しさを味わわせる。

○紙の重ねによって、形ができることを知り、うしろのものからはって作る技能を身につけさせたい。

○きる、はるなど初歩的な技法を身につけさせたい。

○題材の指導計画(3時間)

○参考作品を見ながら作り方を説明する。 1時間

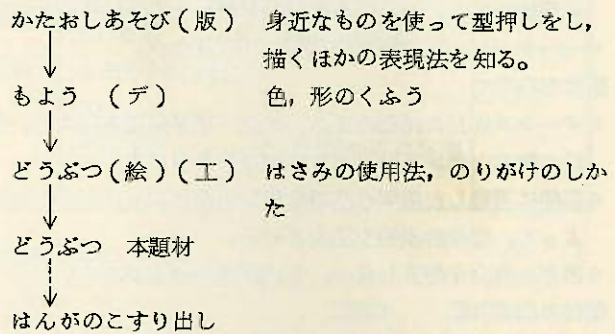
○動物園の情景を考えて描き、切りとらせはらせる。本時 1時間

○印刷する。

本時のめあて

凹凸によって線が出ることをたしかめさせ台紙に遠いものからはらせる。

全体の計画



	教師の働きかけ	児童の活動	留意点
導入	前時の復習と本時のめあてを話し合う。		
展開	教師の作った原板を実際にクレヨンでこすり出し、凹凸をたしかめる。版を作らせる。	<ul style="list-style-type: none"> 頭、胴、手、足と部分を切り取りそれを組立てることを知る。 線ができることを知る。 自分の作りたいものを描き切りとらせる。 台紙にはる。各自たしかめる。 くふうしたところ、むずかしかったところを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をおこさせる。 はさみの使い方 しっかりはらせる。 はっきりしない時は更にはる。
まとめ	各自に凹凸をたしかめさせる。できた作品を見て話し合わせる。		
次時予告			

題材 ゆかいなサーカス <小2>

題材について

こどもにとってサーカスは驚きと感動の多い経験である。この経験を力動的なイメージとしてとらえさせ、表現させたい。

1年生では、紙版による簡単なスタンピングやフロッタージュを経験して版画的な表現をしてきたが、ここではプリンティングの際の偶然のおもしろさができることに気づかせ、サーカスを自分のイメージとしてとらえさせ、華やかな色彩を多色刷りで表現させることによって工夫しあらわすことを通して豊かな造形の喜びを味わわせたい。

表現材料には、いろいろな材料を使わせて材料の幅を広げローラーやバレン等の版画用具になれさせたい。

題材のめあて

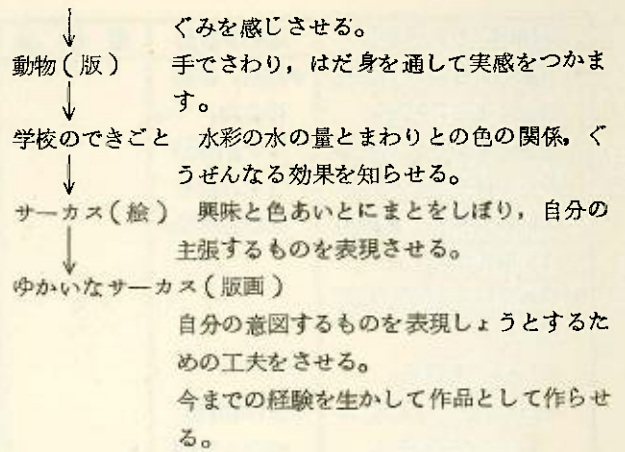
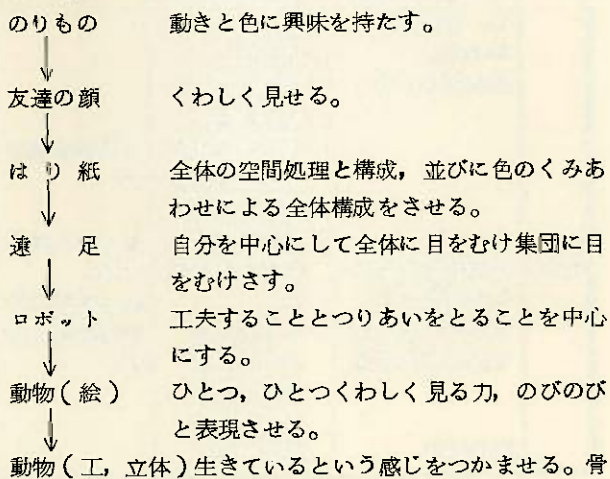
- サーカスを見た感動のイメージを、効果的に表現させ、児童の欲求を満足させると共に創造性をのばす。
- 事前に習得した版画技法の応用や色彩を取り入れることによって、効果的表現を工夫させる。
- 出来た作品を鑑賞し合い、次の創造意欲を高める。

題材の指導計画 4時間

- サーカスの感動を盛り入れた下絵を作る。 1時間
- 版を作る。 1時間
- 版の仕上げ 1時間
- 刷り、作品の完成、鑑賞 1時間

材料について、バレン、雑布、油性用筆、しめった画用紙、新聞紙、台紙、水彩セット、西用紙箱、はさみ、ナイフ

全体の計画



題材 ゆかいなサーカス (1/2時間)

本時のめあて

サーカスの感動を盛り入れた下絵をつくらせる。

本時のながれ

教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点	備考
導入	本時のめあてをつかませる	下絵をつくることを知る	
	見たり経験したことの中から特別におもしろかったことやめずらしかったことを発表させる。	自由にめずらしかしたことやおもしろかったことを発表する。	表現の欲求を盛り上げる。絵画的要素をおさえていく。
展開	発表の内容からサーカスに導き、サーカスのイメージをふくらませる。 下絵の製作をさせる。	経験やあこがれの気持ちをもってそれぞれのイメージを発表する。 場面を決め下絵をつくる。 ・自分でかきたいものから ・自己中心	絵画作品として完成しなくてもサーカスそのものの造形上の深まりから見られ



教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点	備考
まとめ 作品の鑑賞 次時の予告	・主人公 満足感とともに次時に期待する。	ることをねらいとする。	

教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
導入 本時のめあてをつかませる。	めあてをつかみ各自サーカスの作品をつくる。	
展開 切り取り版の仕上げをさせる。	効果的な工夫を試み楽しいふんい気で仕事を進める。 ○ブリティングするところを考える。	しっかりとつける。
まとめ 見せ刷りに期待させる。 次時予告	出来あがった版をみんなに見せ刷りに期待させる。 印刷することを知らせる。	

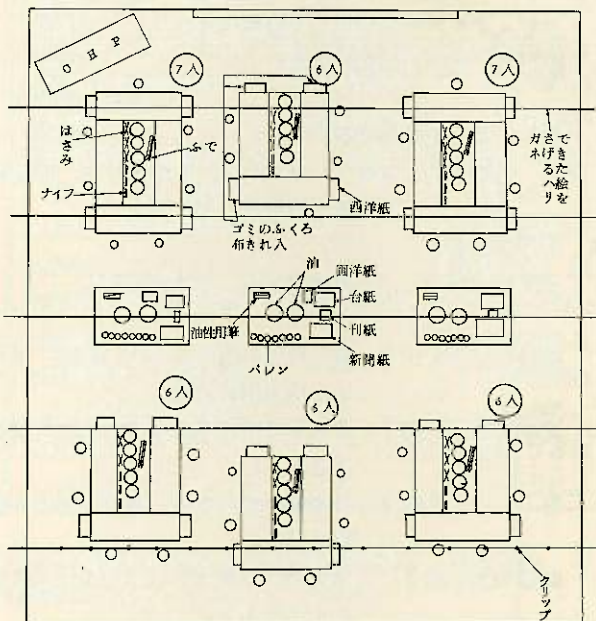
題材 ゆかいなサーカス (2/4時間)

本時のめあて

前時に続き版を作る。

教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
導入 本時のめあてをつかませる。	めあてをしっかりとつかみ表現意欲をもつ。	
展開 切り取り版画の要領をサーカスの下絵にもとづいて知らせ版をつくらせる。	下絵のイメージをもとに、一歩進め版として効果を考えて作成する。 ○大きいものからおもいきって切る。 ○遠いものからはる。	はさみの使い方。のりのつけ方
まとめ 途中の版をみんなで見せ合う。 次時予告	版効果とブリティングの予想をつけさせて作成させる。 みんなの版を見て予想し合ったり工夫を知り合う。 この続きをして版を完成することを知らせる。	

○教室の配置



題材 ゆかいなサーカス (3/4時間)

本時のめあて

前時に続き版の仕上げをする。

○教師の用意

パレン、雑布、代衣₂₀、油性用筆、画用紙、新聞紙、台紙、水彩セット、西洋紙箱、はさみ、ナイフ

○生徒の用意

版、くふうした材料

題材

店 や さ ん <小3>

1. 題材について

3年生ともなれば1人で店やに買い物に行くことも多くなり、自然のうちに店やに対する感心も深くなり、又、興味も持ってくる。この店やを題材にして木版画を通して物の見方や表現方法を知ると共に版画に対する興味を持たせたい。

2. 題材のめあて

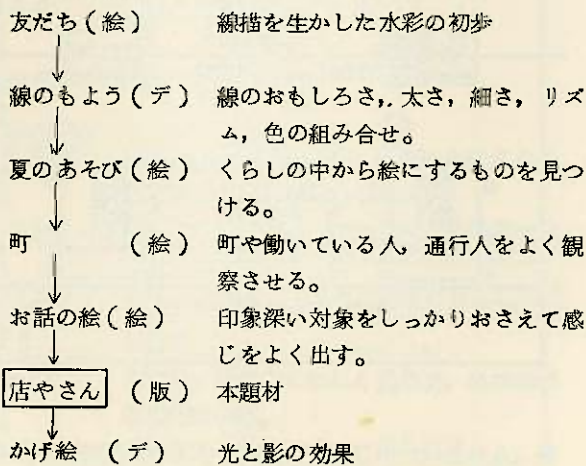
- 彫刻刀の使い方を知らせる。
- 白黒の効果を考えてほらせる。
- 刷りの技法を習得させる。

3. 本題材の計画(6時間)

- 店やのスケッチ(想、観、印象) 1時間
- スケッチ(下絵)を版木に写す。
- マジックインキを使用して白黒に分ける。 1時間
- 彫刻刀の使い方を知りほる。 3時間
(本時 $\frac{1}{3}$ 時間)
- 刷りの技法を知らせる。 1時間

材料 木版木(ゴム板)、マジック、中性インキ、彫刻刀
パレン、プレス機、画用紙、版木台。

4. 全体の計画



年賀状の利用

5. 本時のおさえ

白黒の調和の修正と彫刻刀、版木台の使用法を理解させる。

教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
導入 ○本時のめあてをつかませる。	○学習のめあてをつかむ、修正、彫刻刀の使い方。	丸、角、きり出し。
展開 ○版木の絵を修正させる。 ○彫り台の使い方を教える。 ○彫刻刀の使い方を教える。 丸、角、きり出し(斜) ○ほりをさせる。	○修正する。 ○白黒の調和を見る。 ○版木を台においてみる。 ○ためし影をずらす。 丸、角は押す、きり出しは引く。 ○自分の好きなところからほらせる。	赤で修正する 版木台 はがき大の半分の版木 左手の位置
まとめ 次時にひきつづかせる。		

- ためしほりをして彫刻刀の使用法を理解させたせいか、けがする者はいなかった。
- 版木台は各個人につくらせたので大きさがまちまちだった。
- 木版よりゴム板の方が彫刻刀のきれい味が良いので失敗だった。

高 学 年 提 言

題材

木版画、「カレンダー作り」<小4>

○題材のめあて

- (1) いままで自分でかいた絵をもとに、月ごとに分担して版を作り、カレンダーを共同で作らせる。
- (2) 彫刻刀、その他の用具の使い方に慣れさせる。



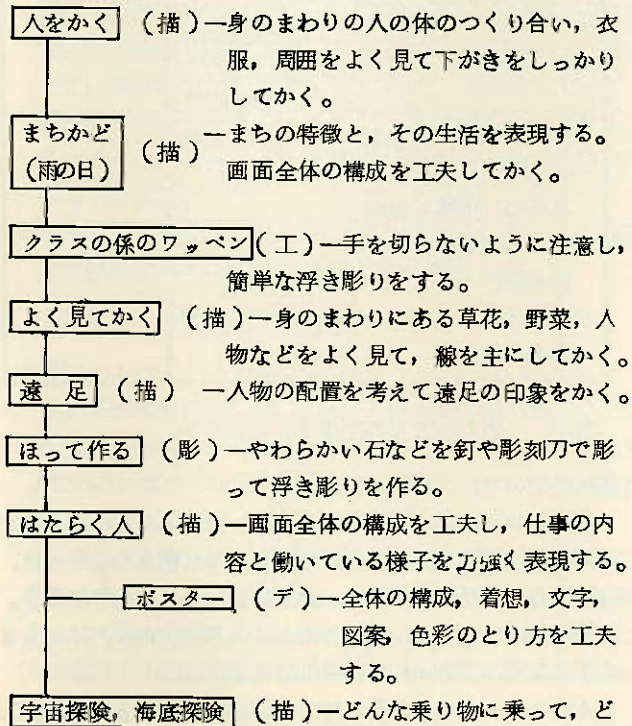
- (3) 木版画特有の味わい、美しさを感じとらせたい。
- 本題材の指導計画
- (1) いままで自分でかいた絵をもとに、版木に下絵をかく。(文字はカーボン紙などで転写)(1時間)
- (2) それぞれの刀の使用効果を考え、安全に注意して彫る。(陽刻的表現)(2時間)
- (3) ためし刷り、修正彫りのあと、バレンやプレスローラーで本刷りをし、できた作品を互いに鑑賞し合う。(1時間)

- 材料について
- (児童)軟性ペン(筆と墨)、彫刻刀、バレン、彫り台、仕事着、新聞紙、クレヨン
- (教師)九つ切りのしなベニヤ、ざら紙、和紙、版面用中性インキ、練り板、ローラー、プレスローラー、参考作品

- 本時(3/4)のねらい
- ・彫刻刀の正しい使い方に慣れさせる。
 - ・感動を殺さないように、生き生きと表現させる。

○本時の流れ

○全体の計画



んな所へ行ってみたいか想像しながらかく。

カレンダー作り

(版) 一いままで自分でかいた絵をもとに、月ごとに分担して、カレンダーを共同で作る。

教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の木版画の学習を想起させ、話し合わせる。一下絵・彫り・刷りの各段階について、失敗や成功、気づいたことなど。 ○互いに下絵を見なおさせる。一画面を整理し、だいたいのものがしっかり表現されているか、彫り残す部分に墨入れがなされているか、など。 ○下絵がしっかりできたことを確かめ、彫らせる。 ○机間巡視。一個個のよさをほめ、助言を与え、意欲の持続を図る。 ○本時の作業の感想を発表させる。一本時の反省と、次時の彫りの仕上げへの意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いをする。 ○下絵を見なおし、不十分なところを補ったり、修正したりする。 ○彫り台の上に版木を置き、彫刻刀で彫る。 ○本時の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ○各刀の使用効果、安全に注意を向ける。 ○下絵にあまりこだわらず、筆のかわりに刀で絵をかくような気持で ○静かに、彫ることの快感、削れる快音を味わいながら。 ○彫りすぎないように。

当番(はたらく人)(板紙凹版) <小4>

○題材について

学校生活のなかで、仕事をしている子どもたちの姿を、板紙版画に表現することにより、画面の整理、省略、強調、また下絵一彫り一刷りの過程で、計画的に仕事を進めて刷

りあげる作品への期待と喜びを感じさせ、またやりなおし、ごまかしのきかないきびしさのなかで、創造力を伸ばしていくことは、子どもたちに興味と抵抗を与え、くふうして表現しようとする意欲を高めるものであると思う。

○題材の目あて

1. 表わす対象や内容をよく観察し、創造的に表現する。
2. 板紙凹版を使った版画の特徴を知り、版画表現の幅を広げる。
3. 白黒の対比や構図をくふうさせ、主題を的確に表現する。
4. 表現活動の計画を立て、最後までしっかりやりとげる態度を養う。

○本題材の指導計画

- ・下絵をかく(1次)2時間

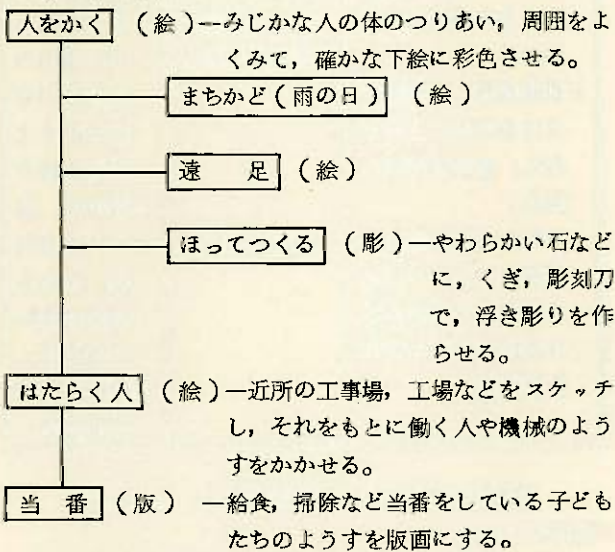
○本時のながれ

- ・版を作る(2次)2時間 本時 $\frac{1}{2}$
- ・刷る(3次)2時間

○材料について

- ・板紙 ・ニードル、切り出し ・版画プレス機 ・版画インキ ・練り板 ・布きれ ・新聞紙 ・画用紙(刷る紙、湿らせておく)

○全体の指導計画



教師のはたらきかけ	児童の活動	留意点
○木版、紙版、板紙凹	○線で形や材質	

版の参考作品を見ながら板紙凹版の特徴を話し合う。

○できあがった下絵について話し合わせる。

○下絵に基づいて版作りをさせる。

ニードルの使い方について話し合う。
ニードルで描く気持ちで描影させる。

○巡視して個々のよさをほめ、助言を与えながら意欲の持続をはかる。

○半分ぐらいできたところで、くふうしたところ、困難だったところ、感想を発表させる。

○次時予告

○あとかたづけ

感を表わし、線で削った部分が黒くなることを知る。

○線や白黒の面の組み合わせを話し合い、修正する。

○切る、削る、ひかく、たたく、こする。

○線で表わす部分、はぎとる部分(浅く、深く、切り取る)をくふうして版を作る。

○時々インキを刷り込んで、線の刻みぐあいを確かめる。

○ニードルは紙に切れこむようにし、しっかり描影する。

○特に個々のくふうを生かすように。

題材 新しい友だち(描) <小5>

題材について

担任もかわった、級友もかわった、なんと変化にあふれた新鮮な気持ちだろう。高学年に仲間入りした僕たち私たちは、これからみんなで助け合い、励まし合ってしっかりやろう。眼鏡をかけたあいつ、なんとめんこいあの女の子、そんなさまざまな思いがあふれた新学期である。

人物については、これまでにいくども描いてきている。こ



れまでのものは、2〜3人の組み合わせのものが多かったが、対象が多くなるにつれて、かさなりなどが複雑になって表わすことがむずかしくなる。全体のつり合い、質の感じ、見る位置による変化などを適確に表現する能力は、くり返し長い期間をかけなければならないようである。

ここでは、新しくできた友だちの中から1人だけえらんで新しい友だちができた喜びを表現することによって対象をじっくりとらえさせたい。

題材のめあて

1. 友だちの持つ特徴をとらえ表現する。
2. みて表わす力をのばさせたい。
3. 新しい友だちができた喜びを描くことによって味わわせたい。

学習の順序

1. 新しくできた友だちの中から1人だけを選び、上半身を描く。
サインペンで、画用紙は使わないでダンボールに描く。
2. 下絵ができたら色をおき、作品を完成させる。

反省

- ダンボールを使ったためとまどいがみられた。各自が準備したため、大きさが一定しなかったこと。中には防水処理がしてある表面にロウがついているものがあり、色がのらず、苦労した子がでてしまった。
- 新しい素材であったため、子どもが興味を示した。厚いために立てかけて描いたりすることが自由にでき、描きやすそうであった。
- 紙が厚く作品の整理にこまった。画紙が通らず、作品の展示は台の上に立てかけることしかできなかった。

題材 私の好きな鳥(版)

題材について

鳥の持つ特徴を子どもたちが飼育している鳩やにわとりを観察し、スケッチをすることにより、はばたいている、とまっている、食べているようすを2〜3羽くらい組み合わせて表現させる。

ここでの指導は、つぎの学習に入る予備的な学習とおさえ版画で表わす場合の、単純化、かさなりの表わし方、画面の組み立て等を工夫したり、彫刻刀やカッター、ローラー、プレス機などの版画用具になれさせ、それを有効に使う方法を知ることがねらいとする。

題材のめあて

1. 鳥のもつ特徴を知る。
2. 板紙版画の凸版の表現方法を知る。

指導の流れ

	指導のおさえ	児童の活動	備考
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を見せて話し合う。 ・凹版、凸版のちがい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○凸版について理解するとともに、どんな方法で作品をつくるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○下絵を描く条件 ・2ひき以上 ・かさなりができること。 ○サインペンで下絵を描かせる。 ○彫るとき注意 ・どこを黒くするか、白くするか考えさせる。 ・黒と白の比率を考えさせる。 ・板紙の材質について考えさせる。 ○彫刻刀、カッターの使い方 ○刷る。 ・ローラーの使い方、イン 	<ul style="list-style-type: none"> ○条件からどんな問題点ができるか考える。 ・かさなりや背景の処理のむずかしさに気づく。 ○鳥の特徴をつかみ下絵を描く。 ○黒い鳥の背景は白であること、黒い鳥と黒い鳥のかさなりは白い線を入れて表現できることに気づく。 ○彫りの深さを考える。 ・浅いと・・・ ・深すぎるとどうなるか考える。 ○用具の使い方を知り、刷ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サインペン ○彫刻刀 ○カッター ○プレス機 ○版画セット

	クののせ方 ・プレス機の 通し方	○自分の願いと のずれがでた ときは、修正 する。
整理	○鑑賞 出来た作品を 見て話し合う。	○よくできた ところ、できな かったところ を話し合う。

題材 鳥と私 <小5>

題材について

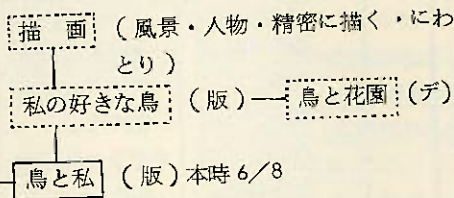
子どもは動物が好きである。毎日中庭の小動物の囲りに集まり学校生活の中でもかかわり合いが多い。

子どもたちに親しまれている鳥をいろいろな角度からとらえさせ、自分の考えを素直に表現させたい。ここでは鳥と私とが何かしている場面を個々の児童が設定して、鳥と私とのかかわり合いを一つの画面に構成することによって、子どもの豊かな夢や願いをおりこませたい。ここでの指導は、児童のそれぞれが個性的な表現を計画的に画面構成を考えながら制作することを主眼としている。そして指導の要素としては構図のとり方、刷りの技術などを深め、線による表現から面の表現へと発展させ陽刻による表現になれさせ、白黒のおもしろさに注意をむけさせたい。

題材のめあて

- 考えを持ち表わす態度をそだてる。
- 版画の特質を知り、興味や関心を深めさせる。

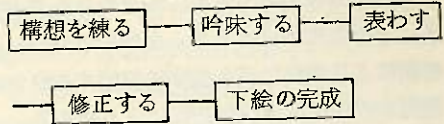
指導計画



下絵を描く (2時間)

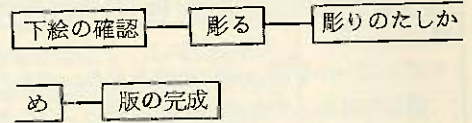
- 凸版による板紙版画の特性、技法の知識をつかませておく。
- 制作の順序を知り、見通しをたてる。
- 自分の考えをまとめ構想を練り下絵を板紙に描く。
- どこを黒く、どこを白くするか

を考えて下絵を描く。



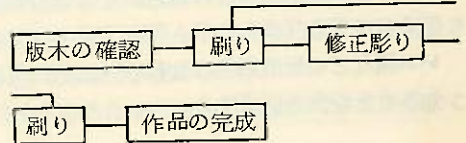
版を彫る (3時間)

- 下絵のイメージを大切に彫る。
- 彫りとったところが白くなること、ニードルできずをつけたところは白い線になること、かさなりの処理についてなどを特に気をつける。
- 彫刻刀、カッターなどの効果的な使用。
- 彫りの深さを考える。
- 黒い部分と白い部分との比率を考えながら・・・彫りとりすぎないように。



効果的な刷り (2.5時間)

- 版にローラーでインクをのせてプレス機を通して刷る。
- ローラーの使い方、インクの量、ねり板の使い方、プレス機の通し方に注意させる。
- ためし刷りした作品を検討して自分の願いとのずれがでたときは、修正する。
- 修正する視点
 - ・版についてか、刷り方についてかはっきり区別して考えさせる。
- 自分の願いに近づこうと追求させる。



作品の整理・鑑賞 (0.5時間)

- 制作の過程をふりかえりながら自分の願いが、うまく表われたかどうか、表われなかったとしたらなぜそうなったかを考え、自分の考えを発表する。
- 作品の整理

鳥と話す (描)

反省

- ◎発想、構想の段階での指導のてだてがむずかしく、子どもの生き生きした想がなかなかひきだせなかった。
- この題材では、私が主題か、鳥が主題かによって画面構成がかわるので、はっきりした区別のもとでの子どもの考えを大切にしたい。
- 表現する場面は、私と鳥が、何を、どうしている様子なのか、だから、どう画面に構成する。というすじ道を考えさせた。
- 板紙に直接サインペンで描かせたが、別の方法も考えたのではないか。
- ◎彫りの段階では、彫刻刀、カッターの使い方と、板紙の材質との関係が、うまくかみ合わない場合が多くみられた。
- 彫りあとが、ぼそぼそになったり、板紙が切れる、折れる。あるいは、彫りが浅い等々。
- ◎刷りの段階では

題材 生活の中から <小6>

題材について

今までは具体的な題材を与えて製作させることが多かったが6年生ともなれば自分で題材を見つけそれを作品にすることも必要と思われる。今回は生活の中で特に印象に残ったこと、観察したことをもとにし、人物も画面の中に入れることを条件として自分の願いを題材にたくして版画に表現させ、木版画に対する興味を更に深めたい。

題材のめあて

- 自分で最も感動した生活経験の中から画題をえらび木版の特色を生かして表現させる。
- 刀の種類(平刀)と彫りあとの効果を知らせる。
- 版画表現に対する興味をもたせる。

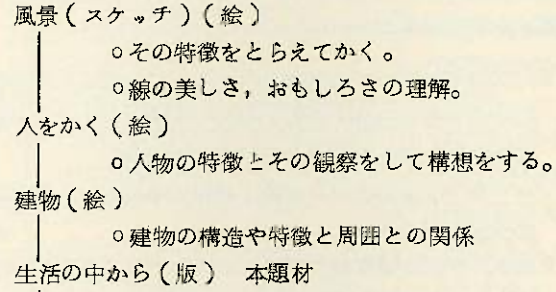
題材の指導計画 (5時間)

- 和紙に下絵を描き版木にうつす。(1時間)
- 彫刻刀の効果と白黒のバランスを考えてほる。(3時間)
- 刷り (本時) (1時間)

本時のめあて

ためし刷りをして彫りや刷り、インクのつけ方をくふうして作品の完成をさせる。

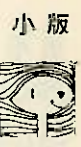
全体の指導計画



↓
 ドライポイント(版)インキのふき方
 凹板表現
 プレス機の使用法

- 材料 プレス機、バレン、版木、中性インク、彫刻刀、版木台、和紙、画用紙

	教師の働きかけ	児童の活動	留意点
導入	本時のめあてをつかませる。	ためし刷りと作品の完成	





展開	ためし刷りをさせる。 修正させる。	各自すきな用具で 修正 インキの つけ方 版木の彫 り方 プレス機 バレン、 ローラー	ローラー の 使用法 プレス機 の 使用法
まとめ	本刷りをさせる 考えた様な作品に なったか。	各自 2~3枚する 自分の作品につい て語る。 他人の作品につい て語る。	作品をは る。 良い点を見 つけ出す。

- プレス機をエッチング方式にしたので、失敗だったがバレン使用者は成功だった。
- 木目がでなかった、インクのつけ方がこいのではないか。
- プレス機は全員があつかえるようになった。

問題点と反省の集約

- 1年 ○ 作品を教師がプレス機で刷ってやった方がバレンを使用するよりも作品そのものが良くできるのでバレンの使用法は1年生からさせるべきだろうか。
 - ローラーの使用とタンポ等を使用するのはどちらが効果があるだろうか。
 - 原版に和紙か西洋紙をあてクレヨンでこすり出し、凹凸をたしかめ線の感じがつかめたと思うので効果があった。
 - 2年 ○ イメージがうすれ、発展しすぎるためか何をかくか要点がしぼれない子もいた。
 - 版画の時の見通しはどうさせるのが良いか。
 - 印刷の時の版と紙のずれはセロテープを使用することにより解決した。
 - 仕事の手順により材料を多く使用しても問題はでない。
- ※ 仲かいなサーカスの反省点や問題点は当日
- 3年 ○ ためし彫りをして彫刻刀の使用法を理解させたせいか

けがをするものがいなかった。

- 彫り台は、各個人につくらせたので大きさがまちまちだった。
- 木版よりゴム板の方が彫刻刀の使用法を指導するには切れ味の点で都合が良いと思う。
- 4年 ○ 凹版画の表現では下絵の線をカッターでなぞるだけで版ができることで表わすための抵抗は少ない。
- 刷りの段階でのむずかしさが凹版の問題点である。
 - ・ タンポの使い方
 - ・ ふきとりの技術
 - ・ プレスの通し方
 - ・ 作品のよごれ
- 5年 ○ 凸版画の表現では下絵のつくり方がはっきりしたみとおしのもとでなされなければならない。
- 白黒の比率、彫りを深める。等を理解させるための指導のてだてを工夫すること。
- 板紙版画ではプレスを通し方、木版画ではバレンの扱い方の刷りの技術のおさえの指導が大切である。
- 6年 ○ よごれるし時間がかかるしいやだという児童の声が多い。
- プレス機を通すときにエッチング方式で使用したので紙の凹凸ができてしまい失敗だった。
- 和紙とバレンを使用した者は成功だった。
- インクのつけ方がこいせいか、木目がでなかった。
- 和紙を版木にはったので刷りの前にとるのに苦勞したようだ。

研究討議の柱

- 表現内容のおさをどう考え版画指導に展開すべきか。
- 下絵を描く、彫る、刷るの指導過程を無理なく理解させよう能力化させるか。

小学校彫塑領域

中学年提言者 宮下 林 (近文小)

高学年提言者 飯塚礼二 (教大付小)

領域のおさえ ながめたり、つかまえたり、こすったりあるいはかかえたりするよなかたまり(立体造形)をつくりだそうとする欲求の中には、量感や空間に対する、人間のあとがれがあるからであろう。

彫塑による立体造形は、単に物の形を再現する学習ではないであろう。つくりだそうとする動機も、ある対象に出合ったときにおきる場合もあり、子どもの心の中にふと現れてくることもある。したがって、完成した作品を重視するのではなく、表現の過程に重きをおかなければならない。表現していく過程で、あらわれつつあるかたちをたしかめ、再び新しいかたちを生みだしていこうとする、即ち、たしかめのくり返しによって、かたまりや空間のおもしろさ、不思議さを発見し追求していくことである。

彫塑における量は、単なる物理的な量ではなく、量感として衝動を与える量である。ひとつのかたまりは、この量によって構成され、各部分の量と量の間には相互的な関係がありそこに美しさ、力づよさ、動きが作りだされるはずである。つくり出された量は感覚的な量である。多量の材料を用いた作品でも、非常に弱く見えたり、小さく見えることもあり小さい作品であっても、力強さや、広がりをつくりだしていることがある。これは、量感の相違によるものであろう。

また、彫塑による造形を性格づけるものは材料である。しかも、材料は技法に密着していて、材料によって技法が制約される。制約されることによって材料の特質が生まれてくるということが考えられる。材料の選択と性質の深いよみとりの上に、くみ立て、ふくらまし、きりとりが行われ、つくるもののイメージに結びつくとき材料の本来の姿が生かされる。

以上は、彫塑による学習内容の一般のおさえであるが、別表に示した彫塑領域の指導系統表もこのような考えの上にならなければならない。しかし、この表は、あくまでもひとつのよりどころであって、研究の方向を示すものにならなければならない。

ただし、ねがいとしては、低、中、高学年を見通して、上述のように量感のとらえをたしかに積みあげていきたいと考

えている。非常にむずかしく、常に壁につき当たっているのであるが(後で実践例にも述べてある)、次のようなおさえをしている。

低学年では、見たこと感じたことをすなおにあらわす中でものの基本的なかたまり(大きさ)を見つめることができることと、形の変化することのおもしろさに気づいていくこととした。作り方では、手でたしかめながらあらわしていくことができることをねがった。

中学年では、低学年の土台の上に、対象の動きを大きく、はっきりみつけることができ、大まかな形のとらえから部分の変化に目が向くようにし、つくっていく過程では、全体と部分を比べながらきめていくことをねがった。

高学年では、「ほくはこう見る」といったねがいを大切に、かたまりのもつ美しさへと迫まろうと考え、強調、省略の他に、かたまりそのものに目を向けるよりも空きの部分に目を向けることをねがっている。

これらのねがいは、人物や動物を中心にした実践を通してたしかめていきたいと考えている。



小学校彫塑指導の系統表(1)

	1 年	2 年	3 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 粘土のあつかいにたしかめさせる。 自分で作りたものをすなおに表現させる。 粘土で、いろいろなものを立つように作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の使い方になれる。 自分で作ろうとする形をはっきり表現させる。 粘土で、いろいろな工夫して作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土のあつかいや用具の役割について知る。 自分の作ろうとする形の特徴を生かして表現できるようにする。 粘土の手ざわりや量感を生かして表現できるようにする。
材	<ul style="list-style-type: none"> 粘土、紙粘土、油土 身近にある材料 木の葉、木片 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土、紙粘土、油土 身近にある材料 木の葉、木片 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土、紙粘土 身近にある材料 木の葉、木の葉、木片、竹



料	木の実	木の実, 竹, 針金, ひも, 石, わら	ひご, ささ ・石こう板 ・組織材, 針金 わりばし, ひも
技法	<ul style="list-style-type: none"> ・のばしたり ・まるめたり ・おしたり ・ひねりだして作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・かたまりを, ひねりだして立たせる。 ・とれないつけ方のくふうをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かたまりをつけたり, けずったりして形をつくる。 ・用具の使い方を知る。
指導の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・可塑性のある粘土を, かたまりからひねり出して形をつくる。 ・つくることの喜び, 粘土で遊ぶことを中心とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可塑性のある粘土のかたまりから, ひねり出したり, くっつけたりして作る。 ・楽しんで作ることを中心にするが, 少しづつあらわし方や扱い方にくふうをしていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可塑性のある粘土のかたまりから, ひねり出したり, くっつけたり, けずったりして形を作る。 ・けずったり, ほったりして形をつくる (除却) ・どのようにしてつくるか計画性をもたせるようにしていく。

小学校彫塑指導の系統表(2)

	4年	5年	6年
ねら	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの材料の種類扱い方を知る。 ・何を, どのように作るかという構想力を高める。 ・いくつかの基本的な作り方と, その特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫塑の仕方について理解させる。 ・構想をまとめ計画的に作り進められるようにする。 ・各種の用具や材料を生かして作ることが 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の彫塑の製作方法について理解させる。 ・彫塑的な物の見方を高め, 構想をまとめて計画的に表現していけるようにする。

ん	を生かして作っていくことができるようにする。	できる。	・材料や技法の特色を生かして, 創作的に表現する力を高めていく。
材料	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土, 紙粘土 ・けいそう土, 石こう板, 軟石 ・木材, 竹ひご ・針金 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土, 紙粘土 ・けいそう土, 石こう板 ・れんが, 軟石 ・木材 ・石こう, 白セメント ・石けん 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土, けいそう土 ・石こう板, 柱 ・れんが, 軟石 ・木材, 石けん ・石こう, 白セメント
技法	<ul style="list-style-type: none"> ・よく見てつくる。 ・計画的につくろうとする。 ・用具を使ってつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土のやわらかさをおぼえる。 ・各種の材料の使い方になれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材質を生かしてつくる。 ・かたまりを大づかみに彫る ・石こうじかづけをする。
指導の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・可塑性のある粘土を使ってかたまりからひねりだしたり, くっつけたり, けずったりして形を作る。 ・かたまりをけずったり, ほったりして形を作る。 ・観察の態度を深める。 	<p>同 左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木や石を削りとりて形をつくる。 ・型に流しこんで形をつくる ・身につけた技法を生かして自由に表現する。 ・計画的に作る 	<p>同 左</p> <p>同 左</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心構にしかづけをする。 ・写生的な表現をする。 ・個性的な特徴を伸ばし立体的な感覚を育てる。

中学年提言



<たしかなものを創る子供を求めて>

1. 実態と反省から

机の上に山とつまれて行く粘土を見て、「ワァー」と歓声をあげる子。「先生この粘土、全部使っていいの」と目をかまやかせる者、われ先にと、粘土にとびつき、作品をつくり出す者、どの子もこの子もふだん見られない喜びよりである。しかし作品をつくって行く中で、たしかな発想がないためか、表現力がないためか、粘土をいつまでもなげたり、粘土細工のようにひとにぎりの粘土を手の中でこねながら、足や手を一本一本つくり、像を組み立てるといった全体の動きを考えない作品、出来た像は、ロボット人形のように感情のない作品である。

以上の実態からして、二つの問題点を見出すことが出来ると思われる。

第1に、物を一つのかたまりとしてとらえていない、この事が作品をつくる場合、全体を表わそうとせず、部分部分の粗立てとなり、量感もない作品となる。

第2に考えられることは、客観的な物のとらえができず、手や足がどこについているのか、走ると、手や足がどう動くかのつかんでいないことが、前述のような作品となって表われているのである。

旭川のテーマ「ゆたかに生きる子供の造形能力をどう育てるか」を主題に、副題として中学年の「たしかなものを創る子供を育てるための指導」をおし進めるためにも、指導を徹底する必要がある。たしかなものを創るには、たしかな発想、たしかな見方、たしかな考えをもって、その考えや願いを適切に表現できる能力を身につけることから始まるものと思う。

何の計画も考えもなしに、偶然出来た作品を見て、個性があると高く評価することではなく、中学年には中学年なりのものゝ見方、考え方、表わし方を育てるために、対象物をすどく観察し、追求し、正しく表現しようとする指導が必要である。

2. 子どもの見る目を養うには

子どもが見るといのは、ばく然と見るのであって、どこをどう見どう感じるのか視点がつかめていないしそれはひとりだけで育つものではない、そこで教師の積極的な働きかけと指導が必要である。絵画での見方は（客観的な見方によって）

一方から見、見えた通り平面化するのであるが、彫塑においては奥行きもあり立体は立体として表現するのであって、立体表現を通して立体がとらえられて行くと考えられる。したがって彫塑のためのデッサンをするというのは、アイデアを練るための要素が強い。即ち平面、立体を問わず見る目は養われると思うが彫塑そのものが立体として実在する以上立体そのものとしてのとらえ方が養われて行くべきで、面のつながり、量感等絵画と質的に異なる彫塑においてはデッサンの意味はあまり重要でないと考える。

3. かたまりとしてのとらえと表現

指導要領には、粘土を主材料として、かたまりからひねり出したり、くっつけたり、けづったりするとあるが、かたまりとして表現するとは具体的にはどんな意味内容を含んでいるか考えてみた。

- ①対象が一つのかたまりであるからには、表現も一つのかたまりとしておさえ全体の中に、それぞれの部分が量感を持ちながら存在する。
- ②対象の動きが、全体としてつくりだされているいじょう動きも全体の中から作られるべきでひとかたまりで表現されるのが最もよい。
- ③部分が全体からなりたっているいじょう全体をとらえながら部分表現もなされるべきである。

このような事から一つのかたまりとして表現することが組み立てしきにつくる方法では考えられない内容を含んでいる。

以上子どもの対象を見る目、かたまりの表現等を述べて来たが、それらの考えははたして、「たしかなものを創る子どもを育てる指導」にどう結びつくか実践を通して考えてみた。

実践授業 1. ボールあそび <小3>

題材について、運動会も終わり子ども達のあそびや体育ではボール運動が中心になっている。その姿を粘土をつかって特徴、大きな動き等を立体表現させ、その中から立体表現力をつけさせるとともに粘土になれさせたい。

指導の目あて (1)人の動きや特徴を生かしながら大きな表現をさせる。(2)粘土のあつかいになれ、粘土を主材料とした立体表現能力を身につけさせる。

指導計画 2時間扱い

学習の流れ

0 これまでの粘土学習について……作ったもの、作り方 等

- 教科書、参考作品を見てどこがうまく表現されているか、どんな工夫がされているか
- 最近の体育やあそびでしていること
- 各自つくりたい運動の姿の想を練り、おおまかな見通しをつける。
- 想を大切にしながら特徴、動きを大きく表現していく
- まわりからたしかめながらつくっていく
- できた作品を並べて
工夫したことや、うまくいったこと
友だちの作品を見て、よいところ

反省

- 人の動きを大きくということ全体を考えながら作らせたかったが、手足、胴とバラバラにつくり組み立てる子どもが多く、かたまりとしての指導が行きとどかなかった。
- これは、一、二年と粘土をつかってのくせがあり、そこからぬけだしていかなかった所にも原因があったのではなかったか。
- 作りたい対象そのものの形がつかめず、どう表現しているかわからない子どもが多数いたのでこの面の指導が必要である。
- かたまりから手足等をひねりだすことが実感としてつかめないので量感としてのおさえる指導が必要である。
- 対象がわからない場合自分でポーズをとってみるという指導が必要である。

実践授業2 ポールあそび <小3>

題材について 実践①に同じ

- 指導の目あて ①人の動きや特ちょうを生かしながら大きな表現をさせる。②粘土のあつかいになれ、立体として表現する能力を身につけさせる。
- ③対象をはっきりつかむため、いろいろな方向からスケッチさせる。
 - ④対象を一つのかたまりとしてつかみ、ひきだしたり、くっつけたり、けずったりして表現させる。

指導計画 3時間

- ①スケッチ 1時間
- ②粘土でつくる 2時間

学習の流れ

- これまでの粘土学習について……作ったもの、つくり

方等

- 教科書、参考作品を見て、どこがうまく表わされているか、どんな工夫がされているか。
- 最近の体育やあそびは
- モデルを見て、大まかな形、動きをスケッチする。
前後左右、全体のバランス、手足のつき方等
- 新しく発見した所はないか、特に注意してみた所
- 粘土のかたまりの中からひき出したり、くっつけたりして像をつくる。
- わからない部分はスケッチを見てつくる。
- 全体をまわしながら気のついた所をなおしていく。
- うまくできた所、苦労した所、工夫した所等作品を見ながら話し合う。
- デッサンをどうつけたか、よかったか、悪かったか。

反省

- 彫塑では特に面のつながりを大切にしなければならないが、それをデッサンすること、見せることによってどう養われたか、作品を見るとやはり疑問が残る。
- バランスについては(顔の大きさ、手足の長さ)作品によくあらわれたと思う。
- デッサンはわからない所についてのみ見せようと指導したが、児童の話では気になってつくりづらかったとの意見が多いのに問題がある。
- 全体として作品に特ちょうが見られないのは、デッサンしたと言うことで表面的になりすぎたのではないか。
- 全体に平面的な作品が多く、奥行きが感じられないのは最初平面表現をしたのが欠かんとしてあらわれたのではないか。

実践授業3 ポールあそび <小3>

題材について 実践①に同じ

- 授業の目あて ①人の動きや特ちょうを大きく表現する。
- ②モデルを見ながら、人の動きや特ちょうをかたまりの中から引き出したり、くっつけたり、けずったりして表現していく。
 - ③粘土のあつかいになれ、粘土を主材料とした立体表現能力を身につけさせる。

指導計画 2時間扱い

学習の流れ

- 前時の学習で、表現する上で苦労した点について



- 全体のバランス、動き等モデルを中心に気づいた点について
- 対象に近い動きのあるかたまりをつくる。
- 頭、手足を量としてつかみ、引き出したり、つけたりけずったりして
- 全体の動きを常に考えながら引き出し、つけたり、けずったりして
- 作品、モデルをまわりから見て
- 出来た作品を見て
うまくできた所、工夫した所、前の作品と比較してよい、悪いについて
モデルをつかってどうだったか。

反省

- 首、足のつき方曲り方、うでのつき方等モデルを見たのでよくわかったと言う様に対象をつかむのにモデルは役立ったようだ。
- それとは反対にモデルが気になって作りづらかった子どももいたので、この辺のとりあつかいを考え指導が必要である。
- バランス、立体感、動きはよく出ていたのはモデルがあったからだと思う。
- 立体表現力は立体表現活動を通じてよりいっそり養われると思う。

高学年提言

・はじめに

ものがたしかに見えてくる子どもは、自分のねがいをたしかに表現していくことができる子どもである。気づいていなかったことに、はっと目を向いたり、ばらばらに見えていたもの、視点をはっきりさせることから、ひとまとまりのある動きをもったかたまりとしてとらえることができる。

子どもは、とりたてて指導をしなくても、経験をもとに、ねん土で作ることはできる。そのことはとてもたいせつなことであるが、そのままでは発展を期待できないし、可能性を認めることにならない。子どもに、どんな見方、感じ方、表わし方をしてほしいかという前に、教師の積極的なねがいがなければならぬ。

彫塑における量は、単なる物理的な量でなく、量感として感情の流れを内に含んでいる量である。量感の稀薄なものは立体的な感じを欠くことになり、生命を失うことになる。また、量は面によって表現されるが、面によって方向をもち他の量との区分もしていることになる。面を意識してつくりあげることは、作品を生き生きとしたものにする。

もうひとつ彫塑のかたまりを流れるものとして動勢がある。この動勢は、かたまりの内部から必然的に生まれるものであり、少しずつ変化しながら、外に向ってうちだす感情である。しかも、この動勢が、かたまりの面を決定しているのである。

以上、彫塑学習の内容としてめざすものをおさえたが、具体的な授業を通して、どんな題材の中で、どのようにおさえていくかは仲々むずかしい。しかも、時間数も少なく、経験の多い絵画的なものから見方からぬけだせないといった問題がある。

小学校では、彫塑の題材として、立体的なおもしろさや、立体の感じをまるごとつかんで表現する題材を主流としている。動物であったり、人物であったり……

また、学習の対象は二つの面から考えられる。ひとつは子どもが表現のために直面する対象である。これは表現のきっかけであり、対象との出会い方が非常に問題になる。どうみるか、何をみるか、どう感じるかなど次の制作活動を規制するものである。

二つめには、表現過程の中に生まれてくる形と、内面的なかかわり方の変化である。このとき、最初のきっかけであった対象そのものから、どんどん変化していくことになる。以上は単的に、もの見方であり、あらわし方である。

次にあげる二つの実践を通して、子どもの中に何が育ち、何がつまずきになっているかをさぐってみたい。

<p>「運動をしている人」 —石こうじかづけ— ○実際に運動をしている人をいくつかの視点で見つめ、変化をとらえながらかたまりの動きをとらえさせようとした。</p>	<p>「さげんでいる顔」 —面づくり— ○さげびということばの印象から思いきった形をつくり出す中で、顔の凹凸をたしかに生かして、個性のある作品をつくりあげることをねがった。</p>
---	--

実践1. 「運動をしている人」 <小5>

1. 題材について

見あげる、ふり返る、足をあげる、とび上る、転回する等々、動いている形を全体としてとらえることは仲々むずかしい。そこで、印象的な姿をすばやく描くことや、人間の形から離れて形を作ったり見つめることで、かたまりの動きがすなおにとらえられるかもしれない。

また、いろいろな材料や方法で、ひとつのテーマをつきつめることから、豊かな表現が生まれることを期待するのである。

2. 題材のねらい

この学習では、部分的な正しさよりも、もとになる形や動きをとらえるために、部分から部分まで線や面の流れに目を向けることと、空いている形にも目を向けてつくっていくことをねがった。

3. 指導計画

- 描くことで人物の動きをとらえる。立ったりすわったりした人、なわとび、ボールなげをする人など、互いにモデルになって行なう。クローキー
 - 厚手の紙で自由につくる。
のびる形、ひろがる形など
 - 木ぎれや枝をくみあわせる中に、新しい形をみつける
— 石こうもつける。
- ◎木や針金をじくにして運動する人の大まかな動きをつくり石こうをつける。

4. 本時のおさえ

動きのきっかけをつくっている部分と、傾きや、重み、方向などに気をつけてまわりから見ること。
石こうのとき方や、つけ方、あとしまつなどを計画的に進める。

5. 展開

学習活動	指導の留意点
○きよりの学習について ・形のたしかめ ・石こうのとき方	○いつもまわりから見えるように
○ほね組みの中に、あらわそうとする形が見えるか	○大きい動きに目を向ける。関節、傾き
○石こうをとりて、大まかにつける。ふてでだいじな部	○全体のイメージをたしかめる。

分からつけていく。

- まわりからよくみてもう一度こまかな部分にもつけてみる。
- 作品の中にねがいがあらわせたかどうか。

- 必要な道具を十分使いこなせるように。
- 肌にも気をつける。
- 動き、安定した立ち方石こうをつける仕事

6. 授業のあと

- ・題材の場面をもっとしぼった方がよかったかもしれない。
- ・動きということは、子どもにははっきりととらえられなかった。ものを持っているとか、足をあげているといった説明的な段階からぬけきれない面が多かった。
- ・動きということを、物理的なものと造形的な立場で考えてみるとかなり異なった点が出てくるのではないかと。

実践2. 「さげんでいる顔」 <小5>

1. 題材について

この題材の前に行った「運動をしている人」では、実際に見た姿をきっかけとして、動きをひとかたまりとしてとらえようとした。子どもたちは、どうしても人間の形（外がわ）にこだわり、不満足な点が多かった。しかも、動勢の何であるかを十分とらえることができなかった。

そこで、この題材では、顔そのものを大切にしながらも「さげんでいる」ということばのイメージをきっかけに、ひとりひとりの感じ方をつくりださせてやりたいと考えた。口や目やといった説明よりも顔のたて横の長さや、凹凸であらわしていきたいと思う。

2. 題材のめあて

顔を、大まかな面でもとらえ、自分の思いに合った形の発見と表現の方法をくふうしていく。

顔の凹凸を面でもとらえるために、よく見たりさわったり絵に描いてみる。

新しい考えをどんどん重ねて、より自分のねがいに近づくための表現方法をくふうする。

3. 指導計画

顔をみつめる

- 友だちを描く
顔の中心からだんだんとまわりへ広がっていく。明暗のみ。
- アルミはくで型をとる。

にぎりこぶし

・ねん土



大きく面に分けてつくる

さげんでいる顔

- イメージづくり
- 土台づくり
- 石ころのついた布をつけていく。
- 色を着けたり、台を作ってみる

<友だちを描いて>

鉛筆で明暗をかいて 「鼻をかいただけで、これから顔
った子どもたちは、途 が生まれていくことがわかってき
中で次のように述べて た……………」

「線を描くのところが、なにか
立体的な感じがよくでてきた」

「いままで外がわの形から描いて
きたけれど、こんなかき方もある
んだ」

また、色をつけてみた 「面というのは、どこからみても
後で、これまでの作品 ひろがっているようだ。人間の顔

と比べながら感想を出し であればいろいろな方向を向いた
合ったとき。 面がたくさんある。顔は外側の形
をみるより、面のつづきだと思っ
た方が正しいのかな。」

「面でかくと、線とちがったまる
みが出る。それはやわらかいよう
な感じだ。」

子どもたちは、新しい方法で、友だちの顔を描く中で、今
まで気づけなかった、ものの面、かたまりが面でできている
ことに気づきだしたようである。

ものの形を、外がわの、二面的なとらえをするのでなく、
立体的な感じをまるごとつかまえられるものとしてとらえさせ
たいと考えているのである。しかし、これは、まだ描画の仕事
である。

<にぎりこぶし> 左の手でにぎりこぶしをつくり、右手で
つかまえながら、その感じを大切にし、
ねん土で量感をとらえさせようと考えた。

1. 1kgの粘土を与え、「さあ、自分の手をにぎったこぶし
を作ろう」だけで、方法的なことは何もいわずに始めた。
右手で左手をさわってみたものはだれもいなかったし、
見つめる目は、外がわの形、指の数であり指のまげ方であ
った。「にぎっている」ということや、うでから続いてき
て、ごろりとかたまりをなしているこの「手のにぎり」な

どという考えはなく、手の再現を期待しているだけである。
ここでは、顔の学習は殆んど生かされていない。

2. 大方自分なりに出来たと思うころ、でき上がった指や、節
をみなつぶし、そこにどんなかたまりがあるかをたしかめ
てみた。

面が、かたまりをつくっているのではなく、かたまりそ
のものが面をつくりだしているのである。目をつぶって手
をつかまえることで、はっきりと面がとらえられ、こんど
は、いっきに「わたしの手」をつくっていった。

さげんでいる顔

絵に描いたり、ねん土で作ったり、いく
つかのステップをふんで思いきった顔
(お面) づくりの中に、ひとりひとりの
ねがいとそれに迫る迫り方を身につけて
やりたいと考えている。

○ 高学年における彫塑学習の課題

- ・具体的に人物や動物を見ること（出合うこと）から動勢
をとらえることについて
- ・ものの動きを、粘土や石ころ……のかたまりとしての動
きにおきかえていく、つくりだしていくための順序
- ・対象を見るときに、何を見つめさせるか、どんなことが
形として見えればよいか

○ 他領域との関連について

- ・見るということ、スケッチやクロッキーにおきかえ、
立体表現にせまることが望ましいか。
- ・面のとらえを、描画や版画ですることが、彫塑表現にと
う結びつくか。
- ・少ない時数で他領域とどう結びつけるか。

すきな動物（粘土でつくる） <小1>

1. 題材について

入学して3か月、学校生活に慣れた子供達にとって可塑
性に富んだ粘土を使っての学習を楽しく、待ちどおしいもの
である。立体的な見方、表わし方をのばすうえからも粘土
に親しむ機会を多く持たせたい、ここでは、すきな動物を
作ることを通して粘土になれさせ、自分の作る動物の特徴
を知り、その動物の姿勢に関心を向けさせ、立体的な表現
力を高めさせたい。技法上では接合のしかたを指導すると
共に、各部分を粘土のかたまりからひねり出したり、ひっ
ぱり出したりして作る方法も学ばせたい。

2. 題材のめあて

- 身近な動物のようすをよく見ておいて、その特徴があらわれるように表現する。
- 粘土という可塑性に親しみ、その取り扱いに慣れさせる。

3. 指導計画

- 2時間扱い
- 1時 粘土の扱い方、ねん土あそび
 - 2時 粘土でつくる(本時)

4. 本時のおさえ

- 自分の表わそうとする動物のすがたを決め、特徴が表われるように表現する。
- 頭、足、胴などをしっかりつけて、立たせる工夫をすると共に、粘土のかたまりから各部分をひねり出したり、ひっぱり出したりして作る。

5. 本時のながれ

指導のねらい	学習活動	指導の留意点
○ 本時の学習のめあてを確かめさせる	○ 粘土遊びの経験を話し合う。	
○ 動物のどんなようすを表現するか考えさせる	○ どんな動物を作るか発表する。 ○ 自分の作りたい動物のすがたを決める。 ○ 自分の作る動物のかっこうを動作であらわす。	○ 2, 3人の子に発表させる。 ○ 鳴き声を出したり、歩かせたりする。
○ 特徴をつかみ大まかな形を作らせる。	○ ひねり出したり、ひっぱり出したりして大まかな形をつくる	○ 粘土のグループ(4人)の机の中央に大量に用意する。
○ 細かな部分にも気づかせる	○ 各自の工夫によって特徴を一層はっきりさせる。	○ 粘土と粘土をしっかりとつくように工夫させる
○ まとめ	○ あとしまつをすばやくする。 ○ できた作品を机の上に並べてみんなで鑑賞する。	

ほえつきそうな犬 <小2>

1. 題材について

二年生では、見たこと感じたことをすなおに表現することから、まとまりのあるものをつくることをねらいとしており、能力的なことでは、基本的なかたまりをみつけて部分的な変化にも目を向けていくことができるとなっている。

この題材では、子どもたちに最も親しみのある動物、犬をえらび、「○○している」ということばによって、子どもの目をひらきたいと考えた。

また方法的には、図にかいた犬を動きのある犬に変えていく中で、○○しているものへの気づきをたしかにしてやりたいと考えた。

2. 題材のめあて

子どもたちは、犬一般についての形(横向きの図)はわかっているしあらわすことができるが、○○している犬(動物)になるとはっきりしない点が多く出てくる。何を手がかりにとらえるかがわからないのだ。

この題材では、足のつっぱりと位置、背のそり(前後の高さ)に目を向けて、基本になる形をとらえ、その中に種類や大きさや形のちがいをどう表現していくかをねらいとした。

3. 指導計画 2時間扱い

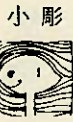
省略

4. 本時のねらい これまでの経験を話し合いながら、ほえつく犬のすがたをみんなで考え、四つ足の動きだしそうな動物のかたまりをつくる。

まわしたり、つかまえてよくみてつくる。

5. 展開

- 犬にほえられてこまったことを話して下さい。そのときの犬のようすを
 - この絵はほえている犬ではありません。どこをなおせばいいでしょう。自分でも、犬のまねをしてみましょう
 - 足を短くしたままでも、ほえて
- ・形のとりえをたしかめる(話し合い、手がかり)
- ↓
- ・犬の図の修正(立っている犬からほえてく犬へ)
- ↓
- ・ねん土でつくる大まかな形
- 子どもたちの気づきは、声であったり、顔つきであったりで、動きのある形は見えていない。身ぶりをしたり、図に比べることでどんどん修正され足の位置、背のそり、顔の位置にまで目が向けられた
- ◎さんの犬とかあのときの犬とい





いる犬のようすはわかりますね
 ↓
 足の位置—前足 後足
 ↓
 ・わたしのつくりたい犬 (種類, 耳, 毛 しっぽ)

ったイメージをもてないままにつくっていった子どもは, 結局類型的な作品づくりに終わった。

0 毛のようすや, しっぽのようす耳などを作っていきましょう。

手びねりでイメージをふくらませる。

- 土台づくりと形づくり
 全体の中心とかたまりの傾きと動きのポイントをおさえ, 安定した形をつくる。
- 石こうをつける。
- かざる, 確かめる。
 自分のねがいが, どう現わされたか確かめる。
- 4. 本時のおさえ
 - 動きをつくりだす空間とかたまりの大きさをつかむ (まわりからの観察)
 - 中心から外がわへつけたす (高さ, 厚さ)
 - 動きのポイントをおさえ, かたまりとかたまりのつながりの工夫
 - 全体と部分の調和をたしかめる。
- 5. 本時のながれ

玉を投げる人 <小6>

1. 題材について

これまでの彫造学習で二つの作品をつくったが, いずれもカッコよさに気をとられ特徴的な作品が少なかった。

本題材では, "かたまりのもつ美しさ" を空間とかたまりをみつめる中で追求させていきたい。

そのため, とび出していきような生き生きとした次の動きを予測しながら, かたまりの動きや向きに目をむけ, 動きと傾きのポイントをとらえることに焦点をしばってみた。

- でっぱりとへっこみ
- 肩, 腰の傾きと動き
- 力はいづれているところ, 抜いているところ

2. 題材のめあて

かたまりの傾きと動きを確かめ, 自分の願いとかたまりの向きの表現を工夫する。

3. 指導計画

- 友だちの動きをみつめる
 面と線でとらえる。
- ものを投げる人
 いろいろな動きをスケッチする。

指導のおさえ	学習活動	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> • 動きの変化とかたまりの動きと空間の大小 • 動きのポイント まりとかたまりの向きとつながりを工夫する。 • 部分と全体の調和と現われ方をたしかめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • <イメージの確かめ> ・対象の美しさをとらえ自己の思いをふくらませる • <特徴をとらえて作る> ・順序を確かめる • <部分と全体の追求> ・イメージの確かめ 	<ul style="list-style-type: none"> • OHPで, 空間とかたまりの現われ方をつかませる。 • 肩, 腰の傾きに目を向けて作る <グループ指導> • 形とイメージと比べてみさせる。

小学校デザイン領域

中学年 提言 渡辺 正勝(正和 小)

低学年 提言 島田 俊英(雨 紛 小)

高学年 提言 西道 喜代(神楽岡小)

◇ 旭川市におけるデザイン学習の歩み

今日まで行なってきた吾々のデザイン学習に関する研究はおよそ下記の通りである。指導に当っては常に、全市的な広がりをもって実践してきたが、デザイン学習の方向が果して前進なのか後退なのかは別としても常に子どもの豊かな創造力と喜びあふれる表現力をどのようにしたら引きおこすことができるかを考えて実践してきた。

- (1) 昭和40年—42年 ・デザイン学習の基礎的練習と生活への結びつき
 - ・独創的アイデアを生かす段階的な研究
- (2) 昭和43年 ・デザイン学習の系統表と題材配当表の作成
- (3) 昭和44年 ・指導内容の系統性と効果的な指導法、指導の構築
- (4) 昭和45年 ・今大会テーマの掘り下げを中心に授業研究
 - ・デザイン学習の見直しと造形能力について

特に昭和46年度より改訂をとともなり指導要領に如何に対処するかに就いては、昭和45年までの指導要領の中で実践してきたデザイン学習を再度検討し見直すことにより更に究明し実践活動を通して新しい指導要領にそなえようとしている。

◇ 大会テーマに迫るもの

今回は、本大会テーマを更に具体的に見つめ、子どもの造形活動を指導する上で子ども達が・どんな考え方で・どんな感じ方で・どんな表現をするのか に焦点をあて子ども達の感覚や思考の幅をより広くとらえさせる為に、授業(実践活動)を土台として研究を進めてきた。

また“ゆたかに生きる子ども”についての具体的掘り下げは、昭和46年度よりの新しい指導要領にも提示されている次の事柄を基本におさえた上で研究をしていく事で確認されている。

(1) 図工科の基本的事項を明確にする。

(2) 内容を精選する。

(3) 学習を能率化する。

以上の事柄をふまえて、デザイン学習の方向を見つめてきた。

◇ デザイン学習でねらうもの

デザイン活動をとおして育てたいものは一体どの様なことなのかを考えてみる必要がある。勿論・子ども達には日常生活の中より多くのデザイン活動の場を与え、経験させることが望ましい訳だが、ただ大人の感覚でデザイン活動を考える訳にはいかない。内容的には全く異質なのであるから、子どもの生活の実態からはなれて考えることはできないのである。それで

(1) まず子どもの生活の実態をつかむ

(2) 子どもが何を望み、どんなことをしているか

(3) 現在の子どもの将来おかれるべき場

を考えてデザイン学習のねらいをきめなければならないが、次の事柄がめあてとして出てくる。デザイン活動を通して

イ 子ども達に美的な感覚を育てていくこと

ロ 表現する技能をたかめていくこと

ハ 機能と構造の原理がどのようになっているかということ

ニ 豊かな発想をすることができる能力をのばしていくこと

ホ 創造的な思考力を育てていくこと

以上がめあてとしてあげられるが勿論子どもの精神的発達段階に添ってデザイン活動が行なわれる。しかし、このめあてがどの様な活動を通して身につくかはデザインの範中だけで考える訳にはいかない。総合されたものからデザインする人間として生活することができると考えられる。

◇ デザイン学習の系統

子どもに広くデザイン活動の場を与える事は大切である。しかしこのことは不可能である。限られた時間で限られた教材を与えるならばどうしてもデザイン活動に於ける要素を抽出し又デザイン学習の内容を吟味し整理しておく必要がある。内容は最も子どもの実態に即し効果的なものをえらぶ訳だが、旭川市に於けるデザイン系統表を次の通りとした。

※ 昭和46年度よりの改訂にともない修正する時期にある。

	小1年	小2年	小3年
ねら	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもって簡単な身近なものの飾り、知らせるものができる 色や形などで自由な組み合わせ、組み立てができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 色や形などの違いに気づいて組み合わせ組み立てができる 	<ul style="list-style-type: none"> できあがりの効果を考えながら飾りをつくる。 色や形などのちがいを考えて組み合わせ組み立てができる。
材料・技法	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆、クレヨン、パス、水えのぐ、指えのぐ、粘土、草木の葉、色紙、中厚紙、自然材料、人工材料 紙を切り、折り、典げ方 のりのつけ方 はさみのつかい方 印を押す 描く、配列 ちぎってはる 	<p>同左</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙の接合 組み立て 押しして・実物を並べる はりつけて 自由に描く 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の紙の扱い方 材料を扱う技術（三角定木コンパス、小刀等） 自然発生的方法の図示
指導の要素	<ul style="list-style-type: none"> くり返し 自由配列 表現材料の名まえを知る 色のなかま 興味のおもむくままにやらせる 	<ul style="list-style-type: none"> くり返し（強調） 対称 自由配列（つり合い） 配色のよしあしに感心 同じ名前の色にもちがったものの色がある 	<ul style="list-style-type: none"> くり返し リズム 対称 自由配列 配色のよしあし 色のつりあい 色の調和、色あい、混合 暖色 寒色 中性色

		<ul style="list-style-type: none"> 目立つ 目立たぬ色 自由構成 用途
--	--	--

○ 4年～6年までの系統内容

	小4年	小5年	小6年
ねら	<ul style="list-style-type: none"> 材料の性質を考えて目的に応じた工夫をしながら飾りをつくる 配色や構成の効果を考えてつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 装飾するものの目的や用途を考えて効果的にデザインすることができる。 色や形などの平面構成や立体構成の力をのばす 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特色や美的効果を考えて目的、用途に応じた飾りのデザインができる 同左
材料・技法	<ul style="list-style-type: none"> 精密 大づかみ 形を主とする等の描写 彫刻刀の使い方 各種の紙の扱い方 粘土による成形 竹・木の初歩的扱い 道具の初歩的な扱い 簡単な展開図 	<ul style="list-style-type: none"> 各紙・粘土・竹・木・針金・板金 同左 単純化 特徴描写 木材 板金 針金の曲げ方 切り方 削り方 接合方法 図法的表現に近づける 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 意図的な図法
指導の要素	<ul style="list-style-type: none"> くり返し リズム 変化と統一 対称 つりあい 計画的な配色 主調色 色あい 明るさ ざやかさ 	<ul style="list-style-type: none"> 対称（大小 強弱） つり合い（バランス） 強調 アクセント 動き 変化（だんだん小さく 強く） 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 色の混合実験





	小4年	小5年	小6年
指導の要素	<ul style="list-style-type: none"> ・有彩色と無彩色 混色 ・色の寒暖 明暗 強弱 ・平面 立体的なものにも ・自由構成 ・用途 明視 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きとリズム ・明度 彩度段階 ・にぎやかさ ・おちついた配色 ・寒暖 目立つ 目立たぬ ・平面 立体的デザイン ・自由構成 用途 ・対比現象 色の機能使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の混合実験 ・デザインの意味 ・意図的配色 ・配色効果の判断 ・色の機能的使用 ・対比

以上、系統表にも示したが更にこの様な複雑多岐にわたるデザイン学習の要素を分析的に整理し系統づけることは、いはやすくして実際には容易なことではない。

しかも、デザインの学習内容(教材)をどの様な方向から引き出すかが問題である。そして、できる限り内容や活動を明確化したいと願っている。

◇ デザイン活動の分類

デザイン活動をとおして多くのことを経験させる事は必要なことなのだが、前述した通りその多くはむずかしい。そこで子どもの実態からその活動を把握しながら次の様なデザイン活動の分類ができる。効果的な分類(学習活動)として

1. 子どもの装飾的な欲求を基にして、美しい装飾活動を中心にきれいな模様づくりやつるす飾りなどをつくる装飾的な活動
2. 色や材質を生かしたデザインの基礎練習的なものを中心としてならべる模様などをつくる基礎的な活動
3. 自分のねがいや知らせたいことを絵や文字に効果的に使ってくふうするポスターなどをつくる伝達的な活動
4. 図の役目を果たすための機能の要素を考えながらデザインする手さげだとか大切なものを入れる小箱づくりとかのような機能的な活動
5. 丈夫なものを作るために構造への関心を深める経験をする画用紙の家や橋や塔を作る構造的な活動
6. てこや滑車などの機構をうまく活用して作るうごく車

のような機能的な活動

7. 生活の周囲のさまざまな造形材料を処理する技能を育てる技法経験の活動

以上の分類はそれぞれの活動を学年をとおしてみる横のつながりの中で更に具体的に教材(学習内容)を指導することによりデザイン活動は明確化するのではないだろうか。

◇ デザイン活動の迫り方

デザイン活動を分類した中でその活動に含まれる内容を具体的に見つめる必要がある。その内容は単なる教材の配列に終るのではなく、内容のもつ意味(ねらい)とか、どんな位置にあるのか、その学習をとおして何を子ども達に与え、何を子どもの中から引き出すのかを考えてみたい。

◇ デザイン活動のしほり

そこで本研究は3つのデザイン活動の面から子ども達の姿をとらえる事になった。

イ 装飾的な活動を中心としてこの中から内容を考える。(3B分科会提言)

ロ 基礎的な練習を中心とした基礎的活動の中から内容を考える(2B分科会提言)

ハ 伝達的な活動を中心としてこの中から内容を考える(6B分科会提言)

他の活動面に於ける研究は次年度とし、上の3つの活動を次の面から検討し研究していく事で進められてきた。

1. 表現活動を通して

2. 授業を通して

併せて本大会学年テーマに添いながら子どもたちの喜びを豊かな表現力へと結びつかすための指導の手だて(指導の構築)をより吟味するという観点で検討が進められた。

中 学 年 提 言

装飾的な活動を通してのデザイン学習

◇ 装飾ということ

子どもの最も子どもらしい活動は遊びの中にみることができる。

土の上に釘やチョークで模様ギ輪をかいいたり、又木の葉や木片でいろいろな形に並べて遊ぶことが大好きである。材料により場所によりその場その場に見合う遊びを必然的に見つけ出し自分のねがいを遊びの中に上手にとり入れていく。

この様に子ども達は遊びの中から身につける飾りや装飾的な活動を通して表現する意欲に向ってくる。そこで装飾ということをおさえる

1. 人間の欲求にもとづく装飾活動をとおして、身につける飾りから徐々に自分を取りまく環境の装飾へと進む必要がある。

2. 装飾する場を通して自己表現の可能性を高めることが必要である。

としておさえた。又、子どもの持つ表現意欲を湧き起こさせるために視点をかえた装飾のおさえも必要となってくる。

例えば、3年の「いろいろな模様で飾る」では単なる模様の表現のみにとどまらず墨流し(マーブリグ)や紙染めの学習からその利用を考えさせ、空かんにきれいに飾ることにより美しいえんぴつ立てが出来上るといような事を考えてみた。

又、この美しさを生かすもよきを、どこに並べるか、どこにはるか、どこに飾るかで工夫させることにより環境への働きも可能なのである。

◇ 装飾のおさえ

次に装飾のおさを横のつながり学年の発達段階でとらえる必要がある。

ごく一般的にとらえ方であるがこの様な事をふまえて内容に入れることが望ましい。

学年別の装飾のおさえ

	基本的な内容	留意点
1年	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの装飾的本能の欲求を満たさせるために、日常生活の中から簡単な身近なものの飾りを造形的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの装飾活動は旺盛で過剰な表わし方が常である。したがって最初から色や形などを制限するのではなく、子ども自身がやったという意欲を發揮させることを認めてやりたい。 作品には半立体、立体にも及ぶ
2年	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活にも慣れ、教室や学校行事に関心を示すようになる。このような環境の中 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身が使うものを飾るにしても、できあがりの効果を考え用途に適合した色、形、材質をえ

年	<ul style="list-style-type: none"> で飾りの経験を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> らぶことができるようにさせる。 身につける飾り、教室などの部屋飾りにも関心をもたせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> できあがりの効果を考えながら自分の身のまわりの飾りをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、学芸発表会などの学校行事に関連した飾りを楽しく表現させる。 自分たちの遊びや使うものの飾りを自由に楽しく表現させる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 材料の性質を考え、目的に応じた飾りをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の室の中、学校の教室や廊下などの身近な生活環境を楽しく美しくするために役立つ飾りをつくる。 学校の廊下には共同で作ったものを飾る。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 目的や形態に応じた飾り方のくふうをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 役にたつものや使うものを自分なりにくふうして楽しい飾りをつくる。 飾りも単なる飾りではなく、そのものに意味をもたせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 飾る場所や効果を考えてデザインする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内や自分のくらしの環境構成を考えながら平面のみではなく、立体的に飾りをくふうする。 技術的に困難な材料の必要な場合は計画的な段階で紙の作品でもよい。

以上装飾の基本的内容をおさえたが、ここで子どもの実態から、装飾活動の教材の位置づけを考えてみたい。

◇ 装飾活動の位置づけ(装飾への関心と実態)

「身につける飾りの中でハンカチをとり上げ、このハンカチを白い布から、男の人の持つハンカチと女の人が持つハンカチにわけて飾って下さい」

「今白いハンカチをこの白い画用紙におきかえ、材料はマジック、色鉛筆を使用してかいて下さい。」「時間は2

時間以内でしあげて下さい」

と云って20cmの正方形の紙を渡し調査した結果が別表の通りである。

資料1. は主に子どもが最もふさわしいものとしてハンカチに描いた図柄である。

資料2. は男と女との図柄のちがいを示す。

◇ 飾る活動の教材の配列

子どもの装飾本能を満足させる中で明確にこの教材が装飾そのものの要素を持っているとは言いきれない訳である。それで下記に取り上げた教材の配列もその教材の中で幾分なりとも他の要素よりは飾る活動の要素が強く入っていると言うことで考えてみた。

学年	教材	内容
1年	・むしのきもの	・型押しで模様をつけたり、絵の具などで色をぬったりして想像した虫に着物をさせることで装飾性を満足させる。
2年	・とりで飾る	・色画用紙できれいな鳥を作りみんなで教室に飾る ・鳥を教室のどこへ飾るか飾り方を工夫させる。
3年	・美しいもよう で飾ろう	・いろいろな美しいもようを考えてつくり、いろいろなものに飾る。(もようの美しさ飾る楽しさを味わう)
4年	・身につけるかざり	・紙を中心素材として、かぶるものやきしよなどを作る。 ・材料をくふうし実際に使えるように寸法をはかってつくる
5年	・壁かざり	・板を使って壁面を飾るものを考えさせ、切って彫刻し壁飾りをつくる。壁面に飾るものの形をくふうさせる。
6年	・つるす飾り	・空間に動く形をくふうしてつるす飾りをつくる。 ・紙を使って立体的な美しさを表現させる。

◇ 実践例と授業のくみため

ここに示す3年の指導案は教材のたてのおさえとしてと

らえ、1年、6年の指導案は教材のよこのおさえとして書かれている。(2.4.5年については略す)

次に実際の授業に当って

デザイン学習の授業の基本的な手順をこまかくわけるとはより子どもの活動が具体化し主体的に活動することができると考えられる。そこで、授業の関心を高めるため、装飾的要素を持つ以外の要素は出来るだけさけて装飾的要素を主眼とした。



の段階で考えてみたが、従来の導入—展開—終末と云う形

から一歩ふみこんだ流れをとり、教師から子どもにどの様なものを与えるか、又子どもの中から何を引き出そうとするのかを中心にして考えて授業の組立てを行なった。結果を作品を通して判断するのではなく、指導の過程を重視するのはどの教科でも同じである。特に、豊かにいきいきとした子どもをとらえるためにはデザイン活動を通しどの段階でも子どもが主体的に活動していることが大切である。

◇ 問題点

1. 子ども達の装飾本能を満足させるための指導の在り方
2. 装飾活動を通して養なわれるために必要な教材の示し方と能力について
3. “たしかなものを作る子どもを育てるための指導”の中学年テーマとのかかわりをどのようにおさえたらよいか。
4. 授業の組み立てをどの様にしたら効果的なのか。
5. その他

以上である。

むしのきもの <小1>

1. 題材について

きれいな着物を着せましようといった発想で、子どもの装飾性を十分に満足させようとする。特に好きな虫をテーマにさせ楽しい模様作りの喜びを味わわせる。

2. 題材のめあて



- 好きな虫をテーマにさせ楽しい模様作りの喜びを味わわせる。
- 点や線やいろいろな形を自由に組み合わせたり、いろいろな色を使って色彩豊かに表現する態度を育てる。

3. 指導計画 2時間

4. 授業の展開

時間	与えるもの	表現活動	ひきだすもの
45	条件・提示 表 現	<ul style="list-style-type: none"> どんな虫が好きか、どんな形をしているか発表をしてかく虫を決める。 図鑑、スライドを用意して見せる 形は自由にとらせる 	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫採集の経験をとおしているいろいろな虫の名まえを引きだす
		<ul style="list-style-type: none"> 虫の図鑑や写真を中心にして話し合いをする 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の造形の美に目を向けかこうとする雰囲気をつくる
		<ul style="list-style-type: none"> かく虫を決める 	<ul style="list-style-type: none"> 小さな虫を沢山かくのではなく1匹の虫を大きくかくことにしほる 虫の形は実存の虫にこだわらず自分の虫を考えさせる。 ていねいに作業をしハサミを上手に使うことを知る。 クレヨン、パス、水彩
		<ul style="list-style-type: none"> 手、足、ひげなどの細かい部分はあとからつけ加えてもよいことを知らせる 型押し、水彩えのぐ、パス、クレヨンを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 虫の形にきれいな着物を着せる気持で模様をかく

45	鑑	<ul style="list-style-type: none"> 台紙(色模造紙) のりづけをていねいにさせる 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ色を沢山使う できたら色台紙にはりつける かき足りないところがないか見直してみる できた作品の話し合い 	併用自分で好きな材料をえらぶ <ul style="list-style-type: none"> 点や線でいろいろな組み合わせたりいろいろな色を使うことに気づかせる。 色台紙の色とり合わせを考える おもしろい表現や工夫してある作品
	賞	<ul style="list-style-type: none"> 全員の作品を展示して鑑賞する 虫の種類ごとに話し合う 		

5. 評価
- 虫の形が大きくいっぱいにかけたか。
 - いろいろな模様をくふうし2色が楽しく使えたか。

つるす飾り (モビール)

<小6>

1. 題材について

日常生活の中にも、つりさげて飾るものとして正月のまゆ玉、風鈴、くす玉などがある。このようにつるす飾りをいくつかの形を組み合わせたりつり下げ、その動きや変化のおもしろさによって、空間(環境)の利用を考えたい。

2. 題材のめあて

- つり合いをくふうしながら、空気の流動につれてさまざまに変化する美しい動く形を作らせる。
- どうすればうまくつり合いがとれ、よく動くか、材料形のつるしかたをくふうさせる。

3. 指導計画 2時間





4. 授業の展開

時間	与えるもの	表現活動	引きだすもの
45	条件提示	<ul style="list-style-type: none"> 使用する材料と色をきめる 	<ul style="list-style-type: none"> 材料をじぶんで集めようとする心がけをもつ
	表	<ul style="list-style-type: none"> どのような形にするかもとになる形を決める 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな形のアイデアをスケッチブックでねる
現	表	<ul style="list-style-type: none"> 材料から形を切り抜きさらにそれぞれの形を整えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとちがったおもしろい形を考える
	表	<ul style="list-style-type: none"> 組んで形を作ったり、えのぐをぬったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ていねいな作業をするように心がける
現	表	<ul style="list-style-type: none"> つるしても形がかわらないようにくふうする 	<ul style="list-style-type: none"> つり糸の長さともとのつり合いの間かくを考えさせる。
	表	<ul style="list-style-type: none"> 下のほうからつり合いをとりながら順次上の 	<ul style="list-style-type: none"> ものの重心をどこにおくか考えさせ、つり糸の位置を決

鑑賞	の組み合わせ色の組み合わせ)	ほうへつり下げる	める。
	45	<ul style="list-style-type: none"> でき上ったら全体のつり合いをたしかめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 適当な重りをつりさげること気づかせる。 色や形、つり合いのとれたもの

5. 評価
- うまくつり合いがとれ、よく動く美しい形を作ることができたか。
 - 材料の性質を効果的に生かされたか。

きれいなもようをかざろう<小3>

—— たしかめるものを創る 子どもを育てるための指導 ——

- 題材について
 - ◎ 1, 2年ではいろいろな形や色を自由に組み合わせたり組み立てたりしている。ここでは更に意図的に形や色を使ってきれいなもようを作らせる。又単に模様を作るだけではなく自分の身の回りの物に(えんぴつ立て)きれいな模様をはらせることにより、環境への働きかけを通して創作する喜びを味わせたい。
 - ◎特に本時は既成のパターンにとらわれず、オートマチック・パターンをとり上げ、紙染、墨流しを通した偶然性の中から鉛筆立てにはる模様を考え表現させたい。飾る喜びを一層染めていきたい。
- 題材のめあて
 - ◎同じ形のくり返しのもようを紙染や型紙を使ってつくり、その美しさを味あわせたい。
 - ◎同じ型(型紙を利用)でも並べ方をかえさせることにより感じが変わることに気づかせる。
 - ◎明るい配色になる様に工夫させる。
 - ◎いろいろな表現法があることに気づかせる(マーブルング)は半偶然性の作業であるが、3年の段階では偶然性が強く表現されても、その技法を習得することにより子

どもの表現活動の栄養となることをねらいたい。紙染も、紙の質を知る上で大切なことと思う。型紙を利用することは、同じ形をくり返す手段として一番良いことを理解させる。))

◎自分のねがいにあったきれいなもようでかざることができるようにさせる。

(デザインは、美と用途とのからみ合せが一番大切である、その意味で3学年で少しでもその経験をさせ、それを習慣づけることにより、今後の創作活動が確かなものになり、学習が定着すると考える)

3. 本時までの教材の経過

いろいろなもよう

ねらい—2年時の延長として楽しい感じを出る様に工夫させる。

・同じ形をならべさせる。

材料—画用紙四つ切、たてわり、水彩、クレヨン

技法—クレヨンの水をはじく事を利用し、はじめにクレヨンでもようをならべのちに水彩をぬる

反省—子供達は大変よろこんで作業をしたがもようをならべることに抵抗を感じていた。

友だちの顔

ねらい—新しい仲間づくりの手段としてやらせる。

・顔の色は、はだ色としてきめつけず見える色を忠実に表現させる。

材料—四つ切画用紙 クレヨン 水彩

技法—水彩の正しい使用方法

反省—どの児童も画面一っぱいに表現、しかし、筆等の不備から着色時に抵抗を感じている。

教室のようすをかく

ねらい—教室のようすを観察し、こまかく表現させる。これは新しい環境を見つめ、なれさせることと観察力を養わせる。

材料—八つ切白画用紙、黒ボールペン

技法—ボールペンによる線がき

反省—子供達の物の見方がまだ出来ていなく自分のねがいが表現されない面が多々あった。

ひつかけ画

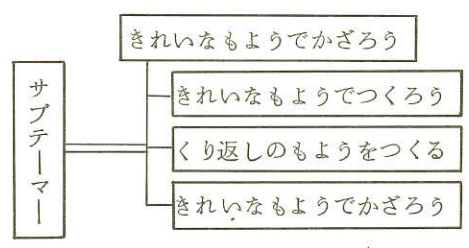
ねらい—明るい色、暗い色の区別をはっきりわからせる。

・線の集りの美しさを味わわせる。

材料—八つ切画用紙、クレヨン、くぎ

技法—明るい色を画面にぬり、その上に暗い色をぬりつぶすその後くぎ等で線の集りのもようをかく。

反省—はじめ自分で明るい色と思っていた色があとで見るとよく見えない、そこで子供達は自分の考えがまちがいであることに気づき、明るい色と暗い色との区別をはっきりした、又より明るい色はよりはっきり見えたことで満足感をもっていた、線の集合は、ただたんにきれいだと言ふことのみで終わった。



[本時 (6/6)]

4. サブテーマーの流れ

きれいなもようをつくろう

(2時間)

・ねらい

1. マープリング(すみ流し)の方法により美しいもようができることを知らせる。

2. 紙染めによりくり返しのもようができることを知らせる。

・材料 油性絵の具、とかし油、八つ切画用紙、和紙、半紙、とかしざら、水彩

・方法 二つのグループに分け 1.教時と 2.教時にマープリングするグループと、紙染をするグループを交替させる。

・技法 マープリングは油性絵の具をとかし、水の中に入れ、ういている色を八つ切画用紙にうつしとる。

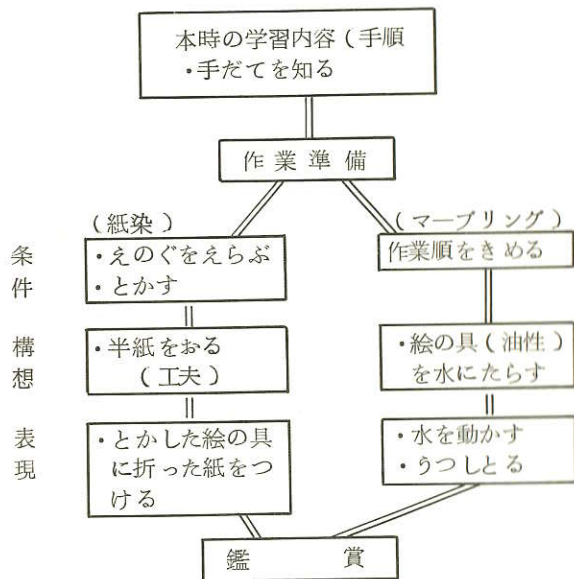
紙染は半紙で試作をかねとかしざらにとかした水彩絵の具につける、この時折り方を工夫させる、その後和紙を配布し同じ様にさせる。そこにはとうぜん水の吸収のちがいがあらわれ、紙の質をも理解することになる。

・ひきだすもの マープリングと紙染の美しさを理解させる。



- 準備をしっかりしなければならぬことを知らせる。
- どんな色がよいかを考えさせる
- 油は水にうくため作業しやすいことを理解させる。
- 水のうごきにより半意図的な美しいもようができることを理解させる。
- 紙の折り方を工夫させる
- 紙の性質を理解させる
- 作品をだいにさせる

• 表現活動



• 教師の発言, 助言, 活動

- 準備の確認
- グループをわける
- グループの作業内容を指示
- 水と油との関係を発問
- 紙の折り方を工夫させる
- 水の動かし方を指示
- 作業への指示

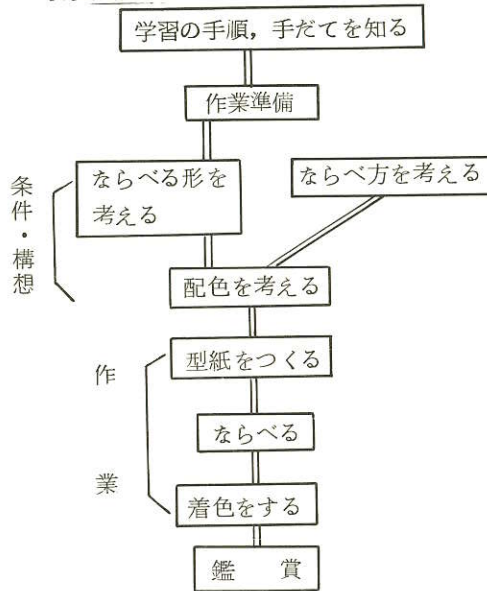
くり返しのもようをつくろう (3時間)

• ねらい

1. 同じ形をならべる方法として型紙をつかうとよいことを理解させる。

2. ならべ方(バラバラ, よこ, たてその他)によって美しさがちがうことを理解させる。
 3. 明るく楽しい配色を工夫させ理解させる
- 材料 八つ切画用紙, サインペン, 色鉛筆, 水彩, 色紙, のり, ハサミ
 - 技法 型紙をつかってならべる
 - ひきだすもの 同じ形のくり返しの美しさを理解させる
 - ならべる形を考えさせる
 - ならべ方を考えさせる
 - 単純な形でもきれいになることを理解させる
 - 明るくて楽しい色を確認させる

• 表現活動



• 教師の発言, 助言, 活動

- 準備の確認
- 本時の学習内容を指示
- ならべる形, ならべ方, 配色を考えさせる

きれいなもようをかざろう (1時間)

本時 6/6

• ねらい

いままでにつくったきれいなもよう, くり返しのもようをどのように利用すれば自分のねがいにあうかを, エンピツたてづくりを通して理解させる
(展開 「大会要項」に記載)

低学年提言

色や形を生かした 基礎的なデザイン学習

あらかずことの喜びをもつ

子ども育てるための指導

◇ 基礎的活動のおさえ

小さな子どもの遊びを注意して見ると、石を並べたり、花を飾ったり、鮮やかな色彩を好んだりする場面がよく見られる。これは飾るという本能からするものと考えられる。

また、子どもが、ちょうや熱帯魚の色や形、模様的美しさを見て「きれいだな」「美しいな」と、叫ぶことがある。美しいなと感ずるのは他人から教えられたものではなく、自然にその美しさを感じとっているからである。それで、模様には、自然の美しく見えるきまりと全く同じきまりがあることに気づかせたい。〔秩序〕

例えば、低学年のデザイン学習で、木を1本かくと、それだけでも模様になる。それをきれいに並べると並木になり、もっと沢山かけば、林、森と発展していく。そのかき方、並べ方にもっと工夫するところにデザインの初歩があると考えられる。

基礎デザインでは、何のための模様であるかということにこだわらず、すきな模様をかいたり、さらに、平面的な色や形の組み合わせをさせたり、色彩感覚のトレーニングをしたりすることに力を入れたいと思う。それがやがて目的をもったデザインのための基礎となり、或いは造形表現一般の基礎となるものとする。

◇ いきいきとした表現をさせるためのおさえ

美しい模様にはそれなりのきまり〔造形要素〕がある。そのきまりをわからせ、造形的な感覚を育てるには、子どもたちに、次のようなことをひとりひとりに無理のないように気づかせたいと思う。（基礎デザインから作品へのてだてとして方向づけをするために子どもに理解させたいことは次の通りである。）

(1) 造形あそびをとうしての感覚訓練

◎色や形、材料などの組み合わせの効果が作品にあたえる影響が大きい。作品の、よし、あしは別として子どもが自分のねらいに近づけるために繰り返し、表現活動の中でたしかめをさせる事が必要である。〔子どもらしい発想を何度も表現活動の中で確かめさせ、その中で気づかせたい。〕

(2) 美的造形感覚訓練

- ◎ 色や形、材料の組み合わせ方によって、ひとつのリズム感をもったり、バランスを感じたり、方向や動きを感じるものである。〔子どもは言葉としてリズム、バランスを知らなくても、あなたの脈はくは1つのリズムですね、などの助言によって気付かせたい。〕
- ◎ 美しい構成にはそれなりに、そこに美しい構成をするための秩序を見出すことができる。〔自然の美しさに気づき、それをイメージ化して、すばらしいアイデアになることに気付かせたい。〕



◇ 学年基礎のおさえ

	基本的内容	留意点
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・色や形などを組み合わせたり、組み立てたりすることに興味をもち、遊びを通して色や形を感覚的に見わけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな材料を使って好きな形を自由につくらせ、材質感を知らせるようにする。 ・色や形のなまえをしっかりと理解するようにさせたい。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・形やもようを見つけたり、作りだしたりして、色や形、材質の組み合わせのおもしろさに関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな美しい自然の物のおもしろさを見つけさせたい。 ・色や形のならべ方で、対称、くりかえし、さびしい、にぎやか、など考えさせるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・色や形の組み合わせによって、リズム感のあるものに関心をもつことができるようにする。〔対称やリズム感についての理解〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・色あいや、暖色、寒色の感じの色の性質に気づかせ、つねに配色のくふうをさせたい。 ・組みたてをするとき、対称やリズム感を生かすようにさせたい。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な秩序について初歩的な理解をもってしたり、色や形などの効果を考えて構成ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の軽い、重い、強い、弱い、リズムを生かして構成させたい。 ・効果を考えて、見通しを立てて構成するようにさせたい。



	基本的内容	留意点
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な秩序について理解し、それを生かして構成ができるようにする。色や形の効果を考え、平面構成、立体構成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定、動き、つりあいなどの感じをつねに生かして構成させるようにしたい。 ・条件や制約をうけて、自由な平面構成や立体構成をさせたい。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・常に感覚的な美しさと、機能的合理性の調和を考慮して構成に関心をもってする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形について、空間と形とがうまく調和しているか、多くの経験によってわからせたい。 ・色の主調色を考え、調和のとれた配色をさせる。

◇ 学年別題材系列

1年	虫のぎょうれつ	自由配列	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を考慮して与えられた簡単な条件の中で、きれいな虫を沢山くりかえしてもようをつくる。
2年	ふしぎな花めずらしい花がいっぱい	自由配列	公開授業
3年	ちょうの模样	みとおしをたてて	<ul style="list-style-type: none"> ・ならべ方を工夫してちょうのおもしろい模様を作らせる。リズム感のある表現をさせる。
4年	線のもよう	みとおしをたてて	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な線を組み合わせ、もようを工夫して作らせる〔太い線、細い線、真直ぐな線を考慮して〕
5年	いろいろな表わし方	自由構成条件制約	<ul style="list-style-type: none"> ・色や形、材料の組み合わせ方の変化により感じがちがうことを考慮して平面構成をする。

6年	プリンティング	自由構成条件制約	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ単位形をくりかえし押捺することにより複雑な模様をつくる。単位形、方向を考えて構成する。
----	---------	----------	--

◇ 基礎デザインの位置づけ

基礎的デザインを大きく別けると ① 絵もよう〔具象形のパターン〕 ② 線と構成〔リズム・バランス・その他〕 ③ 色彩と構成〔モダンテクニック その他〕になる。これ等はたんに広い意味でのデザインの基礎ばかりではなく、造形表現全般の基礎になると考えられる造形活動である。

したがって、基礎的デザインのなかには、即効的に効果のあらわれるものと、広い意味で造形感覚を高めるといったものがあり、目に見えてその効果を期待できるものは、いちがいにいいきれない。しかし、長い目で見たとき、繰り返された学習経験が、造形表現のうえで大きく役立ってくると考えられる。

- ・ ゆたかな発想で表現の可能性を確かめるには……低学年では、子どもにあそびの自由な立場の中で、自然発生的な造形活動をさせながら、自分なりの表現方法を見つけさせデザインの芽を育てていきたい。しかし高学年になるにつれて、課題の範囲をしぼり、目的をはっきりもたすようし、使用する材料や技術的な取り扱いに制限をつけたり、条件をつけたりして、その限界内で自由に発想させ、個性に合った解決方法を見つけさせたい。
- ・ 美的造形感覚を身につけるには……きれいだな…美しいなと感じるのは、それを構成している色、形、材料などの造形の要素の間に、リズム、バランス、その他、など、ある秩序を、いろいろな経験をとおして体得させたい。
- ・ 色彩について……色あいの違いや明るさ、あざやかさなど、これらの性質を組み合わせることによって、目的に合った効果的な配色ができることを知らせる。また、色には、同じ色でも、まわりの色との関係で違った感じに見えたり、重く見えたり、軽く見えるなどがある。これらについても、実際に確かめさせたい。色彩についての学習は、たんに理解させるだけでなく

それが造形表現にも、また実際の生活のなかにも生かすように気づかせ、自分の生活をより豊かにするように、くふうさせたい。

◇ [実践例]

3年 デザイン 「いろいろなもの」
[ちょうのもの] 基礎

1. 題材観

◎3年生は低学年時代の未分化状態から脱して、これまでの学習[ならべてかこう]をすこしずつ整理しなければならない。また初歩的な造形要素に気づくようになってくるのがこの時期といえよう。この時期に、この題材を設定して、配色や形の組み合わせ[リズム、対称、つり合い]を学習することにより、美的な秩序や合理性について、少しづつ気づかせ、今後の造形学習への基礎能力としたい。

2. 題材のめあて

- ・ちょうの形や色の組み合わせをくふうして、模様を作らせる。
- ・同じ単位形がくりかえされて模様ができることを知らせる。
- ・クレヨンやパスの排水性を利用しての技法を習得させるとともに装飾の意欲を高める。

3. 指導計画

- ① 表現効果をたしかめながら動きのある模様の構想をねる。 1時
- ② 構想をまとめ完成する。 1時

4. 準備するもの

・サインペン、クレヨン、えの具、参考作品、画用紙

5. 本時のながれ

時 節	与えるもの	学 習 経 路	ひきだすもの
第 1 時	(準備)	◎本時のめあてを知る	・色や形の組み合わせ方によっていろいろな感じの模様ができることを確める。
	(条件提示)	◎自由配列 ・変化・対称、リズム・配	◎画用紙に、きれいな形のおもしろいちょうをたくさんかくこ

時 節	与えるもの	学 習 経 路	ひきだすもの	
第 1 時	(条件提示)	色のよしあし	とにより[くり返しのリズム、変化、対称、動き]構成をすることができることを知る。	
		◎構成を表現することを知る	◎どんな感じのもようにするか発想する	
	(構想)		◎構想する	◎考えたことを小さな紙にかく[うずまきとかひろがり]
		◎配色の効果を考える	◎構想をもとに形を構成する。	・すんだ色・にごった色・色の寒暖
		◎サインペンで形をかく	◎クレヨンで色をぬる	・画用紙に大きな配置を考える
	(表現)	◎サインペンで形をかく	◎不備なところを、全体をみて、メモに合っているか考えながらかき加える。	・形を考えたながら目的に合った配列をする
		◎クレヨンで配色する	◎不備なところを補充する	・効果的なかき方を工夫する
		◎サインペンで形をかく	◎絵の具を全面にぬる	・形や色について確認して不備な点について気付かせる
		◎サインペンで形をかく	◎学習過程を思い出す	・自分の選んだ色について考える
		◎サインペンで形をかく	◎自己評価	

第 2 時

(再現)

(鑑賞)



時 節	与えるもの	学習経路	ひきだすもの
		とをかく	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品のよい点に気づかせる よかった点と面白かった点についてメモ

5. 指導後の結果

発想の段階では全員、構成目的がしっかりして意欲的に楽しく活動していたが、途中で迷いがでた子どもが少数いた。その子どもたちには、大いに自信をつけさせるようにしたり、直接的な話し方をさげヒントを与えるようにした。ヒントには子どもたち個々の発想メモが大いに役立ったようである。

指導助言はひとりひとりの子どもの立場にたって相談するつもりとする事が大切だと実感した。

ロ <実践例>

デザイン 「プリンティング」

<小6> 基礎

1. 題材観

・高学年での模様作りは、目的をはっきりもたせ、使用する材料やその技術的な取り扱いなどに制限を加えたり、条件をつけたりして、その限度内で発想して、自分の個性に応じた解決方法をみつけるようにすることが大切である。この題材を設定して、単位の形をもとにして、方向、色彩などをくふうして構成させたい。〔幾何図形的なもの〕

2. 題材のめあて……同じ単位形をくりかえし押捺することにより、複雑な模様ができることを知る。単位の形、方向、色彩などをくふうして構成させる。

3. 指導計画 ① 目的を考えて発想し消しゴムの単位形を作る。……………1時

② 限られた色数で、色面効果を考え乍ら構成する。……………1時

4. 準備するもの、消しゴム、彫刻刀、色画用紙、絵の具、鉛筆、ものさし

5. 本時のながれ

時 節	与えるもの	学習経路	ひきだすもの
第 1 時	(準備) ◎本時のめあてを知る。 ◎作品例やその他の資料を見せて、考えをまとめる。 ◎四方連続模様 ・おし方のくふう ・色面効果	・消しゴムの単位形をくりかえして押捺することにより模様ができることを知る。 [単位形、方向、変化、密度]	・学習意欲を高める。 ・単位形から模様ができるところに興味をもちます。
		・色画用紙は好みの色により選定する。 ・単位形のくりかえしにより四方連続模様をつくることを知らせ、正逆種々なおし方、色彩による変化をくふうすることを考えて発想する。	・自分なりに単位形、変化、密度、色面効果を考えて構想する。 ・色画用紙に配置を考えて、単位形のデザインをする〔目的に合った単位形であること〕 ・効果的な配色をくふうする。 (◎精神的なねばりのある活動をさせたい)
第 2 時	(発想) ◎構想する ◎消しゴムの両面、側面の活用も考えさせる。 ◎彫線をはっきり深くしなないと、塗った絵の具が線を越えることがある。	・構想をもとに単位形のデザインをし彫刻する〔消しゴムの大きさを基準とする。〕 ◎限られた色数で、色面効果を考え乍ら美しい構成をする。	
		・計画にしたがって色画用紙に鉛筆で線を	



時 節	与えるもの	学習経路	ひきだしもの
第2時 (鑑賞)	◎型の角をきちんと位置づけていかないと配列が上手にできない。	引く ・単位形に絵の具をつける。 その単位形をくりかえし押捺して模様をつくる。	・自分の作品のよい点に気づかせる 不備な点についても反省させる
	◎学習過程を思い出す。自己評価	◎自分たちの作品を見合っ てわかることを発表する。	
		◎あとしまつ	

6. 指導後の結果 ・子どもの活動は全般的に意欲的にやっていたようであるが、全体的に単位形の近代感覚が乏しいのが惜まれた。

反省と問題点……・基礎的デザインの系統性をどのようにおさえたらよいか。
・基礎的デザインの学習をするときの学年的習慣〔学習方法〕をどのようにして子どもにうえつけたらよいか。

ふしぎな花、 めずらしい花いっぱい <小2>

—あらかわすことの喜びをもつ
子供を育てるための指導—

第1次 センのもよう (2時間扱い)

〔ねらい〕 画用紙いっぱいに、いろいろな色の線で自由に模様を作らせる。

〔材 料〕 画用紙8切大 クレヨン 色鉛筆 水彩えのぐ 速乾性インキ(カラーペン)

〔作品の傾向〕 白地の画用紙には発色のよいカラーペンに人気があった。

- ① いろいろな色や線を組み合わせ具象的な形を表現したもの
- ② 連続模様の的に表現したもの
- ③ 左右対称的に表現したもの

④ 放射状的に表現したもの

⑤ ①②③④が複合されたもの

子どもは自由な線や色の動きに喜びを感じた

㊦ 野原であそんでいる気持ちでかいた。

㊧ 先生、どこへ行ってみたいですか。ゆめの国へ行ったような気持ちです。

㊨ うれしい気持ちでかいた。きれいになるようにと思っ
てかいた

第2次 いろのなかま (2時間扱い)

〔ねらい〕 色には暖かい感じのする色や寒い感じのする色のあることに気づかせ、クレヨン、水彩えのぐ、色紙などを使い色のなかまあつめをし、すきな模様を作らせる。

〔材 料〕 画用紙8切大 クレヨン 水彩えのぐ、色紙、糊、はさみ 手ふきなど

〔作品の傾向〕 材料の中の色を暖かい感じの色と寒い感じのする色とどちらにも入らない色とに区別させ、どちらにも入らない色は除いてから作業にはいりスムーズにいった。

㊩ さむい色の模様と暖かい色の模様がかけてよかった

㊪ 色のなかまがわかって、おもしろかった。今まであまり意識していなかった色に対する違いを発見し、それを使う喜び。

第3次 感覚練習(1)補充教材 (1時間扱い)

〔ねらい〕 すきな色3色を選ばせ、その色を使って丸、三角、直線の3種を組み合わせ美しく並べさせる。

〔材 料〕 画用紙8切 1/2大 クレヨン

〔作品の傾向〕 条件のものをいろいろ組み合わせて個々の形を考え出し部分的な表現をしたものや具象化した形が多かった。

(花型 リボン 太陽 ロケット 人形)

第4次 感覚練習(2) 補充教材 (1時間扱い)

〔ねらい〕 ・教師の指示によって机の上におはじきや棒をならべ、自由配列の学習経験の上に条件設定による配列の約束など少しずつ秩序の中の美しさを気づかせる。

第5次 木がいっぱい (4時間扱い)

〔ねらい〕 ・木の観察からいろいろな木を更紙にかき、その中から空想をまじえた木のパターンを決めさせそれをもとに大きさや並べ方をくふうし



た模様をつくらせる。

〔材料〕 更紙 1/2大 画用紙 8切 1/2大 画用紙 4切大 クレヨン カラーペン 水彩えのぐ 色鉛筆など

〔作品の傾向〕 自然を見つめ新しい発見、驚き、喜び、それらからのヒント 創作

㊦ ぼくは木を見て、すごく高いからびっくりして、いろいろな木をかきました。

㊧ 木がいっぱい並んでいるから木の国へ行っている気持ちでかきました。

(例 子どもが作った木のパターン)



第6次 ふしぎな花・めずらしい花

(補充教材・・・1時間扱い)

〔ねらい〕 ・色や形の違った空想の花をたくさん創作させ、まず目の中に10種程描かせる。

〔材料〕 色鉛筆 カラーペン クレヨン 画用紙 8切 1/2大

〔作品の傾向〕 概念的な花の意識から脱皮

- ㊦ これはチューリップをヒントに描いた
- ㊧ 星とか雪、昆虫の形をヒントに描いた
- ㊨ めずらしい花がさいてきました。そしてよりになる花になるかもしれない。

(例 児童が作った花のパターン)



第7次 ふしぎな花・めずらしい花がならんだ(第6次の発展教材・・・2時間扱い)

〔ねらい〕 画用紙に色紙を切って作った植木鉢を配列しクレヨンやカラーペンで独創的な花を植えるように描かせる。

〔材料〕 クレヨン カラーペン 色紙 糊 はさみ 画用紙 4切大 手ふきなど

〔作品の傾向〕 色紙の植木鉢は並列にはった子が多かった。その他放射状、斜め等
花の創作は前学習で経験した為にスムーズに集中できたことはよかった。

㊦ ふしぎな花がいっぱいならんだ。いいにおいがしてくるみたいだ。

㊧ 植木鉢をはじめ四角にしていたんだけど考えなおしてとがらせました。

㊨ さかさまのお花もあっておもしろい。

第8次 あき箱やあきかんをかざる。(2時間扱い)

〔ねらい〕 ・あき箱やあきかんに色紙や布きれなどをはって模様の組み合わせをくふうさせ、きれいに飾らせる。

〔材料〕 あき箱 あきかん 色紙 包装紙 布きれ 糊 はさみ 手ふきなど

〔作品の傾向〕 利用価値の薄いものに生命を与える喜びを持った。

(発展教材・・・2時間扱い)



高学年提言

伝達をともにした活動をおとしてのデザイン学習

第9次 ふしぎな花・めずらしい花がいっぱい (発展教材・2時間扱い)

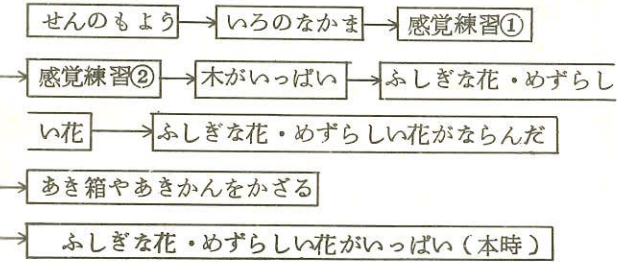
1. 題材について

1年生で経験したデザイン学習の上に2年生の発達段階にあった「ふしぎな花・めずらしい花」の独創的な創作活動と「いっぱい並べること」のグループで協力し合う集団的活動を通して、少しずつ計画的に、秩序のある美しいものに対する新しい喜びをもたすようにさせたい。

2. 題材のめあて

- (1) いろいろな素材を使って独創的な花を創作させる
- (2) グループで協力し合い、グループでのねがいがでる様に決めた配列に画面構成させる。

3. 指導計画



1. 伝達ということ

◇ 自分の作ったものがたくさんの人に何かを与えているということは、子どもたちにとって、大変な感動であるようだ。そのせいか、一般に子どもたちは、表現のよしあしに関係なくポスターが好きである。その仕事の過程には、絵をかく楽しさ、言葉を作り出し、かわった文字の書きかたをしたり、色や形でどれほど人目をひきつけることができるかという変化に富んだ仕事や、それらを組み立てていく、いくらかの抵抗が魅力となっているようである。

◇ では、どうしたら美しく人目をひきつけるポスターを作らせることができるか。

伝達教材の生命が、訴求力の強さにかかっている以上人目をひきつけ、訴えることがよくわかることが条件になる訳だが、これらの条件の中で内容をふまえ、ゆたかな創造力をもとにして自分の願いを表わしていくことが必要と考えられる。

◇ 今、伝達の中のポスターを例に述べたが、伝達とは、単に知らせるということだけでなく、みんなの願いや訴えを、色や形、文字の組み合わせによって、多数の人にわかるように表現し伝えることである。学校行事や学校生活のなかで、子どもたちのそれぞれの生活条件に照らし、はっきりした目的意識のもとに学習させたいと思う。

◇ 世の中は、どんどん変化していき、古い活字的知識では、おおいきれないことが多くなっていく。そこで直感を働かせ、自分の視覚を通して現実の状況を読みとり、そして、新しい行動の方向というものを見つけ出していくようなそういう能力をデザイン学習の視覚伝達を通して養っていったらどんなに楽しいことであろうと考える。

2. 伝達のおさえはどのようにしたらよいか。

次に伝達のおさえを横のつながりと学年の発達段階でとらえてみた。ごく一般的にとらえかたであるが、このようなことをふまえて内容に入ることがよいと考えた。

分節	与えるもの	学習活動の経路	ひきだすもの	主な教師の発言・助言
準備	・準備用具の確認 ・画用紙を配布	本時の学習手順を知り見とおしを立てる	・前学習で経験した「ふしぎな花やめずらしい花」を思い出す。	・準備のものがそろっていますか 画用紙・クレヨン・カラーペン ・色紙・はさみ ・糊・古新聞紙
条件提示	・画用紙にいろいろな素材を使って独創的な花を創作し切りぬきグループごとで台紙に並べてはることを知らせる。 ・台紙の形を相談し決めさせる(4つ) ・4つのグループを編成	台紙の形を決める 相談して4つのグループのどれかに入る	○花をはる台紙の形、三角・丸・四角・花円など	条件 画用紙を使って、クレヨンカラーペン、色紙でふしぎな花やめずらしい花をたくさん作りましょう。できたら、グループで相談して台紙に並べ方をくふうしていきましょう。
構想	・独創的な花を創作させる	独創的な花を創作する	○創作する花 ・描いた花 ・色紙をはった花 ・とび出した花(半立体)	・糊・古新聞紙
表現				・色のぬり方、はさみの使い方、のりのつけ方に注意しましょう
40分	2 1時間目の指導案は「大会夢頂」に記載			
5分	2			



	基本的内容	指導上の留意点
1年	子どもの遊びの中で相手に知らせたいということを表現させる。	おたより作りなど子どもの社会性との関連の中で、こんなことを知らせたい、という欲求を子どもらしいアイデアで生み出させる。
2年	自他の区別を明確にするものや、行事のお知らせなどを内容とした意欲を示すものの表現力を養う。	学校行事に関連した 遠足のお知らせなど、目的に応じた視覚伝達の表現がこころみられるようになるので飾り文字や色文字などをかかせ、次第に意欲的配置を考えさせていく。
3年	学級や学校で知らせたいことを文字や図に表わし楽しい表現をさせる。	学級や学校生活の中で、お知らせや学習発表会などの案内状に必要な作品を作らせる。見やすく読みやすい文字で書くように留意して見て楽しく目的にあった作品を作らせる。
4年	人によくわかるように、文字や画面の配置を考えて、学級や学校で知らせるものを作らせる。	学級や学校生活、行事の案内状や、お互いの約束やきまり、絵地図など必要な作品を作らせる。文字を作るという意味で、大きさを揃えることの大切さを知らせる。
5年	自分のねがいをゆたかに表わすために色や形を目立たせるくふうをして目的にあったデザインをさせる。	ポスターや絵地図など、子どもの生活に密着したものの中から発想をゆたかにしテーマを与える。
6年	自分のねがいをゆたかにあらわすために、色や形、材質による効果を考えて構成し、目的にあった効果的な技法も考える。	子どもの生活と直接関係のある社会的行事や学校行事などを中心にしてテーマを設定し、形や絵をできるだけ単純化し、ゆたかな発想をうながして、台紙の色と文字の色と形、絵との配置配合、材質の効果を考え、また半立体的なものもくふうさせる。

以上伝達の基本的内容をおさえてみたが、子どもたちが、ゆたかな個性のある表現をしようとするとき、これまでに学習してきた色や形などからの発想と造形要素にもとづく基礎活動で身につけた構成能力がもとになり生きてくると思う。そこで子どもたちの持っている構成能力をどの程度の段階におさえてやったらよいか、発達の度合いをおさえた上で、指導の手がかりにし、子どもの実態から伝達活動の題材の位置づけを考えてみたい。

3. 伝達活動の位置づけ

① 「野球のバットとボールをいくつも使って、自分でも美しいと思う組み合わせを画面いっぱいにつけてもらいなさい。」

◇ 材料と用具 画用紙 16切大(平面)鉛筆 1.2.3年くれよん, 4.5.6年えのぐ

◇ 調査対象学年

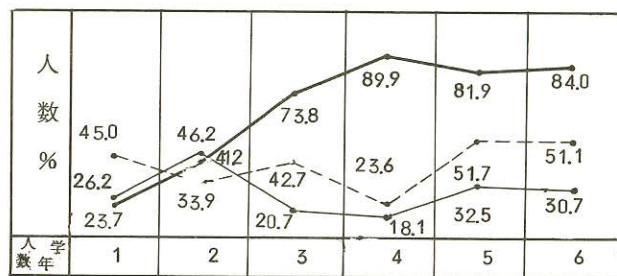
1年……35名 3年……32名
2年……35名 4年……40名
5年……33名
6年……39名

◇ 構成の能力の実態を調査するとき平面だけの調査では不十分だと思うが、1年から6年まで同一題材で行なうという条件があるので、どの学年にも可能な方法として平面をとりあげてみた。

② 構想計画の能力

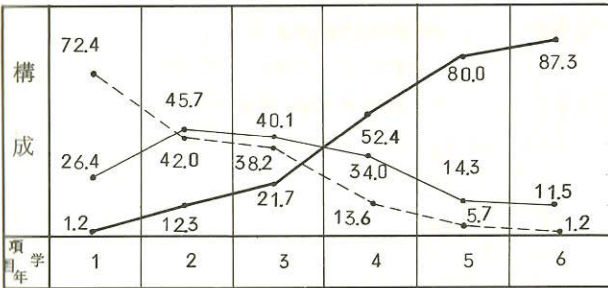
「このもようをかく前に、どんなふうにかきたいと思ったか」の文を図表に表わしてみた。

形 もようをかくとき 単位の形に関心をもっているもの
色 もようをかくとき 単位の色に関心をもっているもの
構成 もようをかくとき 単位の配置をどのようにするか 全体構成を考えている。



③ 抽象化の能力

- もよりの単位との形や色が絵のようにかいてあるもの
- 色や形・構成がいくぶん抽象的なならべかたになっているもの
- 色や形が絵からはなれ構成が図案化されているもの



④ 考えられることから

- ◇ 低学年では色や形についてどのように書こうかという計画が少しずつできてきている。それで、もよう個々の単位について色や形の配列や予想をさせながら表現させる指導が必要。
- ◇ 中学年特に4年生で抽象的な表現が急速に伸びてきているので表現するまえに全体的な構成を考えさせ抽象的、秩序的な表現ができるよう指導することがよいと考えられる。
- ◇ 高学年では模倣的な表現からぬけ出し、より創造的な表現をこころみようとしているのでいつも全体構成の立場にたって色や形の秩序、配列に気づかせ表視力を高めていきたい。

以上のような子どもの能力の段階を指導の一つのよりどころとして各学年の題材をおさえてみた。

4. 学年別題材のおさえ

学年	題材の配列	内容のおさえ
1年	・わたしのたんじょうび	・学級の全員がめいめい自分をうまく生かし、それぞれ何月に生まれたか一目でわかるくふうをさせる。
2年	・えんそくのち	・お知らせのポイントになる、

学年	題材	内容のおさえ
3年	・ゆめのしまのあんないず (補)	いつ どこ など要を得た目印をかきこみ、風景にも適当に図を入れる。
4年	・ポスター	・夢を楽しく育てながら構成し条件に適した色を選び見やすい案内板をつけさせる。
5年	・知らせるデザイン	・ポスターが伝達するためのデザインであることを知らせ文字、画面の配置を考えさせる
6年	・手紙やカレンダーのくふう ・ポスター	・何を誰に知らせるかを考えさせ。発想をゆたかにして目的にあったデザインをさせる ・ポスターの役目をよく理解し伝達する内容をもっと効果的に表現する方法をくふうさせる。色と形、文字との配置配合を考え構成をくふうさせる

これら題材の配列と内容をおさえて、色や形などからの発想と造形要素にもとづく基礎活動で身につけた構成力を生かしながら、伝達の指導過程をくんでみた。

わたしのたんじょうび <小1>

小学校に入学する前から子どもたちは、家庭になかよしの友達を招いて誕生祝いをしていた子が多い。これがクラス内全部の友達の誕生月を知ってお祝いし合えたら、どんなに楽しく、学級生活にプラスする面が多いと思う。そこで1年生になって、できるだけ早い時期にこの教材をと考えた。

◇ 指導のねらい

- ・学級の全員が、めいめい自分の特徴をうまく生かし、それぞれ何月に生まれたか、ひと目でわかるように表わしかたをくふうする。
- ・グループによる学習をとおして、お互いを尊重しあう態度を養う。





時 節	与えるもの	表現活動の経路	ひきだすもの	おもな教師の助言発言
準備	・同じ1年生でも生まれた月の違う人がいることを知らせる。	画用紙を使って学級全員が何月に生まれたかわかる表を作る	・自分の生まれた月を思い出す。	・自分の生まれた月を知っていますか。 ・口でいわないでもみんなのぶんをみんなに知らせる方法はないでしょうか。
条件提示	・生まれた月ごとの表を作ることを知る。 グループ編成	自分の絵をかき、表にのせることを知る	・同じ月に生まれた者で作ろう	・教科書の絵はどんなことを考えて作ったものでしょうか。
構 想	・どんな形に自分たちをのせるか考える	自分の特徴がよくわかるように発想する	・画用紙の上にかく自分の姿を想像する。表の形も考える	・生まれた月別にグループを作っ てかこう。
表	・色や形に気をつけてかこう	自分をかいたための色を選ぶ	・ふとっている。やせている。丸顔・細おもて	条 件 自分の特徴がよくあらわれている絵をかき、みんな何月生まれか一目でわかるように作ろう。あとでどの月の人たちが仲よく作れたか決めようね。
	・遠くからも見えるように	めいめい自分の特徴がよくわかるようにかく	・ていねいに切る	
	・切り抜いた絵をどんな形にはったらいいか考えさせる	かいた絵をはさみで切る	・おき方をいろいろ考えて見る。	
現	・のりを与える	切った絵を画用紙の上に構成する	・きれいにはる方法をくふうする。	
鑑賞	・たりないところを補充させる	不備のところをかき加える	・何月生まれかすぐわかるか	・個別助言
	・よくかき表わしたグループを見つげさせる。	他グループの作品を見て何月生まれか知る		

◇ 考えられることから

- ・自分の絵をかき時首が細くなりやすいが適切な助言で切り取ったから困らなかった。
- ・形の整ったものをよいとして個性的なおもしろいと思われるものに目を向けない子どもは、教師が個性的なものをほめはげまして成長させたい。

ゆめのしまのあんない図 <小3>

この時期の子どもの空想力は、とくに盛んであるから、そ

の芽をしっかりと伸ばしながらたしかなものを創る子どもを育てるための指導をその表現や構成の仕事に結びつけていきたい。構成のくふうをする作業をとおして子どもの造形思考を高めようとするので、おもしろい形、美しい空想など、実在のものにとらわれず、のびのびとかかせたい。

◇ 指導のねらい

- ・子どもの夢を楽しく育てながら、構成力を高め、夢の島の案内図をかかせる。
- ・条件に適した色を選んで着色のくふうをさせる。

時 節	与えるもの	表現活動の経路	ひきだすもの	おもな教師の助言発言
準備	・楽しい夢の島の話聞かせる	夢の島の様子を発表する。	・たのしい夢の島を想像する	・きょうは楽しい案内図をかきましょう
条件提示	・誰も行ったことのない夢の島の案内図をかき、みんなに知らせる。	夢の島の案内図をかき、みんなに知らせる。	・案内図の要素を考える	・これから夢の島の話します。どんな島でしょう。みんな考えてください。
構 想	・仕事の手順について知らせる	どんな島にどんなものがあるか。どんな地図にするか発想する。	・仕事の手順を知る	条 件 楽しい夢の島の案内図をかきましょう。自分の感じにあった色を選んでみましょう。後で見せあいましょう
表	・どんなふうにかきかえさせる。	フェルトペンなどで下図をかき。	・どこに何をかくか発想する	
	・みんなにいちばん知らせたいところをしっかりとかく	使い色を選ぶ	・感情にあった色を選ぶ	
鑑賞	・色の感情を感じさせながら仕事を進めさせる。	紙いっばいに夢の島をかき、島の中にあるいろいろなものに着色する。	・色の感じやくみあわせをくふうしてかく	・チョコレートのお城がありますね
	・かき足りないところをつけたす。	不備なところを補充する。	・友達の作品のよい点を見つける。	・ありさんと熊さんが手をつないでいますね
5	・自分が考えた点を見つけ	みんなの作品を鑑賞させる。		・かんむりをかぶっているのはぼくですか。

◇ 考えられること

- ・下図をかきとき線のおもしろさがよくでていたのに着色によってこわされてこまった子、自分の好ましいと思う色を混色によって作り出そうとしたが失敗した子の適切な指導
- ・持っている色はみんな使って美しくしようとする子の導



きりぬきポスター<小6>

—自分の願いを豊かに表わす
子どもを育てるための指導—

1. 題材について

6年のデザイン学習では、基礎的な力を養う自由構成的なものから用と美をかねたデザインへと発展してきている。今までにデザインの技法や、色と形の組み合わせなど、構成美の要素を感覚的にとらえる学習をしてきているので、ここでは平面デザインの総合学習であるポスターをとりあげ用と美をかねたデザイン学習を行ない、ポスターの目的を知らせ、アイデアを生かしたおもしろいポスターを作らせたいと考える。

表現テーマは「廊下を走らないこと」「水のみ場をきれいに」「花を植えましょう」など、子ども達が最高学年として児童会活動や、週番活動、学級会などをとらえて考えていること、知ってもらいたい願いなどの中から見つけさせる。

表現方法は、色画用紙を切りぬき、えのぐ、色紙等で配色して表現させたい、ポスターは単純化し強調された構成を必要とするので、どうしても描画的表現になりやすい子ども達にとって、このきりぬきによる方法は適していると考えられる。

またはさみや、カッターナイフによる抵抗や、画面にとらわれない構成は、子ども達の発想を高め、意欲的に活動できて子ども達の個々のアイデアを生み出すことができるものと考えている。

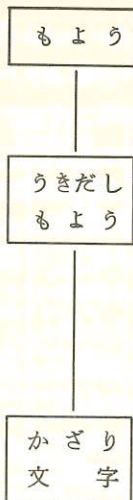
2. 題材のねらい

- (1) 切りぬきによる文字や形の配列をくふうして美しいポスターを作らせる。
- (2) よく目立ち人の注意をひきつけ意味内容がよくわかる。おもしろい表わし方をくふうさせる。
- (3) 自分達の作ったポスターを校内に掲示させることにより、生活に生かすデザインの喜びを知らせ、活用的な態度を育てる。

3. 子どもの既習経験

本題材と関係する既習題材には次のようなものがある。

(6年1学期)



- 形の組み合わせや色の効果的な選び方をくふうして美しい模様を作らせる
- 統一や変化など、造形の秩序を考えて作らせる。
- 画用紙を切り起し浮き出し模様を作らせる。
- 同一紙質のものでも、切り込みの入れ方、折り曲げ方、形の配列のしかたによって、いろいろ違った感じができることを確かめさせる。
- 服のポケットやハンカチの飾りになるように、自分の頭文字を装飾させる。

4. 指導計画(全体6時間)

- 第1次 ・ポスターについて話し合い、目的を考えて計画を立てさせる。 2
- 第2次 ・計画を吟味させ、考えをまとめて色画用紙に下絵をかき切りぬく。 2
- 第3次 ・えのぐ 色紙 セロハン等で配色 色調を考えて完成させる。 1
- 作品を鑑賞し、校内に掲示させる。 1

5. 準備するもの

- 生徒 ・ハサミ カッターナイフ えのぐ パレット 筆
水入れ 手ふき 新聞紙
- 先生 ・色画用紙 色紙 厚紙 のり 参考作品

6. 学習のながれ

小テ



64

分節	与えるもの	表現活動の経路	ひきだすもの	おもな教師の発言助言
準備	<ul style="list-style-type: none"> ポスターについて話し合いをさせる 色々なポスターについての話し合い ポスターの目的についての話し合い ポスターをデザインするときの条件についての話し合い 学校生活での反省や知ってほしい願いをきりぬきによる方法で表現することを知らせる。 	<p>ポスターについての話し合い</p> <p>↓</p> <p>学校生活での反省や知ってほしいことと知ってほしいことを、きりぬきポスターで表わすことを知る。</p> <p>↓</p> <p>どんな材料でどんな形にするか発想する。</p> <p>↓</p> <p>アイデアスケッチをする。</p> <p>↓</p> <p>アイデアスケッチを吟味する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ポスターについて関心をもつ 色々な変わったポスターがあることを知る ポスターの目的を知りデザインするときの条件を知る よく目立ち人の注意をひく・意味内容がよくわかる・掲示する場所を考えに入れる・美しい色調にする 学校生活の中でみんなに知ってもらいたいことを考え出す アイデアを生かしたおもしろいポスターを発想する どんな材料をどう使うか・どんな形にするか工夫する アイデアスケッチをして想をまとめる ことばが整理されてわかりやすいか考える 文字と図形のつり合いを考える 文字が読みやすいか考える 	<ul style="list-style-type: none"> 準備するものが全部そろっているか 今までにどんなポスターを見たか どんなポスターがよいといえるだろうか ポスターをデザインするとき考えなければいけないことはどんなことか <p>条件設定</p> <p>学校生活の中での反省や、守ってほしいこと、知ってほしいことをきりぬきポスターで表わしてみよう。あとでアイデアを生かしたおもしろいポスターを選び校内に掲示しようね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな色画用紙を選び切りぬきによる方法で表わす 配色はえのぐ、色紙、セロハン等を使う 文字は少ないほうがよい △君の文字は小さ過ぎるようだね ○さんの文字はもう少し上のほうがよいと思うよ
条件提示				
構	<ul style="list-style-type: none"> 先生が与える材料を知らせ足りない材料は自分で補充させる 効果的な材料の使い方を考えてどんな形にするか想をまとめさせる アイデアスケッチを吟味させる 意味内容がよくわかるか考えさせる 			
75				
想				

分節	与えるもの	表現活動の経路	ひきだすもの	おもな教師の発言助言
表	<ul style="list-style-type: none"> 色画用紙を選ばせ下絵を描かせる どんな配色にするか考えさせる ハザミ・カッターで下絵を切りぬかせる どこを切りぬくかよく考えさせる きりぬいた形を厚紙でうらうちさせたり台紙にはるものははらせる 本時のながれ参照 	<p>下絵をかく</p> <p>↓</p> <p>下絵をきりぬく</p> <p>↓</p> <p>きりぬいた形のうらうちする</p> <p>↓</p> <p>よく目立つように掲示する場所も考えに入れて、美しい色調になるように配色する</p> <p>↓</p> <p>配色や形を吟味し不十分なところを直し完成する</p> <p>↓</p> <p>友だちの作品を見て話し合い、よい作品を選んで校内の目的に合った場所に掲示する</p>	<ul style="list-style-type: none"> どんな配色にするか考えながら下絵をかく 能率的にきれいにきりぬける方法をくふうする 形がずらぬように弱いところをのりづけする 	<ul style="list-style-type: none"> もう少ししていいに下絵を描くように 切りぬき方が難なようだね ○さんは文字を切りぬいてるよ。うまい方法だと思ふな
135				
鑑	<ul style="list-style-type: none"> アイデアを生かしたおもしろいポスターを選ばせる 校内の目的の場所に作品を掲示させる 自分の作品は自分で掲示させる 			
45				
賞				

7. 評価の視点

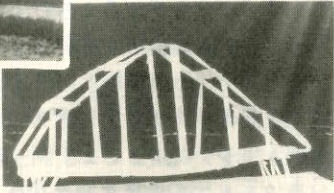
- (1) 文字や形の配列が、アイデアを生かしたおもしろいものであるか。
- (2) よく目立ち人の注意をひきつけ、意味内容がよくわかるか。
- (3) 配色は、美しい色調になるように工夫をこらしているか。

小学校工作領域提言要旨

低学年提言者 宮田静二(向陵小)
 中学年提言者 小倉 孝(神居小)
 高学年提言者 松藤浄治(北鎮小)

<旭橋>

- 型式, ワーレントラス, タイドアーチ併用
- 支柱の間, 最も長い所 9 1. 4 4 m
- 幅 1 8, 8 4 7 m
- 工期 8 4. 11. 14 ~ 7. 11. 3



<紙の橋> 5年生

- 支柱の間 6 6 cm
- 幅 2 0 cm
- 製作 8 45. 7. 4 ~ 6

吾々は身のまわりから、自然によって作られている様々な構造を目にする事ができる。空に伸び立っている樹木はそれにふさわしいしっかりとした根を地中にくいこませているし、ワトリの卵の殻は薄くてもろいにもかかわらず、表面を球形にする事によって、なかなかつぶれない丈夫さを保っている。くもの糸は非常に細いにもかかわらず、なかなか切れない。構造とそれを形ち造っている材質とは深い関係を持っている。自然の中には吾々が未だ気付かない多くの仕組みが埋もれている様である。この様なものについて子どもたちの目を開かせ、材質と構造とのつながりを発見させ、それらが作っている美しさの意味をつかみ、更に自然に親しみ、その中や人工物の中から広く物事を学びとる姿勢を持たせる事は、子どもの願いをもっと豊かにふくらませる事になると考える。こういった事について深めて行く為に色々な材料の中から日常の授業の中で広く利用され、又、学習面での多様性を持っている紙について、又、その内容も工作学習の中の「構築物

を作る」ということにしほって、一年から六年まで通してこういった面について考えて行く事にした。

<小学校工作系統>

	1 年	2 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ◦自分で使う簡単なものを作る ◦興味をもって、簡単な動くものや家等を作る ◦紙類を主材料とし、興味を持って作る 	<ul style="list-style-type: none"> ◦自分で使う簡単なものを工夫して作る ◦簡単な動くものや、家などを作る ◦紙類を主材料とし、用具の使用になれる
材用 料具	<ul style="list-style-type: none"> ◦色紙, 画用紙, あき箱 ◦中厚紙 ◦はさみ, のり 	<ul style="list-style-type: none"> ◦色紙, 画用紙, 中厚紙 ◦はさみ, ものさし, のり
要 素	<ul style="list-style-type: none"> <いれる, つつむ> ◦中にいれるものが落ちない程度のいれものが作れる <うごく> ◦ころがりやすべり, つりあいを利用して動くおもちゃが作れる <立てる, つるす, おく> ◦紙を折ったりまげたりして、立てることができる ◦底面積が広ければしっかり立つことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ◦中にいれるものが落ちない程度のいれものが作れる <うごく> ◦ころがりやすべり, つりあいを利用して動くおもちゃが作れる <立てる, つるす, おく> ◦紙を折ったりまげたりして、立てることができる ◦底面積が広ければしっかり立つことに気づく
紙 類 の 抜 法 の 系 統	<ul style="list-style-type: none"> ◦簡単な切りこみでつなぐ事ができる ◦のりで画用紙がきれいに付けられる ◦接着テープやホットキスが使える ◦はさみで直線やゆるやかな曲線が切れる ◦色紙や画用紙のすみを合わせて正しく折れる ◦円筒や円錐にまるめる事ができる ◦ものさしを使って線が引ける 	<ul style="list-style-type: none"> ◦つなげるような切りこみ方がいくつかできる ◦のりを使ってむだのないつけ方ができる (厚紙も) ◦接着テープやホットキスが自由に使える ◦はさみで色々な形の線にそって切れる (中厚ぐらいまで) ◦思った所で正しく折れる ◦画用紙の弾性をそこなわないでカールができる ◦ものさしを使って線が正しく引ける





	3 年	4 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 身の囲りで使うものを作って作ることができる 簡単な動く玩具や、家などを作る 紙類を主材料とし、用具を使用して作る力をのばす 	<ul style="list-style-type: none"> 身の囲りで使うものを考え、計画的に作る 動くしくみを工夫して玩具を作ったり、形を考えて家などを作る 紙類を主材料として作る力をのばす
材料・用具	<ul style="list-style-type: none"> 色紙、中厚紙、厚紙、竹ひご 定規、コンパス、切り出し小刀 	<ul style="list-style-type: none"> 厚紙、木片、ちらし紙、竹ひご、細木 のこ、かなづち、接着及び緊結の為の材料、用具
要 素	<ul style="list-style-type: none"> <いれる、つつむ> ◦いれものの形や重さを考えていれものが作れる <うごく> ◦バネやゴムの弾力を利用して動くおもちゃを作る <立てる、つるす、おく> ◦台面を接着すれば、しっかり立つ事の理解 ◦重心との関係に気付く 	<ul style="list-style-type: none"> <いれる、つつむ> ◦いれものの形や重さを考えていれものが作れる <うごく> ◦バネやゴムの弾力を利用して動くおもちゃを作る <立てる、つるす、おく> ◦台面を接着すれば、しっかり立つ事の理解 ◦重心との関係に気付く
紙類の 抜法の 系統	<ul style="list-style-type: none"> つなげるような切りこみ方ができる おび紙状のものを組むことができる 接着補助材を生かしてつけられる。面と線の接着 はさみで画用紙が正確に切れる 画用紙を小刀で正しくたち切れる 画用紙を折り線で折れる。厚紙に切り目を入れておりまげられる ひらいた図を書いて円錐形が作れる ものさしや定木で平行や直角がだいたい引ける 	<ul style="list-style-type: none"> つなげるような切りこみ方ができる 接着剤で切り口と切り口の接着ができる 接着補助材を生かしてつけられる はさみで画用紙が正確に切れる 厚紙やだんボールなどを小刀で正しく切れる 画用紙を折り線で折れる。厚紙に切り目を入れておりまげられる 厚紙で筒が作れる ものさしや定木を使って平行や直角が正しく書ける

	5 年	6 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 役に立つものの目的を考えて、計画的に作る 動力の使い方や伝わり方を工夫し動くものを作ったり、形やくみ立てを考えて、建物などを作る 針金や木などの線材、面材を主とし、材料や用具を使って作る力をのばす 	<ul style="list-style-type: none"> 役に立つものの目的や美しさを考えて、計画的に作る 動力の使い方や機構を工夫して動くものを作ったり、合理的な形や構造を考えて、建物や橋などを作る 針金や木などの線材、面材を主とし、材料や用具を有効に使って作る力をのばす
材料・用具	<ul style="list-style-type: none"> 線材、面材、粘土（成形、焼成） ベンチ、糸のこ、材料に合った接着や緊結用具 	<ul style="list-style-type: none"> 線材、面材（金属材料を含む）、粘土（成形焼成） ベンチ、糸のこ、材料に合った接着や緊結用具
要 素	<ul style="list-style-type: none"> 目的にあった使いやすいいれものを作ることができる 二、三の条件を満足するような入れ物が作れる 力の方向を変える機構を利用して、うごくおもちゃを作ることができる しっかり立てるための要素（重心・重量・底面積構造）を総合的に取り入れる事ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 目的にあった使いやすいいれものを作ることができる 二、三の条件を満足するような入れ物が作れる 力の方向を変える機構を利用して、うごくおもちゃを作ることができる しっかり立てるための要素（重心・重量・底面積構造）を総合的に取り入れる事ができる
紙類の 抜法の 系統	<ul style="list-style-type: none"> つなげるような切りこみ方ができる 接着剤で切り口と切り口の接着ができる 接着補助剤を生かしてつけられる はさみで画用紙が正確に切れる 厚紙類を小刀で自由にたち切る事ができる 画用紙に曲線の折り線をつけてまげられる 厚紙で筒が作れる 画用紙の端に平行・直角が正確にとれる 	<ul style="list-style-type: none"> つなげるような切りこみ方ができる 接着剤で切り口と切り口の接着ができる 接着補助剤を生かしてつけられる はさみで画用紙が正確に切れる 厚紙類を小刀で自由にたち切る事ができる 画用紙に曲線の折り線をつけてまげられる 厚紙で筒が作れる 画用紙の端に平行・直角が正確にとれる

5
年
に
同
じ

◦コンパスで直角がとれるものさしが正確に使える（日文、工作指導参考）

低学年提言



小さな子どもの絵は幼稚である。しかしその絵にはその子の願いや感動がそのままあらわれており、見ている私も楽しくなる。そこには無邪気な、そして既成の概念にとらわれない新鮮な子どもの世界があり、子どもの表現がある。そんな絵を見ていると大人の私が子どもの絵をまねしたくなる。小さな子の絵の中には私が絵をかく時のヒントにしたいものさえある。私は子どもの絵について私なりにある程度の理解があるつもりである。

この子の絵は、ここまで意識し関心を持っているが、後ははっきりしていないのだな、あの子はこの程度の物の見方しかできない発達段階なのだ、などと理解できるので、心にもゆとりができる。そこで「君のここところはすごくいいね。」などと自信をもってほめる事ができる。

しかしながら小さな子の工作となるとそうはいかない。正直いって私自身、工作についての正しい認識を持っているとは思われない。したがって工作の指導法についても手さぐりの状態である。子どもの気持ちになって、その子の発達段階をみつめながら工作も絵の時と同じような気持ちで子どもに接していればよいはずなのに、何となく不安なのである。私はすぐこわれそうな物を見ると心配で落ち着かない。このくせは小さい頃から私の身についてしまっているものである。

そんな事は、とにかくとして一年生の工作では、あき箱をいっぱい集めてきて、積みあげたり、こわしたり、木のこっばを二、三枚釘で打ちつけて、わけのわからない物を作り、飛行機だとか、船だとか言っって、作ったもので遊ぶのが一年生らしい工作のようである。

私は指導の手がかりをつかもうと工作をさせながら一年生がどんな事が出来るのか、どの程度の事ができるのかなどと興味をもって観察している。また1年生になったつもりで一緒に遊ぶのも楽しいものである。

◎ あきばこをつんで ◎……………1時間(小1)

<ねらい>

1. あき箱を集めて、いろいろな形にならべたり積んだりして遊び、立体的な表現に興味をもたせる。
 2. 高く積む時は、大きな箱は下に積んだほうがよい事を知る
- <じゅんぴ>

1. あき箱を集める。これには、実際に使う2週間ぐらい前から学年通信で家庭に知らせあき箱のでき次第学校へ持って来させ、教室で大きな段ボールの箱を用意して保管する。(キャラメル・菓・石けん・化粧品・菓子・カルビス・などのあき箱)

注 接着剤や、セロテープや、はさみなどは使用しない。
<学習の流れ>

1. 4人グループに分け、集めておいた箱を適当に分けて、代表の子に取りにこさせる。
2. なかよく力をあわせて作るように話し、好きなように積みせ、ようすを見る。
3. ようすを見はからって、高く積む競走をさせる。
4. 「大きな箱は下に置くのと上の方に積むのとではどっちが高くなるの。」と聞く。
5. 相談をしながら、汽船やデパートや塔などをつませる。動物や汽車などもよい。
6. できたら他のグループにも見せ、何回も積んだり、くずしたりする。
7. あとかたづけをしっかりと、楽しかったかどうかを聞き終わりにする。

<反省>

1. 私の予想より子どもたちは活発に活動し、けんかもしなかった。また楽しんでた。
2. 作品は色彩も美しかったし、おもしろいものが出来た。
3. 他のクラスでは参観日にあきばこ積みをして好評とのことであった。

◎ どうぶつえん ◎……………1時間

(紙をたてる小1)

<ねらい>

1. 紙をたてるにはどうしたらよいか、いろいろ工夫させる。(いろいろな折り方など)
2. 工夫して立った紙から動物を作る。(ここでは紙の二つ折りを主にして取り扱う)
3. 画用紙の工作になれる事。(折る、まげる、切る、のりづけなど)

<じゅんぴ>

1. 画用紙(中厚紙)八つ切りの $\frac{1}{4}$ のものをひとり4枚、予備として少し多く用意する。
2. はさみ、のり、クレヨン



3.参考作品、教科書、その他の工作の本、教師の作ったキリン

<学習の流れ>

- 1.八つ切りの画用紙を $\frac{1}{4}$ に切ったものをひとりに4枚くばる。
 - 2.紙を立てるにはどうしたらよいかと問かけながら教卓の上で紙を立て手をはなす。
 - 3.自分たちでいろいろ工夫させる。(まげる、二つ折り、三つ折り返る、など)
 - 4.机間巡視して、本時で特にとりあげたい二つ折りを中心にその他の工夫したものをピックアップして、みんなに紹介する。その他は個人的に認めてあげる。
 - 5.立った紙から動物をたくさん作って動物園を作ろうと話をもちかける。
 - 6.どんな、動物が好きか、どんな動物を作ってみたいか問かけ発表させる。
 - 7.でてきた主だった動物のかっこうや、その動物の動作の特徴などを考えさせる。
 - 8.教師が二つ折りの紙から足を実際に、はさみで切って見せる。足が太いとか、耳は大きいとか、鼻はあとから、つけたすのも一つの方法だ。などと説明を加える。
 - 9.作業をさせながら、個別指導をする。机間巡視。
 - 10.共通なミスが多ければ全体的にとりあげて注意する。なるべく個人的にはげます。(折る、切る、のりづけなどで、やりやすい方法など苦労している子に、教える。)
 - 11.できた作品は、給食の配膳台と教師用の平机の上に動物園をつくらせる。
 - 12.時間のある人は、おかあさんぞうりに子どものぞうり、ほくをのせたぞうりなど考えさせる。
- <アンケート>
- 1.全員が楽しかったと答えている。
 - 2.時間が不足と答えたもの50%、ちょうどよい25%、だいたいよいが25%
 - 3.工夫して自分の思うようにできたと答えたもの60%、だいたいよいが40%
- <反省>
- 1.紙を立てる工夫は、予想より興味をもって工夫していた。
 - 2.動物を作る時、教師がみんなの前で、はさみで実際に紙を切って見せた時の説明不足がたまたま。というのは、二つ折りの紙の折った方を足にしようとして切り抜いてしまった子、絵をかくつもりで切りぬいて片方に4本足を作った

子があり、両方で8本も足のある馬が出てきた。また、上記の2つを一緒にかねそなえたまちがいをした子も出て来た。さらに二つ折りの背中のところもはさみで切り、紙を開いたら2つに分離してしまったのもでてきた。こんどはそれをのりでべったりはって1枚にし、足の下をU字型に曲げて2本足の犬にした子もあった。

- 3.以上の失敗から、この部分の説明は特にしっかりとおさえて、どこを切るのか。めくる事のできる方を切るのだ。片方に足を2本つくれば両方では4本になるのだ、という事を実際にゆっくりと、念をおしながらやって見せ、できたものを開いて見せるとよいと思う。しかしながら、このような失敗は子どもに経験させてもいいんだという気もするのである。
- 4.参考作品については、絵の場合と少し違って工作やデザインの学習では、できるだけたくさん用意して見せ、よく説明し鑑賞させ、それを媒介として、自分のアイデアの参考にし、考えさせるのもよいのではないかと参考作品を見せるとまねだけして、そこから自分で発見しようとしたり考えなかつたりする子がいるかもしれないが、それはそれなりに、その対策を考えればよいと思う。また参考作品と同じものを作ってみることだってあってよいと思う。

◎ かみのいえ ◎……………1時間(小1)

<ねらい>

- 1.直方体の作り方について初歩的な体験をする。(紙の輪から)
- 2.画用紙を切ったり、ついたりして、家を作る。

<じゅんぴ>

のり、はさみ、クレヨン、色紙、画用紙八つ切りを細く半分にしたものひとり2枚

<学習の流れ>

- 1.紙をくばり、家を作ろうと話しかける。
- 2.細長く切った画用紙から紙輪をつくる。つぶしてしっかりおりめをつける。
- 3.あとは家らしくなるように、自由に屋根や窓や入口や煙突などをつける。
- 4.机間巡視による個人指導(屋根に苦労している)
- 5.できた家は配膳台と教卓にならべる。友だちのもよくみる。
- 6.あとしまつをして終わりにする。

<アンケート>

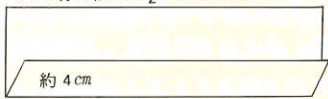


1. 紙の家を作って楽しかった75%。ふつうです10%。むづかしかった15%
2. こんどまたいつかこのような家をつくりたいかに答えてもりのいやだというもの8%

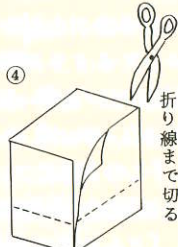
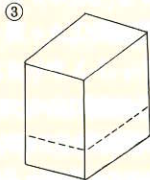
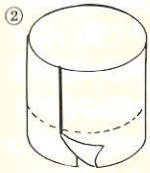
<反省>

1. 平屋根の家にした子や、アーチのように屋根にした子は接着に苦心しないですんだ。
2. 三角屋根を色紙で作った子も気楽に作っていた。
3. 三角屋根を画用紙で作った子が苦労した。(接着剤の選択や使用法も考えること)
4. 1時間で取りあつかったが少し次の時間にくいこんでしまった。
5. 参考作品を用意したほうがよかったと思う。
6. 児童の能力をまだ十分につかめていない事と屋根の作り方の手順をどうやったら、やさしくできるかの事前研究が不十分であった。

① 八つ切を細長く $\frac{1}{2}$ に切った紙

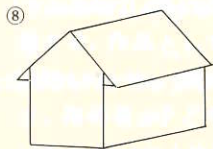
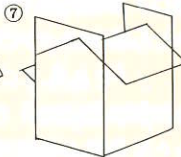
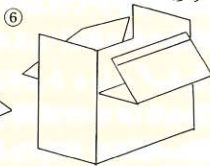
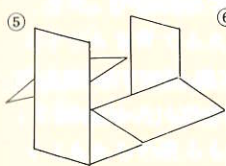


約4cm
おって線をつけたらもどす

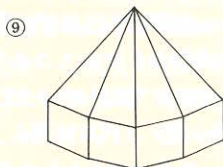


折り線まで切る

切りとる



三角屋根できあがり



八角ドーム

7. 屋根をやさしく三角屋根にする一つの方法として、紙の輪を作る前の画用紙(八つ切を細長く半分に切ったもの)を $\frac{1}{2}$ か $\frac{1}{3}$ くらいに更に細長く折っておりめをつけ、開いてから紙の輪を作る。

そして紙の輪から折って四角の筒を作り、四つの角の所を紙の輪を作る前においてすじをつけた所まで、はさみを入れる。

はさみで切った面が四つあるが、そのうち、どちらでもよいから、向かい合っている面の端を両方から真中へ寄せてきて、しっかりのりづけすると三角屋根ができる。

そこで、他の二つの面を三角屋根の傾斜にあわせて、はさみで切りとる。

8. ひさしを出したい場合は、一度外側へ折り返えしてから中心に向かって再び折り返えして両方をつなぐなどの方法が考えられる。このひさしを出す場合には四角の筒の切り込みをうんと多くする必要がある。

9. なお紙の輪から四角の筒だけでなく八角の筒を作る事もやさしい。八角になった筒を上から $\frac{2}{3}$ くらいそれぞれの角を下に向かって切る。

切った部分を中心に集めてのりづけすると天文台のようなドームができる。

四月に入学した一年生も遠足や運動会などもすんで、もう夏休みを迎えようとしている。仲よしの友達もたくさんできて、小学校生活にどけこんでしまっている。子どもたちの持っている白いノートには、先生の顔や花や虫やロケットや船など楽しい絵がいっぱいである。また算数セットの色板で美しい模様や動物などを並べている。

ところみに「絵と工作とどっちが好きなの。」と聞いてみた。「どっちも好きだよ。」という答えが返ってきた。私の予想では絵のほうが手取り早いので絵の方が好きだろうなと思っていたのに、意外に工作の好きな子が多いのである。

とにかく子どもの楽しみをとりあげないように、ひどい事を言って自信をなくさないように、適当にはげまし、そしてちょっとヒントを出したりして、子どもにとけこみ、子どものしている事に関心を持ち、子ども自身が主体的に考え、行動し、表現し、作り出し、なお一層楽しむようになってほしいと願いつつ気を配っているのである。

しかしながら、これでいいんだという本物の指導はなかなか見えてこないのが現実である。



◎ たてるくふう ◎……………2時間(小2)

<題材について>

- 1.この題材は一年生の〔どうぶつ〕の発展である。二年生の〔たてるくふう〕では紙を折ったり、まるめたりして立てる工夫をもちろんさせるが、それだけでなく、更に紙に切り込みを入れて組んで立てる方法なども工夫させる。(立てるくふうに主眼を置く)
- 2.立つようになった紙からは、自由な発想をさせて、動物だけでなくバス停の立て看板や衝立てやビルやロケットなどいろいろ考えさせて作る。
- 3.わりばしや竹ひごなどの線材を立てるくふうをさせる。なお線材を立てる場合の接合の方法として、ここではゴム粘土を使って立たせたい。
線材を立てるは教科書には紹介されているが、旭川の年間題材配当表にはでていない。
- 4.塊材を立てるは、一年生であっかった〔つみきあそび〕や〔あきばこつみ〕に関連づけて思い出させ、あきばこによる教師実験で、安定を保つには底面が広いほうがよい事を知る。
- 5.この立てる工夫は三年、四年にでてくる〔組みたてのくふう〕につながるもので、工作領域の中の基礎的な造形に含まれ、立てる工夫に重点をおいた学習になる。
しかしながら、立てるくふうに重点をおきながらも、紙を立てるくふうをした物から「これは〜のようだ。」「これは〜になりそうだ。」という発想から、表現の可能性を追求させ、造形の手段や方法へと進んでいく作業がある。したがってこの〔立てるくふう〕はデザイン領域の基礎的造形にも少し関連のある複合教材としておさえる。
- 6.2年生ではこの題材と関係のある題材は、〔いろいろな紙をつかって〕がある。

<ねらい>

- 1.面材、線材を立てる。
- 2.安定のよいものを作る。

<学習計画>……………2時間

- 1.画用紙を立てる工夫をし、おもしろいものを作る……………1時間
- 2.線材を立てるくふうをし、塊材の立て方から底面を広く重心低く、高い塔を作る……………1時間

<反省>

- 1.紙を立てるくふう

- ・二つ折りからきりんを作ろうとした子が、はさみで切るときりんが二つに分離した。
 - ・ロケットの先がうまく作れない。
 - ・ビルの時はよいが、1戸建住宅の家で三角屋根がうまくいかない。
 - ・立木を作った子が枝をふやしているうちにバランスがわるくなってしまった。
 - ・紙をまるめて接着するとき、能率的にするためセロテープやホットキス利用を。
- 2.線材を立てるくふう。(竹ひごとゴム粘土により)
- ・ペンチやニツパで竹を切ったが、二年生ではペンチは手が小さくて無理、竹の長さを同じに切る事ができない。
 - ・接合するゴム粘土が上の方を大きくするとひっくりかえる。
 - ・二年生では上記の事から材料、接着方法、道具など、そうとう研究して取りかかれないと線材を立てるは無理である。
 - ・竹ひごは一定の長さに切ってあたえるとか、竹ぐしや、ようじも利用できそう。

中学年提言

<紙パイプを使った工作指導>

はじめに

「この作品についてどんな感じがするかな？」

「先生、ぼくたちの作品はすばらしいでしょう。」

「どんな所がすばらしいのかな？」

「先生、この作品を手で押してごらん。」

「そうか、うごかないね。」

「それ見てごらん、じょうぶに組み立てたでしょう。」

「そうかな、じょうぶなだけですばらしいのかな？」

「だって、高い塔でしょう。」

「そうかな？高いということがすばらしいのかな？」

「だって、ぼくたちの塔は世界に一つしかないでしょう。」

「そうかな？世界に一つしかないことがすばらしいのかな？」

「だって、ぼくたちの考えた塔だもの。」

「ぼくたち、わたしたちの塔」の授業での、私と子どもたちの会話の内容です。



子どもたちの工作では、実際に、手や感覚を働かせ、いろいろな道具を使って、作る喜び、楽しさを体験させることが基本でなければならない。

このように、具体的に「ねがい」を造形できる工作活動では、どんな子どもも、大きな興味と意欲を示す。こうした子どもたちの「作りたい」「やりたい」という気持を大事にして、子どもたちが自主的に表現できる、機会と場、をつくってやることと、制作された作品の実用性よりも、その制作過程で、子どもらしい創意工夫が生かされたオリジナルな造形活動が営まれていなければならない。

また、課題を与えて、計画を立てさせ、製作過程において基礎的技能を体得させることが、子どもたちの創造的な造形の興味と自主性を育てる。

そこで、私たちは、製作過程での材料抵抗を少なくして、子どもたちが創造的に工作学習ができるように、紙の可能性を探究してみた。

紙のもつ可能性を、平面材としてだけでなく、線材として立体的にまだまだ利用できるとの考えから、私たちは、構築的な工作学習に、新聞広告のちらし紙を利用した紙パイプを教材化し、題材としてとりあげたのである。

今年度の研究大会のテーマである「ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか」という命題にせまるプロセスとして、紙パイプを使った工作が適功であった。それは、製作過程での材料抵抗を少なくし、子どもの「ねがい」をかなえさせることができたからである。

そのことは、生き生きと自己の願いを表現し、造形している子どもたちの作品が実証している。

また、小学校中学年のテーマでもある「たしかなものを創る子どもを育てるための指導」というプロセスにも、つながりをもっている。

「たしかなものを創る……」ということを考える場合、子どもたちの造るものに対する願いが到達できるかどうかによって決定されると考えた。

たとえば、高い丈夫な塔を作るという時に、イメージを定着させ、作品として造形することができなければ、子どもの満足もないし、創造の喜びもないはずである。そのためには、指導者が子どもに与える教材に対して深い研究がなければならない。

特に、造形の場合、技術的な難かしさは、子どもの制作意欲を低下させることになるものである。従って、子どもが自

己のイメージをしっかりと把握しながら、想像力を働かせてとりくむことのできる教材なり、主題でなければならない。

その点、紙パイプによる工作は、子どもたちが、身体で造形できる教材の一つである。旭川市図工部の工作領域では、以上の観点から出発し、実践例を積み重ねて、構築的な工作には、紙パイプを使って、子どもたちの豊かな創造力を高め、造形能力を培っている。

次の指導実践例は、目的達成へのプロセスとしてあげたものです。

指導実践例 (1)

(おび紙を使ってつるす魚をつくろう) <小4>

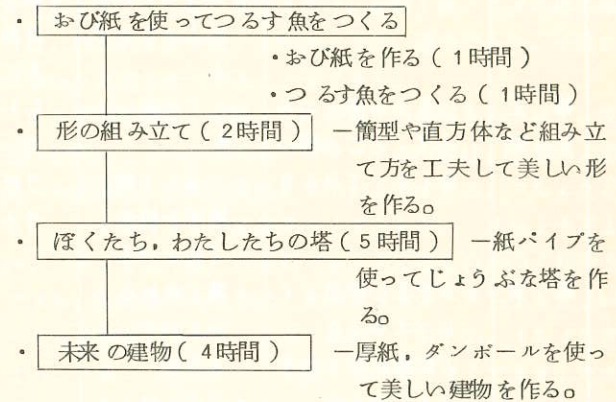
1.題材について

低学年で経験してきた紙工作の折る、切る、まるめるなどの学習の上にたって、おび状の紙を扱った半立体的表現をさせていくが、単なるアウトライン的表現だけでなく、内側を充填させることにより、じょうぶな構造について理解させる。

2.題材のめあて

- ものさし、ハサミ、カッターを正しく使って、おび紙を作らせる。
- おび紙を使って、美しい形の魚を作り、こわれない形の組み立てを考えさせ構造に関心をもたせる。

3.指導計画



4.準備

色画用紙、ものさし、ハサミ、カッター、ホッチキス、接着材、洗たくバサミ、もめん糸、新聞紙、手ふきおしぼり、裁ち板



5.授業の流れ

ながれ	教師のはたらきかけ	児童のはたらき反	留意点
準備	帯紙を用意させる ・この帯紙でどんな形がつかれるか ・形がわからないようにするにはどうするか ・ささえはどこに入れたらよいか	帯紙用意 ・折ったり、まるめたりする ・中にささえを入れる ・たるんでいる弱いところに入れる	・外形固定の「はりに気つかせる」 ・学力構造の初歩的なものをつかませる
条件提示	今日のはつるしても形がかわらない魚を作ってみよう		
条件理解	・自分の作ってみたい魚の形を机上に作ってみよう	・折ったりまるめたりしてすきな形の魚をつくる	・外形から作り中を充填させていかせる
表現	・すばらしい魚になるよう飾りも入れてみよう	・帯紙を組み合わせてささえを入れる ・めずらしい形にしようとする	・概念的な魚の形にとられないようにさせる
修正完成	・できたら糸でつるして、どこが弱いかしらべてみよう	・ここが弱いかな ・つるして弱い箇所を補強して仕上げる	
鑑賞	・友だちの作品とくらべてみよう ・どの魚が生き生きとしているか	・風でゆれるとおよいでいるようだ ・ささえがくふうされている魚はどれかな	

<反省>

この実践例は、こどもたちに、構築的な力学構造の初歩的なものを把握させる場合を考えて指導プロセスの中に入れた。

結果としては、「つるす」ということから、子供たちは、形を作りながら経験的に合理的な、じょうぶな組み立てかたがどういふものであるか理解していった。このことが、塔などを製作する場合などに発展した。

技法的なものとしては、ボンドで接着する時に洗たくバスマイクリップなど利用した方が便利であることと、ホットキス利用によって能率よく接合できる。また、折る、はめる、きる、まげる、まるめる、など紙工作の基本的技法の発展的学習である。

子どもたちは、半立体的な作品だけでなく、立体的な作品も工夫され、新しいアイデアとして、子どもたちからも認められた。

この実践から、第1段階としての指導プロセスとして子供たちの願いを表現させ、制作に対する意欲化ができたことは成果と考える。

指導実践例(2)

(ぼくたち、わたしたちの塔) <小4>

1.題材について

この時期の子どもたちは、高く美しい塔に強い興味と関心をもっている。そこで紙を使って構築的な表現を取り扱い初歩的な構造の学習をさせたい。

ここでは、どこの家庭でもみられる新聞のちらしをまるめてパイプ状にし、紙の強さをはあくさせ、これを自分たちのねがいにあった塔を作りながら丈夫に組み立てる工夫をさせたい。又この学年は計画性の芽ばえる時期でもあるので低学年のときのような自然発生的な方法で作るだけでなく、発想-計画-製作-仕上げという見通しをたて、たしかなものを作る子供を育てたい。

2.題材のめあて

- ・どうしたらじょうぶな塔ができるか組み立てを工夫して作らせる。
- ・紙をじょうぶに使うことを工夫させる。
- ・子どもらしい創造的な塔の形を考えさせる。
- ・計画的に根気よく作業を進める態度を養う。
- ・友だちと協力して楽しく学習をすすめる。

3.指導計画

- ・おび紙を使ってつるす魚を作ろう(2時間)

- ・形の組み立て(2時間)

・ ぼくたち、わたしたちの塔（5時間）

- ・紙のパイプを使って…………… 1
- ・塔のアイデアスケッチ…………… 1
グループで計画を立てる
- ・組み立てる…………… 2
- ・完成、鑑賞…………… 1

・ 未来の建物（4時間）

4.授業の流れ

ながれ	教師のはたらきかけ	児童のはたらき 反	留意点
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・紙パイプを用意させる ・題材のめあてをつかませる ・基本的な形について指導する ・接合方法について基本的なものを考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙パイプ用意 ・紙パイプで四角柱、三角柱 ・四角錐、三角錐などを作る ・継ぎ方を色々やってみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方を事前指導しておく ・材料経験をさせ基本的技法を理解させる
条件提案	<ul style="list-style-type: none"> ・高くて、くずれない、美しい塔にしよう 		
条件理解		<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにしたら丈夫な組み立てか工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで計画を立てさす
構想	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の作ってみたい塔を考えてアイデアスケッチをしてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の作ってみたい塔について話し合いアイデアを決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供らしい「ねがい」と形を尊重する
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・作業順を話す ・もともになる形を作らせ、じょうぶにするために工夫させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業順を確認する ・作業分担して組み立てをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具使用注意 ・組み立て工夫しているものを賞賛、激励

修正	<ul style="list-style-type: none"> ・弱いところを補強してじょうぶにしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱いところの補強をして仕上げる 	
完成			
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を見て話し合いをしよう ・組み立てて工夫している作品はどれだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな塔ができた ・組み立てるとき、三角柱や三角錐にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に作業し、子どもらしい塔について賞賛して自信をつける



この実践例は、子どもたちに、自分たちのねがいの塔ができた満足感と喜びを体験させ、その中でトラス構造の学習をさせることができる指導プロセスである。

高学年における構築的な構造の学習（トラス構造、シエル構造）への橋渡し的な教材というより、初歩的な力学構造トラス構造の学習には、最適である。

何故ならば、従来の場合には、この学年では、アングルの利用による指導や細木による指導実践例が多かったが、これらの題材では、子供たちの高くて大きい、美しい塔という「ねがい」を実現させるには、技法的に難しく途半ばなもので、満足させることができなかつた。この点、紙を利用した（広告のちらし紙、豊富な安すい材料）紙パイプの塔の場合には、技法的な面では、4年生として、適当であり、子供のねがいを実現させてやることのできる。

また学習の後は、子供たちに授業での感想をかかせて、反省の材料としている。そのアンケートの内容は、①題名、②使った道具名、③紙の質は（アやわらかすぎる、ロちょうどよい、ハかたすぎる）④材料が（ア足りない、イちょうどよい、ニ多すぎる）⑤この材料であとどんなものがつくれそうですか、⑥作品の大きさは（ア小さすぎた、イちょうどよい、ハ大きすぎた）⑦グループの人数は（ア少ない、イちょうどよい、ハ多い）⑧グループの話し合いがうまくできましたか（アまとまった、イまとまらない）⑨全員が仕事しましたか（ア遊んでいる人が多い、イみんな協力した）⑩仕事の時間は（アもっとほしい、イちょうどよい、ハ長すぎる）⑪いちばんくふうしたところはどこですか、⑫うまくできなかったところはどこですか、⑬友だちの作品でだれのがよくできたと思いますか。— ということて児童に記入させている。



・工作学習では、この報告以外にも機構的な工作学習、材料経験の学習もあるが、旭川の工作領域としては、この大会では、紙の教材としての可能性、指導プロセス、体系表、要素表などの仮説に対する実践例を提言することで、大会テーマにせまっていくこととして研究してきたことを報告するとともに、今後、他の工作分野で実践研究していくつもりです。

指導実践例(3)

(おもしろい建物) <小 3>

1. 題材について

子供たちにとって、建物によせる関心は強い。この学年は

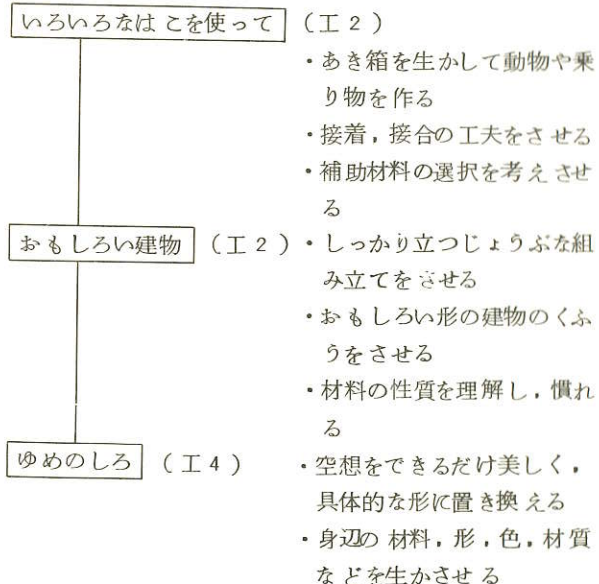
1. 2年とは違い、客観性、批判性が芽ばえてくる。他人の作品に対しても関心が増し、自己の作品に対してもいくぶん批判できるようになってくる。したがって、表面的な技術だけでなく、着想、工夫、努力など指導を考えていかなければならない学年である。

このことから画用紙などを使って、自分たちの作ってみたい建物を創意工夫させて作らせることによって構造物に対する学習を考えさせたい。

2. 題材のめあて

- ・画用紙を筒などにしたものを使って、塔や建物などを作らせ、どうしたらしっかり立つじょうぶな組み立てのおもしろい建物ができるかかふうさせる。
- ・材料の性質を理解し、その扱いに慣れさせる。

3. 指導計画



以前に私の組の子どもが、スパイメモとかいう紙を持って来て目の前の蒸発皿の水に入れました。するとカッキリと四角かった紙がスーッと消えたのでおどろいた事があります。紙もかわった使い方がるものだと感心したものでした。しかし考えてみればこの紙は水洗トイレの紙の類なのです。

その昔中国の蔡倫によって考案され朝鮮の曇徴によって吾が国にもたらされた紙はさらにヨーロッパにも伝えられ現在は吾々の生活と切り離す事ができない位置をしめる様になった訳ですが、主に記録用として生まれて来た紙も、和紙の様に良質の紙は昔はふとんや衣服、こし紙、傘紙などの他の目的にも使われていたようです。現在の紙の使いみちは、レーヨン、ナイロン、ビニロンを原料としたいわゆる「第二の紙」や「ポリスチレン紙」のような、いわゆる「第三の紙」と呼ばれるものの出現も手伝ってその用途も、新聞、印刷、筆記包装、電気ゼppelin、写真、ペーパータオル、各種のフィルター、装飾など昔のそれとはちがって大分幅を広げて来ました。この紙の用途の広がりはその特徴や性質を応用し改良した結果によるものです。

そこで吾々のグループでは、この広い用途を持つ紙について、その特徴や性質に子どもの目を向けさせる事により、作品の内容をより深く豊かなものに発展する事を願って、これを「おび紙の構成」と題して授業に組み込む事にしました。この授業は紙の持つ様々な性質の中から、特に「ひっぱり」について触れてみる事にしました。以下はその授業の記録です。(参考文献、高山正喜久著、デザイン技法講座2、立体構成の基礎)

◎ おび紙の構成 ◎……………4時間(小6)

<ね ら い>

1. 自然物や人工物の中から、ひっぱりを利用した例を探させ身のまわりの構造物に目を向けさせる。
2. 紙のひっぱりに強いめんに気付かせ、これを応用して丈夫で美しい構成をさせる。
3. 接合、接着の仕方を工夫させ、紙がきれないように注意させる。
4. 製作に当っては皆でよく段どりを決め、協力して、ていねいに作らせる。

<準 備>



- 1. おび紙 (薄手模造紙, 巾 3cm のもの)
- 2. ベニヤ板 (4cm x 15cm) をグループに 10 個
- 3. セロハンテープ, 合成接着剤
- 4. 画板 (作品の敷き板にするもの)

<授業の流れ>

・自然や人工物の中から、ひっぱり材を利用したものを探させる。… … つり橋, くもの巣

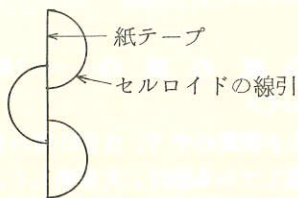
・つり橋について話す。

細長い棒や竹ひごなどの両端を内側に押すと棒は案外たやすく曲がってしまいが、その棒の両方を逆ひっぱりとびんとつばって、なかなか強い抵抗力を示す事が分かる。

細長い線材は、押しつけて使うより、ひっぱり使った方がよい。又、ひっぱり材を上手に使えば材料は少しですむし、構造物全体の重さを軽くすることができる。現在のトラス構造の橋の最大は、支点間の距離が 549m ある。これに対して、つり橋は構造的に最も有利である。ゴールデンゲートというつり橋は長さが 1,280m もある。しかしつり橋は暴風でゆれてこわれるおそれがあるのでその処置が特に大切である。

・おび紙の性質について考えてみる。

(このアプローチは 5 年の場合を例にとった。)

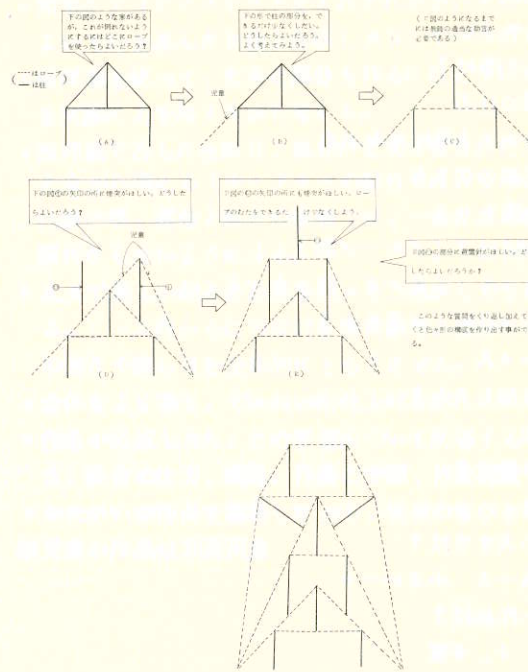


教, 上のように、すぐちぎれてしまう紙テープがどうして立っているのだろうか?

児, (初めはなかなか分からなかったが、やっと紙のひっぱりに気がついた)

教, この様に紙はひっぱり強いところがある。又、半面水でぬらすとびんとはじけるから、水ぬれに弱い面もある、このほか色々な性質を持っている。

・ひっぱり材を利用して次の事を考えさせる。



・上の図のようなものを作る計画を立てさせる。

<製作条件>

1. 作品は共同製作 (6 人グループ)
 2. おび紙と板きれで作る。
 3. 板きれはできるだけ隣り同志が触れないようにする。
 4. 接着は合成接着剤を使う。
 - ・アイデアスケッチをそれぞれかいて見て、その中からよいものや他のものと合成させながら一つにしほらせる。
 - ・各グループのアイデアスケッチを見させて、さらにその美しさ、条件にあった物などを話し合わせる。(にかよった物が多くあれば、参考として別な構成の例を示す)
 - ・あまり話し合いは深入りしすぎないようにし、構成は作業をさせる際にどんどん修正させていかせる。
- おび紙作り。模造紙で幅 3cm のおび紙を作らせる。(紙を切らせる場合には切り目を紙につけないように、紙は切れ目があるとそこから裂けやすい事に触れておく)

○製作~完成

<児童の作品のスケッチ (5, 6 年の作品)>



<児童のアンケート>

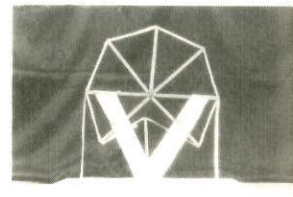
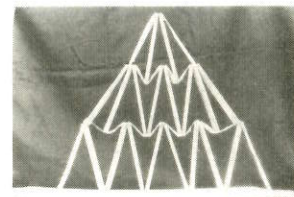
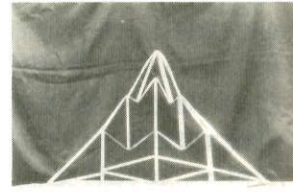
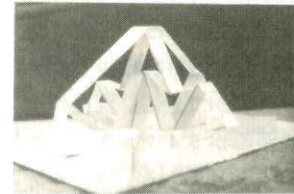
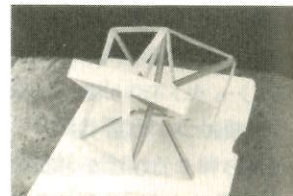
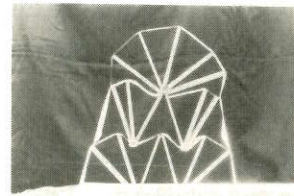
- 1.紙の質はどうか？
 - ・切れやすい
 - 2.苦労した所は？
 - ・接着の仕方
 - ・組み立てる時にたおれた
 - ・おび紙の切り方
 - ・紙の張り
 - 3.作業時間は？（グループ別）
 - ・適当ー5 不足ー2 余ったー1
 - 4.グループは何人が適当か？
 - ・5～6人
 - 5.全員参加したか？
 - ・参加
 - 6.材料の量は？
 - ・適当
 - 7.作品の大きさは？
 - ・適当ー3 小さいー4
 - 8.美しい作品は？
 - ・1, 4, 8班
 - 9.この製作は面白かったか？
 - ・面白い（全員）
 - 10.この様な方法でどんな物を作りたいか？
 - ・タワー, 車, つり橋, 船, 城, かご, 水車……
- ※5年についても製作後のアンケートをとってみました。
 (紙のかわりに透明テープを使用)大体において、むずかしかったが、面白かった。という結果が出ています。
- 前記のアンケートにも出ているように、子どもたちはこの「おび紙の構成」に興味を持ち、見なれぬ構成の美しさに目を輝かし製作に没頭した様です。

<反省点・問題点>

- 1.児童の発達段階とこの教材との位置づけをどう考えるか。
- 2.題材の内容を、子どもの持つ夢にもう少し近づける方法はないか。
- 3.題材の深め方の問題(作品が類型的、模倣的になりがち)
- 4.紙が切れやすい、すぐたるむというケースが多かった事と組み立て中にたおれる事が多かった事から、丈夫な紙や紙テープの幅を広くして安定をよくする配慮が必要。
- 5.透明テープで練習した作品の方が結果として美しく感じられた。特に作品がたおれない様に、色々な方向

からひっぱると中側の構成がかくれて美しさをそこなりもあつた。

6.透明テープはテープ同志のべたつき、はがれ、接着の仕の工夫、たるみをなくするなど問題点が残っている。



◎紙の橋◎……………7時間(小5年)

<題材について>

子どもたちが授業の中で、自分の願いを実現させるための一生懸命作業している姿は、大変美しく、素晴らしいものがあります。なんとか願い通りに実現する様にと思わずにはいられませんし、又、さらに一段と作品の内容を深めさせたいとも考えます。児童の作品を見ていますと、自分の願いを實現させるための努力を考るの半面、作品をいゆる視覚的にとらえている面があります。厚紙の作品では構造的に多少無理があつても、形がくずれないのでその無理に気付かない事が多い様です。(勿論、指導面や児童の発達段階によって要求の程度を変える事はいうまでもありません)そこで工作の学習では材質と構造のつながりや材料についてさらに、目を向けさせる事が大切だと思います。小学校の高学年である五年生にこの様な事を扱える時期にあると考え、材料もとくに西洋紙という薄い紙を使い、構造の無理や部分の弱さ、接合の問題



などが、はっきり気付く様にと考え、子どもの願いの実現をより確実に、豊かに発展させる様にと計画しました。

<題材のめあて>

1. 橋の構造を考え、立体的に美しく丈夫に作らせる。
2. うすく弱い西洋紙を、どのように丈夫にし、さらにどのように接合し、くみだてるかを工夫させる。
3. 自分の願いを計画的に実践し、紙の性質やその可能性をさぐる。

【製作条件】

西洋紙を使って橋脚の間が8cmの、橋がたわまない丈夫で美しい橋を作る。橋脚は机の面に固定する。西洋紙は何枚使ってもよい。6人グループの共同製作

【準備】

西洋紙、ホッチキス、合成接着剤、はさみ、カッター、ものさし

<授業の流れ>……………(5時間分)

- 橋の種類や構造について話し合う。
- 西洋紙の性質の中で、強い点、弱い点を色々な力を加えて

調べる。

- 簡単なアイデアスケッチをそれぞれかき、その中から一番よいものを選んだり他と合成したりして一つにしぼる。
 - 西洋紙を使って、丈夫な部分を作るにはどうしたらよいかを実際に力を加えながら考える。
 - 西洋紙で作られた部分と部分の丈夫な接合の仕方を力を加えながら考える(ホッチキスの接合では、うすい紙同志では弱い事、部分と部分の接着では、一番表面の紙同志の接着にならないようにする。)
 - 丈夫で美しい組み合わせを色々な方向から力を加えて考える。(一方向からの力だけを考えがち、部分の強さ、構造の強さや美しさを全体的にとらえさせる。)
 - 全体をよく見て、ていねいに仕上げる。
 - 作品が完成したら、この学習について反省する(紙の丈夫さ、接合の仕方、構造、作業の手順、作業態度)
 - おたがいの作品を鑑賞しながら、完成の喜びを味わい合う
- ※児童の作品は別途用意

中学校絵画領域

提言者 中西清治(常盤中)

中 校・絵画指導の系統表

中 絵



79

領域のおさえ

鋭い感受性が養われれば、身近かなところにも、美しさは限りなく発見できる。

そしてそれは作品を創ることによって、表現することを通して更に高めていくのが、表現学習としての絵画であろう。

美術的表現意欲を高め、美的感覚を洗練して、表現能力を養うというねらいは、美術を通して人間形成をし、生活にも生かすことである。表現能力を高めるために、構想や写生による表現で、創造的な活動がなされ、質的な面でも一応の高まりはありましようが、その基礎となる、いくつかの造形的基礎練習が高められなければ、本物の表現能力を養うことにはならないと思います。

多くの学習では、自分の感じたものや、考えたことを表現することにねらいはあっても、客観的に描写する事が少ない様だ。発達段階から見て、青年前期にあたる中学生は、物を客観的にとらえようとする傾向があらわれ、対象を覗いて描こうとする欲求を示す。そこで、私達はその欲求に答えて、それをより効果的に指導する必要があるのではないだろうか。

彼らは、描きたいし、彫りたいし、創りたいんだ。しかしあまりにも他と比較しすぎ、出来た結果のまずさに、創る意欲をなくすることが多いのではないだろうか。

絵画領域では、他領域との関連が強く、又、それらの基礎的存在でもあると考え、物の見方、とらえ方、考え方を、効果的に指導する必要があると考えている。

特に第1学年では、中学校という新たな環境の中で、身近かなものを中心に、自分の感じを素直に、無理なく表現させ、2学年では、1学年の積み上げの上に効果を考えて、計画的に、意図的に表現させることをねらい、3学年では、1・2年生での指導の上に、個性的表現をすることをねらいとしている。

一応私達は、別表の様に、絵画領域の指導の系統のおさえをしてのますが、これはあくまでも一つの目安であって、これをもとに、それぞれの学校にあった独自の工夫がなされているわけです。中学校での3カ年の中で、小学校で育てられた能力を基に、更に造形能力を高め、発展させ、造形的ものの見方、とらえ方、考え方をのばし、自分の思いを適切に表現できる能力をつけさせたいと願っているわけです。

	中 1 年	中 2 年	中 3 年
ねらい	身近かなものを中心に。 自分の感じを大切に。 ○観察力を高める。	構図、明暗などに問題をしばってより自分の感じを深める。 ○造形的な関心	構図、遠近感を中心に。 ○個性的な表現 ○芸術的表現の理解
写実	る。 ○基礎的な写生力 ○写生態度	○計画的に表現	
風景	○地平線のとり方 ○広々とした感じの表現 ○写生会	○建物を中心として ○写生会	○総合的に ○余暇利用 ○写生会
静物	○美しさをとらえて	○構図の工夫	○画面構成
人物	○人の動き ○立体感のとらえ ○明・暗のとらえ	○単位表現 ○特徴をとらえて ○形と動き ○面のとらえ	○複合体 ○まとまり ○群像構成
印象のや表現	自由に表現する ○生活経験の関連 ○科学的題材 ○文学的題材	構想をや、計画的に表現する。 ○同左 ○感情の表現	構想を適確に表現する。 ○同左 ○変形と強調
指導要素	○基調色 ○混色 ○パレットの用法 ○透明・不透明の扱い ○バランス ○明暗 ○陰影 ○立体感 ○動勢	○表現材料の効果 ○濃淡 ○遠近 ○明暗 ○材質感 ○変化と統一 ○リズム ○比例 ○単比例 ○立体感	○同左 ○強調 ○変化



実践例 1.

○ 題 材 基 礎 的 練 習 <中 1>

○ 題材について

中学生となって、新たな気分の中で、美術を通していろいろなものを吸収していく彼らではあるが、年令的にも客観的に物をとらえようとする傾向が強くなってい。そこで入学当初の気持を大切にしながら、身近かなものを対象に、観る力、描写する力をつけるために、強い意味でなくはっきりした指導の手だてを教えることにより、周囲にある、心にある美の発見と表現の糧としたい。

○ 指導計画

- ・ **オリエンテーション** ・ 中学校美術についての大要と学習をするうえで心構えについて
- ・ **色彩について (となり人)を描くことによって** ・ 混色・色の三要素などの説明
・ 生徒の描写力・態度・心構えについて実態把握
- ・ **形・明暗について (となり人)を、クローッキー、デッサンすることによって** ・ 形・立体感のとらえ方
・ 物を観る態度、描く態度

○ 反 省

以上、本題材に入る前にやったものである。

1年生であるので、あまりむづかしい事はいわないことにした。が、子供の自由な気持を大切にしながらも、安易な妥協には終らせたくはなく、物に対する時の描く態度を重視した。例えば、馬を描こうと思っても、馬についての大ざっぱな考えは知っていても、いざ描く段になると、耳はどの辺りについているのか、首から前足の方へはどの様につながっているのかなど、細かな点についての観察がされていなかった様に思える。そこで、物を観る時、それを描く時、どの様な態度でいなければならないかを教える必要があると思う。

- ・ 物に対する目の配り
- ・ 手の動かし方
- ・ 心のもち方

など細かな点にも教師の実演を入れながら指導してみた。生徒はわかっている様で、聞いているようで、知らない

事が多く、教師の見ぶり、手ぶりは相当、効果 ある

実践例 2.

題 材

友だちの顔

<中 1>

題材について

中学生の年令の特徴として、客観的に対象をとらえようとする傾向が強くなっている段階では、観察力の不均感ずる。今まで気づかなかった角度から物を見たり、方法を工夫することにより、その不均衡を少しでも取り、生徒の表現をより豊かなものに高めたい。

こゝでは、平凡ではあるが、最も身近な対象である人、をもう一度自分の目で見つめ、そこから感じとつものを画面に表現させるのであるが、特に物に対する観察力・基礎的な表現力を身につけさせ、更に、この学習を通して友達の良さ、美しさを感じとらせたい。

題材の目あて

1. 各部のつりあい、形の変化を観察し、色彩・構図を捉えて、表現させる。
2. 自分の感じたものを素直に表現させる。
3. 友だちの顔の美しさを感じとらせる。

指 導 計 画

(ね ら い)

オリエンテーション
基 礎 練 習
(顔)

2時間

- ・ 黒い紙に、白い(明るい色)素材で光の当たっている部分を描くことにより、明暗、立体感をとらえさせる。
- ・ 外形をとらえて描くのではなく、光の当たっている所から描く様に指導する。
- ・ 紙に対する固定概念の打破。
紙は"白いものだ"ではなく、白も色の一つであるという考え方をもちたい。

版 画

(単色版)

- ・ 明・暗のとらえが、しかりと出来た段階で、単色版画の、白、黒のバランスを主とするものに



この方法がすぐ使える。
 ペニヤ板を黒くし(墨などで)明かるい部分を彫刻刀などで、彫ったり引っかいたりして出すことにより、表現できる。
 ・1つの発展教材として2・3年になるにつれ、かなり細かな所まで、出すことができ、表情などもとらえることができる。

単色で表現
(顔)

- ・水彩絵の具を使って、単色で、明・暗による立体感の把握
- ・画用紙も中間色の色画用紙を使用する。
- ・顔の中央部(鼻)の辺りから描きはじめる。

色彩を考えて
自由に表現する

- ・この段階では、対象に対する観方、とらえ方、考え方が以消とはちがったものとしてとらえさせたい。
- ・自由な考えで、対象から受けた感動、美しさを素直に表現させたい。
- ・相互の作品鑑賞
- ・最初のイメージがうまく表現できたか。

鑑 賞

うやって描くんですか」「口はどうですか」「筋肉のもりあがりはどうすれば、良くもりあがった様になるんですか」「誰々君、何々さんに似てない」など、教師が、特別ねらわない事、時でも、生徒は、その様な客観的なとらえ方をしたいと欲しているのです。

又、彫塑の学習の時などもそうであるが、レリーフなどで、生徒の創った作品が、平面的な感じてあり、肉の薄いものとして創ってしまう傾向を見たりした時、なお更、対象を観る力、表現できる力を、特に描画指導の中で、しっかりおさえておいた方が、他領域(もちろん、各領域にはそれぞれのもち味はありつゝ、相互の入り組みもある訳ですが)への発展として、これからやろうとする題材の持っている本来のねらいへと、楽に進み易いのではないかと思う。

勿論、写生的表現ばかりではなく、構想的表現においても、十分なる配慮のうえ、指導する訳ですが、自分が考えたこと、想ったことを表現する場合でも、その通りになってほしい故に、その時に必要なものが、やはり一つの能力である描写力として浮び上がってくるのではないだろうか。

今回は「友だちの顔」を題材にとったが、人物についての指導の手だてはいろいろあろうけれど、明暗をとおしての面の考え、立体感のとらえを、身近な「友だちの顔」を描くことによって、とらえさせようとしたのである。

他にもこの題材を扱う上に、必要な教える点はたくさんあるが、特に、教師側のねらいとして、明暗・面・立体感に力点をおいたのである。

これを十分に行うことは、先にも述べましたように、2年・3年になった時に非常な助けとなり、生徒も創ることに喜びをもつ。故に、1年生の時に、かなりの時間をさいて、指導する手だてをはっきりすることだと思ふ。

中 学 年 提 言

装飾的な活動を通してのデザイン学習

<写生会の一実践例>

(旭川市立常盤中学校 1.2年対象)

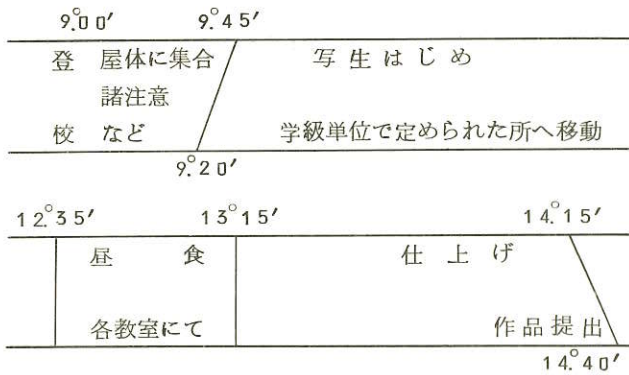
○日 時 昭和45年5月11日(月)

(雨天、その他悪天候の時は、普通授業で12日(火)に実施する。)

反 省

こゝでは、以上の一つの流れを考えたが、これは、生徒がいろいろなものを創る時、どんな点につまづき、どんな事に困っているのかを、見、聞きした時にだった。「こゝがうまく表現出来ないんだ」「考えたことが、その通りに描けないんだ」――。

友達顔を描かせた時、生徒との反省の中で、「目はど



- 9.45' 以後は平常日課時限で休みをとり、昼食とする。
 - 14.40' ~ 45' の間で各教室に集合、作品を提示する。
 - 場所 常盤中学校周辺（別紙で学級単位の場所を图示する。）
 - テーマ 「遠近感」
 - 持物 写生用具一切（画用紙は四ツ切大を全員一括して用意し配布する。）
（学級毎バケツにて水を用意する）
 - 指導 主として美術科担当教師があたるが、美術科で用意する指導略案を参考に各担任が、適宜指導助言する。
 - 諸注意
 - ・自動車の通行するところに位置して描かない。（安全第一）
 - ・普通授業と同様、休む時（ふざけたりする生徒がいるので）は、チャイムを合図に休み時間のみ休む。
 - ・完成しなくても、必ず提出する。提出の時は裏の右下に必ず、学年、組、番号、氏名をはっきり記入する。
 - ・服装は、体育時の体育着（ジャージ）にすること。
 - ・使った新聞紙などをそのままにしないで、きちんと後始末する。
- 場所について
- ・別紙での学級毎の位置図は省略（必ず、その場所ではなく、早く場所が決まったり、又あらかじめ決めている生徒はその限りにあらず。）

<美術科 学習指導案>

日時 昭和45年5月11日

生徒 旭川市立常盤中学校生徒 1.2年生

場所 常盤中学校周辺

1. 題材 <建物 ある風景>—遠近感—
2. 題材について

風景写生というと、その解放感の喜びと同時に、視界の広さと多様な題材にちまどう場合が見受けられるが、ここでは主として遠近感、奥行きを表現させる。身近な建物のある風景を写生させるのは、基本的な観察方法や、遠近感がある構図を知的に表現方法を知るために大切である。

普段見なれた風景なので、主題の「遠近感」がぼけてくると、観察のねらいがあいまいになるので、最後まで意図的に描かせるためにも、主題を明確に周知させることが必要である。

創造的な個性を発揮する機会は、感動することにより、いっそう美しさを増すことを考え合わせ、概念的な色彩をわせないために、注意深く、愛情をもって観察し、新しく、形・色などを再発見し、概念化を打破して、新しい認識を深めさせたい。

3. 指導目標

- (1) 遠近感のある知的な構図を使って、遠近による形や色彩の変化を創造的に表現する能力を養う。
- (2) 建物をよく観察して描くことによって、頭の中にある概念的な画像を打ち破り、新しい認識を深め、発見し、新しい創造の手がかりをつかませる。

4. 学習指導計画<5時間扱い>

- (1) 風景写生の仕方と構図のとり方、用具の使い方を指導する。<35分>
- (2) 素描材料（えんぴつ、サインペン、ボールペン等）を用いて下描き。<40分>
- (3) 着色して仕上げる。相互鑑賞 <225分>

5. 写生会扱いの時間配分<9時開始の場合>

時間	9.00' ~ 9.35'		9.45' ~ 10.35'		10.45' ~ 11.35'
内容	導入 (屋体で)	休	下描 着色	休	着色
時	35分	10分	50分	10分	50分



時 間	11.45' ~ 12.35	13.15' ~ 14.05'	14.15' ~ 14.40'
内 容	休 着 採	昼食 休 着 彩	休 着 彩 鑑 賞
時	10分	50分	25分

6. 準 備

- ・生徒一水採用具一切、画板・画鋏・下描用(素描)材料 敷物・弁当
- ・教師一画用紙(四ツ切り)・スケッチブック他

7. 展 開

学 習 活 動	時 間	指 導 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ○写生のしかた ○心がまえ ○用具の使い方を理解する。 	20分	<ol style="list-style-type: none"> 1. 制作上の時間配分について。(昼食, 休み時間, 終了時刻について) 2. 写生位置について (早く決める。危険カ所。車の事。都合で動く時) 3. 用具の点検(不備なものを調べる。) 4. 描法について(構図"遠近感"。一本線描き, 良く観察して新しい色・形を発見する。) 5. 写生態度について 6. 提出について。(氏名等を明示して文化委員へ。)
<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ予定し指示された場附近で位置を決める。 ○決められた条件でいろいろ観察する。 	15分	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開放的になるが, "観ること", "感じること" がしんげんにできるよう習慣づける。 2. 構図のつかみ方を, 個別に指導する。 <遠近感の表現しやすい構図>
<ul style="list-style-type: none"> ○下描きをする ○形をていねいに, 素描材料 	40分	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定規は使わせない。 2. 鉛筆を使う時, 消しゴムは最小限度の使用にとどむ

で描く。
○遠近の感じを出すための画面効果についての工夫をする。

3. 陰影の部分は、線で引いて暗く描かせない。
4. 遠いものと近いものとの関係を工夫。手前にあるものは少し大きめ位に。
5. 目の高さなどにも注意して、自分なりの構図にあったものにする。



6. 構造上, 必要であれば, 遠近感をさまたげるような物は, はぶいたり, 効果の良くなる物は加えて独創的な画面を構成させる。

○心をこめて良く観察して描いた, 生々しい線を十分生かすように絵の具の使い方着彩について工夫する。

160分

1. 筆にしみこむ水の量を加減させる。
2. 下の絵の具が乾いてから上にぬる。
3. 良い所があれば, はげましの言葉をかけてやる。
4. 画面全体が良く見えるような姿勢で描く。



		<p>5. パレットには使う色全部を出しておく。</p> <p>6. 概念的着彩ではなく、意識的に絵画上の効果を良くする着彩をさせる。</p> <p>7. ぼかし、タッチの変化、精密、大まかななどの効果を遠近の中に十分考えて使わせる。</p>
<p>○部分と全体の色の調和や変化を良く観察して仕上げる</p> <p>○相互鑑賞</p> <p>○作品の提出</p>	25分	<p>1. 個性的、創造的な点はどうか、色彩・構図はどうか、早く出来た生徒毎、相互鑑賞させる。</p> <p>2. 写生地のごみなどのあと始末をさせる。</p> <p>3. 学級毎、氏名を明示して丸めたり、折ったりしないで、提出させる。</p>

反 省

3年生の修学旅行時に、1、2年を対象にして行ったのですが、主題は“建物のある風景”（遠近感を中心とした）であった。少し1年生では、遠近感についての考えが浅いかと思ったが、事前指導、導入の段階での指導で何事もなかった様であった。

中学校デザイン領域

提言者 鈴木俊昭（光陽中）

領域のおさえ

人間が生きていくために自然に対して何か変化を与えることがデザインで、歩くためにじゃまな石を横に動かすことさえデザインであるという。このようにデザインの対象となるものは、家庭生活のみならず、社会生活全般にわたっている。

鉛筆からマッチ箱、都市計画、そして人工衛生とデザインの分野はきわめて広い。中学校の美術科で扱う「美術的デザイン」では工的な条件の多い工業デザインや建築デザインを除いた分野のものというように指導要領には示されている。

したがって比較的、工的な条件の少ない視覚的なデザインが主として題材にとりあげられることになる。また美術教育は広く、人間教育という立場から、純粋芸術活動ばかりでなく、それを生活に生かすという使命もあるので、新しく物を設計すると同様に、他の人の設計したものをどのように自分の生活環境に活用するかという配置配合、環境の改善美化もデザインの領域に含まれる。

これらの領域に含まれる指導内容をきちんと系統だてて、各学年に配分することは必要でありながらも、生徒の主体的で創造的な表現に学習の重点をおく美術科では、理路整然と積み上げる内容的な構造化は困難である。しかしながら系統をたてて学年をチェックしていかないと、決められたわずかの時間の中で、十分に造形的な経験をさせられないので、当市においても、デザインの指導内容を右表のような系統表にまとめてみた。しかし、これはあくまでもめやすであって、題材については各学校の実態や生徒の興味や能力の発達を考慮して、独自の指導体系があってしかるべきである。ただこの系統表を作成した時点での願いは、小学校における「模様をつくる」「デザインする」での学習経験の基礎の上になって、中学1年ではいずれかといえば、表現の際に役立つ基礎的な能力を養うことに重点をおき、2・3年では、これらの能力をさらに伸ばすと共に、これらの能力を使って総合的に応用する力を養いたいと考えたのである。具体的な指導の系統については、右表の系統表を参照していただきたい。

また、基礎練習の中に含まれている色、形、表示の練習と材料経験をとおして、1年ではこれらの要素的なものを比較的単純な形で練習させ、学年が進むにつれて、複合的に取扱ったり、条件設定を複雑にしたりして漸次程度を高めていく

ような方向で指導したい。

それに各学年におけるデザインのおおまかな発達段階を次のようにとらえている。

1年生は、まだ中学生になったばかりで、小学生に近いものが多分に残っており、できるだけ具象形や日常目にふれるものの形を尊重し、楽しくデザインさせるが学年の後半になるにつれ、計画的に考えるデザインをさせる。

2年生は、かなり中学生らしくなってくる時で、抽象形に対する理解が深まり、デザイン学習が急速に伸びる時でもある。定規、コンパスを使用しての機械的な作業にも適している。

3年生では、物の把握が全体的、関係的な把握へと進み、意図的な省略、強調ができるようになる。

中学校デザイン指導の系統表

学年 項目	中学1年	中学2年	中学3年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 経験、興味を生かして身近なもので伸々とデザインする。 基礎的で容易なものを扱い興味、関心を呼び起こさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸条件を考え条件に適したデザインをする。 形体、色彩、材質などを総合的にふまえたデザインをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸条件を深く理解し、条件に、適した創造的価値のあるデザインをする。 同左
材 料 ・ 用 具	<ul style="list-style-type: none"> 美術的表現に生かして使用 	<ul style="list-style-type: none"> 形の構成練習と融合して使用 	<ul style="list-style-type: none"> 2年に同じ
配	<ul style="list-style-type: none"> 色の三要素 色の感情と三要素との調和 	<ul style="list-style-type: none"> 色の面積や配置 (律動、均衡) 	<ul style="list-style-type: none"> 色の機能→生活設計 色彩感情、補





指 導 の 構 成 内 容 容 験	色	(寒暖, 軽重) ・色の明示 (類似, 対象)	動勢, 強調) ・変化と統一の 美的構成	色や対比の効 果, 色彩の性 質
	形 の 構 成	・美的な形の発 見と形成 ・創造的構成 ・自然形→自由 な形態 ・抽象形→幾何 学的な図形	・同左 ・自然の観察力 の深化 ・対象の特徴を 生かした形の 構成	・同左 ・平面上の調和 の構成(律動 均衡) ・立体の空間構 成(空間, 律 動, 均衡)
	材 料 経 験	・材料のもつ特 質と材質感へ の関心 ・地はだ ・扱い方のくふ う	・材質感を主に した構成	・各種材質の構 成と表現効果
	表 示	・客観的表現 ・説明的表現	・同左 ・立体感, 材質 感の表現 (明暗, 陰影) ・見取図, 展開 図	・同左 ・物と物との関 係などの客観 的表示 ・遠近の表示
	題 材	・マーク ・表紙 ・ポスター ・包装紙	・同左 ・図表, 説明図 ・カレンダー ・包装容器	・同左 ・記念物 ・舞台装置

次に、中学校のデザイン学習を各学年ごとにみても、指導書（文部省発行）でも指摘しているように、1年では、だいたいの使用目的などの大きな条件のもとで、自由に構想を伸ばすことをねらいとしており、2年では、この基礎の上から条件に適應して構想も計画的にしていくようにする。だから使用目的の他に、それがどのようにしてできるかということなども考えてデザインすることが必要とされる。

3年では、2年での学習経験を基礎にして、さらにデザインの条件をしっかりとらえて計画させるようにする。

「美術的デザイン」の中には、前にもふれたが、家庭や社会の生活の中で、すでにある物を、選んだり、取り合わせて効果を高めて使ったりして美的環境をつくり出していくという、物の配置配合も含まれており、その能力を高めて、生活を改善していくことは、デザイン教育の目標の一つであるわ

けである。これを各学年ごとにみても、1年では広範な環境整備よりも、家庭や学校などにおける、小範囲に区切って行なわれるようなものを、主として平面における配置のよしあしの効果をねらう題材をとりあげて扱う。2年では、家庭や学校における、自分達の生活上必要なものとしての物の配置配合が扱われ、3年では、社会生活の環境におよぼし、それらについて環境の合理化、美化の態度と生活を養うようにすることとなっている。

「美術的デザイン」と他領域とのかかわりを見た時に、色や形などの基礎練習は切っても切りはなすことのできない密接なつながりがある。というのも、この基礎練習で養われた能力がデザインでの活用へと発展することが予想されるからである。絵画や彫塑では、自由な感動表現がおもなねらいであるが、それらの基礎になる創作的な表現の態度や自由発想の素地、それに構成する能力を養うのが、本来のねらいで、ここで養われた能力が自己のデザインの意図を他に伝えるための表示の基礎になると思われる。また造形要素の中でも感情に直結している色彩は、絵の指導によっても十分養われるものであるが、その他に、目的や条件をもった配色の指導も平行してなされればデザインへの豊かな発展が期待されるし、感覚練習の成果を、具体的にデザイン指導への発展に考慮するならば、生徒は基礎練習としての学習に意義を感じることであろう。また色の機能性をポスターやその他の重宝美術のデザインに活用させると、かなりのものが期待できる。構成練習では、生徒の独創性をのぼしたり、新しい発見する方法の研究をしたり、その間に感覚を洗練するのがねらいで、そこで身についた感覚が、デザイン学習をすすめるのに十分生かされてくると思う。

また、アイデアが表示によって、一そう確かなものとなるのであるから、「デザイン」と「表示練習」とは、特に密接なつながりがある。

アイデアはこれを紙面の上に、あるいは、立体として具現的な形にして示すことにより、さらに新しいアイデアへと進んでいく手がかりとなる。それ故に、表示技術をしっかりと身につけるといことは、デザインでは、発想を豊かにするうえでなくてはならないのである。

以上、述べてきたように「美術的デザイン」と「色と形などの基礎練習」とは深いかかわりをもっているものであり、指導要領では、この基礎練習の領域はなくなって、その部分がデザインの中に包含されたのを見ても、その深いか

題 材 飾り皿 <中 1>

題材について

デザインは使い易くて便利であるとか、性能がすぐれているとか、丈夫なことも大切であるが、外観の美しさもそれにもまして大切である。そのためにはよい色彩感覚が何よりも要求されるのである。色彩について 知識は、デザインの基本的なものではなく、むしろ感覚として身につけさせた方が、表現を高めるのに効果的と考え、前時学習の発展として飾り皿の制作をとりあげた。皿は毎日食事の際に接する機会が多いがただものを「のせる」「入れる」だけでなく、他の機能……「装飾品としての皿」もあることを感じとり、さらに思考を発展させてくれればと願っている。

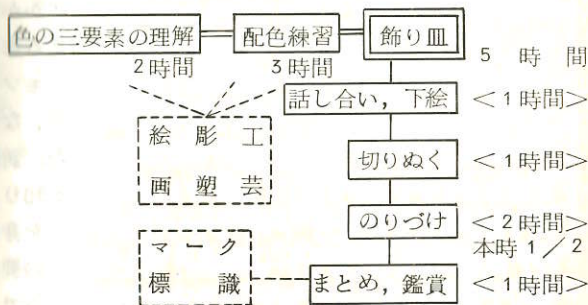
一方、図柄に使用される魚は、昔からさまざまな形で生活との結びつきが多く、食生活のみならず観賞用として接する機会も多い。

また、近年いちぢるしく化学製品が我々の日常生活の中にとり入れられているが、使用後は何の抵抗もなく、捨てられがちである。今回使用する発ぼうスチロールの皿もしかりであるが、これは材料抵抗も少なく、ナイフでの切断が容易である。そこでこの発ぼうスチロールの皿に魚を切り抜かせ、そこへの配色をとおして色彩感覚を身につけさせたいとの願いから、この題材をとりあげた。

題材のめあて

- ・前時学習の配色練習を実際に自分のデザインとして生かすとともに、飾るデザインに対して関心をもたせる。
- ・身の回りで見られる廃品的材料から、造形の可能性を見出し、それを自分でデザインする喜びを味わう。

指導計画



学習活動	時間	指導の留意点
<p>話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁飾りについて話し合う。 ・壁飾りの必要性について考え。 ・発ぼうスチロールの皿を見せ話し合う ・参考作品を見せ。 	0.6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭にどんな壁飾りがあるか発表させる。(絵, 掛け軸, 書, 飾り皿等) ・家庭に飾ってある飾りものを一切とりはずしてしまったときの殺風景さを予想させ、生活する上での潤いの大事さをわからせる。 ・発ぼうスチロールの皿が一般にどのように使われているか話し合わせる。 ・参考作品を見せ、廃品的な物でも立派に造形の素材になることを気づかせると共に、制作する意欲を高めさせる。
<p>下絵を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段、皿にどんな料理がのせられているか想起させる ・下絵をかく。 	0.4時間	<ul style="list-style-type: none"> ・カレーライス, スパゲティ, 肉, 魚, 野菜等, たくさんある中から、表現しやすいもの、日常生活との結びつきが強いものということで魚をモチーフにする。 ・スケッチブックにいくつか描かせる。 1. 切りぬくことを考慮してあまり複雑な形はさせさせる。 2. 単純すぎてもおもしろみが失われるので、少なくとも5つ以上の面積ができるように工夫させる。 3. ユーモアもとり入れ、楽しい魚をかく。





<p>切りぬく</p> <p>・下絵を皿にうつす</p>	<p>1時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかかいた中から2つを選び、それを直径15cmの円の中に、一部修正しながら下絵を完成させる。 ・スケッチブック(クロッキー用紙)の下絵を皿にのせ鉛筆で下絵の線をもう一度描くことにより、皿にあとをつけさせる。よごれるので皿には直接鉛筆で描かないように注意させる。 ・計画的にきり抜いていき、失敗しないよう気をつけさせる。 1. 皿の面に対し、垂直に刃をあてさせる。 2. 切り口がきれいになるよう、ていねいに仕事をすすめる。 3. 色紙を大きくはりつけ、その色紙の上に逆に発ぼうスチロールをはる方法もあることを知らせる。 4. 2枚制作する。 	<p>えて2枚目を配色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色紙をはる ・リングでつなぐ 	<p>い、重い、軽い、はで、ぢみ、のいずれかの配色で制作させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚目同様、色調が片寄らないよう、グループ割当し作業はていねいに進めさせる。 ・1枚目の友達の作品を鑑賞させて制作意欲を高める。
<p>色紙をはる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示に従って「1」枚目を配色する。 ・色紙をはる ・リングでつなぐ ・指示に従って、色の感情を考 	<p>2時間 本時1/2 (公開授業案参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚目は前時学習の寒色、暖色、補色、めだつ、めだたない、同系色のいずれかの配色で制作させる。 ・色調が片寄らない様にグループで割当させる。 ・のりのつけ方をくふうしてていねいに作業をすすめさせる。 ・各色調ごとにリングでつながせる。 ・2枚目はたのしい、さびし 	<p>皿の集まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リングでつなぎ合わせた作品を一つの作品とみて色調が調節をする <p>鑑賞する。</p>	<p>1時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の壁飾りということで全体的な色調を考えて、もう一度つなぎなおさせる。 ・話し合いをしながらすすめる。 ・それぞれ配色をくふうし、美しい飾り皿が制作されているかどうか、また制作の過程でくふうしたこと、苦労したことなどについて話し合わせる。 ・飾り皿そのものにも美しさはあるが、それらがいくつか集まった時の美しさも感じとらせたい。 ・飾り皿の制作で身についた事柄を次の制作に役立たせたい。

〔1〕色の三要素の理解

我々の目に触れるものはすべて色がついており、ばく然と色の世界で生活する我々は好むと好まざるとにかかわらず、色彩から逃れる事ができず、その色彩の与える影響も大とみなければならぬ。たとえば、人間生活がモノクローム映画の画面でみられる様な世界であったなら、なんと潤いがなく味けない日を送らなければならぬか。新緑の芝生の上でやすらぎを感じ、赤いランプで危険を知り、花園で色の美しさを感じ、ブローチやアクセサリーを身につけ、部屋に絵を掛けるといった類は、たとえ諸々の要素はあっても色を切り離して考えることができないもので、生



活する上でいかに大きくそのウェートを占めているかを考えさせられる。我々が色の世界から逃がれないかぎり、それらに支配されることなく、自ら意識して色彩による住みよい環境づくり、楽しい生活へと利用されるべきと思う。

よく然とした色の世界を系統的にまとめて理解することにより、色彩に対する関心を高め、その場にあった色を自らすすんで調節し得る能力や態度を身につけさせたい。と同時に、造形学習においても欠かすことのできない色彩を効果的に使うことにより、表現への高まりの手助けとしたい。

イ、色彩の指導系統

<小学3年> ①明るさの違いに気づく、②無彩色の高明度、中明度、低明度、③有彩色、無彩色に気づかせる。④有彩色——色の輪になることを理解。

<小学4年> ①有彩色にも明るい色、暗い色のあることを経験をとおして理解

<小学5年> ①あざやかな色と鈍い色(3段階)、②軽い感じの色と重い感じの色、③色相や彩度一にぎやかな配色や寂しい感じの配色

<小学6年> ①色の対比、進出、後退性一経験をとおして理解、②混色指導として、色相、明度(3~5段階)、彩度(3~5段階)の変化を経験をとおして理解

<中学1年> ①コントラストの強い配色、弱い配色の経験、②色の寒暖、軽重、強弱、柔軟の効果を主とした配色

<中学2年> ①類似の調和、対象の調和、色立体についての初歩的理解、②面積や配置一律動、均衡、動勢、強調などの扱い方の指導

<中学3年> ①色の機能を主とした配色練習、色彩感情、補色や対比の効果、色の進出、後退性、色の膨張、収縮性

ハ、指導内容(色彩掛図、色立体、回転板の利用)

- ①、色を大別すると有彩色と無彩色になる。
- ②、色には3つの要素があることを知る。
 - a 色相一色は無数に存在するが、基本的な色として12色があり、俗称としての茶色、はだ色、ベージュ等はすべて12の基本の色のどれかに何色かが混ざったものである事を、次に説明する彩度、明度のことも考え合わせて知らせる。さらに煮つめて色の

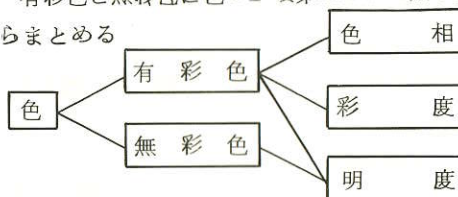
基本としての3つの色(色料の三原色)があれば、12の基本の色も生まれることを説明する。12色環より補色について軽くふれる。

b 彩度——一般に「赤」と呼ばれる色のついているものを、生徒の筆入れや色紙、花、教室内の展示物から見せ、同じ赤にもいろいろあることに気づかせる。

あざやかなものもあればそうでないものもあることから、同一色相の中で彩度のちがいを知る。同時に赤の色研ワークを見せ、一番あざやかなものが「純色」と呼ばれていることを説明する。

c 明度——純色に白や黒を混ぜることにより、明るくなったり、暗くなったりすることから、色には明るさの違いがあることを知る。(清色、濁色にもふれておく。)

③ 有彩色と無彩色と色の三要素の関係を話し合いながらまとめる



④ 色の混合について知る

- a, 減算混合(色料の混合—色料の三原色)
- b, 加算混合(色光の混合—色光の三原色)
- b, 中間混合(アミ目写真)

⑤ 色の感情について考える。

- a (暖い感じの色—暖色(燃える色から連想)
 - 寒い感じの色—寒色(水を連想)
- b (重い感じの色—低明度
 - 軽い感じの色—高明度
- c (派手な感じの色—高彩度
 - 地味な感じの色—低彩度

⑥ 色の明示について—交通標識、看板等身近なものをおして話し合い、色の明示について理解させる。

ハ、指導を終えて

- ① あまりむずかしい理論はさけて、色に対する関心を高め、基礎的な色の系統をまとめる程度とした。
- ② 色の三要素の中で、彩度についての理解がむずかしく思われた。例えば「赤」と「黄」とでは「黄」の方が彩度が高いと感じている者もかなりいた。
- ③ 理解学習にのみ走りすぎたきらいもあった。作業を

進めながら学習のできるものはその様にした方がより深く理解できたと思う。



〔2〕 配色練習

色彩をあつかう造形学習において、無意識に色を使用するよりは、意図的に計算された配色がなされた方が、より効果的な配色ができる。色彩の理解学習から実際に自分で色を選んで配色する基礎練習を積み重ねることによって感覚をみがき、それが後の学習に生かされればと願う。

① 色紙(26色)を使用して配色練習をする。

a, 男子と女子の2グループに分かれ、暖色、寒色の配色を行ない、それぞれの感情を受けとめる。20cm平方の枠の中に直線で5つの面積に分割し(一応統一のとれた美しい分割を指導したが、配色練習に重きをおくので形にはあまり時間をとらなかった)、その分割された面積の大小を考え、明度・彩度も考えて美しい配色になるよう心がけさせた。

② ①と同様に、補色、同系色についての配色練習を行ない、それぞれの配色の違いと、それからの感じを受けとめさせる。

③ 同様に「目だつ」「目だたない」という色の性格で配色練習をする。

以上、「飾り皿」制作に入る前の学習内容について概略を述べたが、色彩については、色彩の指導系統に記したとおり、小学校において基本的なことは学習しているので、それらをもとにして配色の練習をさせた。しかし、この段階ではただ単に感じだけの配色練習におわらせないで、更に理論的、体系的なうらづけをすることにより、一そう確実なものにし、自分の意図したことをより効果的に表現できるようにしたい。

色や形などを区別したり、音の強弱・高低などを聴き分けるといった生理的な感覚は比較的早い時期に発達を終えてしまいが、いろいろな要素間に生まれる美の秩序に対する感受性や直観力、いわゆる芸術的センスみたいなものは、中学生頃から急速に発達するので、時期を失わないで訓練していく必要があると思う。そういう観点にたつと共に、美的感覚の

育成が中学校テーマの基礎的能力の一分野としておさえの三要素の理解」「配色練習」「飾り皿の制作」の一連の学習をすすめてきたわけである。

色や形のよさをいくら言葉で説明しても、なかなかわかってもらえない。やはりよいものにじかに接することによって感覚として身につけたものでなければ本物でない。このように、よい感覚というものは、何も学習の時にのみ養われるのではなく、よい物に接する機会をできるだけ多くもつことによって養われる。友達のすぐれた作品を教室や廊下に展示することでもよいし、教室の掲示物を全体の調和を考慮することでもよい。色彩の氾濫している所に住んでいる子供より、そうでない所に住んでいる子供よりも、とぎすまされた、かぬけした色の使い方をすると同様に、教室及び学校環境整備の大切さがわかるのである。

これら一連の学習を通じて身についた基礎能力(主として色彩感覚)が、2学期の「マーク」「標識」は勿論、2学期の「ポスター」(実践例を次頁に掲載)等の学習に生かされるわけだが、現に「校内規律に関するポスター」では、それらの能力が十分生かされたかと判断される作品が相当数出たことを考えてみると、この学習をすすめてきた初期の成果は、ほぼ達成されたわけである。

しかしながら、勿論これで十分というのではなく、さらにもう今後実践研究を積み重ねていきたい。

題材 校内規律に関するポスター <中学校> 題材について

人間生活の中には、いろいろな伝達形式があるが、視覚とおして人々に知らせる媒体には、マーク・標識・ポスターなどがある。現代はコミュニケーションが発達して、色や形のマークによる視覚伝達の占める比重はますます大きくなってきた。このような能力を高めることは、現代の社会では大変必要なことである。

ここでは生徒の生活環境に密着した校内生活の反省をきっかけとして「校内規律に関するポスター」を制作させることにより、知らせるデザインとしてどのようにくふうしたのか

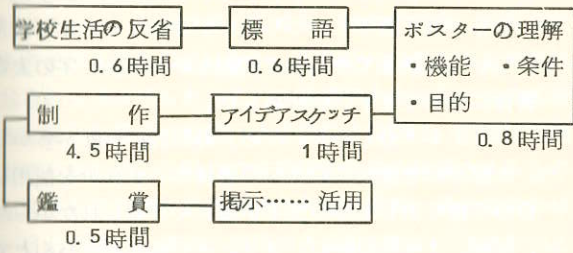


いか、また色や形の構成をどのようにしたら知らせるデザインとして効果的なものができるか。生徒が創造的にデザインする態度や能力を身につけさせたいと願うと共に、お互いにかまりを遵守するという心掛けもあわせて養われてくれればと期待してこの題材をとりあげた。また出来上がった作品を実際に校内に掲示して活用させることにより、ポスターのたす役割についての理解を深めさせたい。

題材のめあて

- ・色や形の構成をくふうし、目的にかなったポスターを表現する力を養う。
- ・ポスターの機能や、その必要条件を理解させる。

指導計画



展開

学習活動	時間	指導の留意点
・最近の学校生活について反省してみる 一生活規律の面で	0.6時間	・最近の学校生活をふりかえらせて最もきまりが守られていないところはどこか、自分も含めて学校全体について考えさせる。
・標語をつくる	0.6時間	・できるだけきつい禁止調のものはさせさせる。 ・自分の意図したことが十分もりこまれた標語となるよう心がけさせる。
・ポスターについて話し合う	0.8時間	・身のまわりにあるポスターを想起させながら、ポスターの機能について話し合わせる。
・ポスターの条件について考えを発表する。		・条件をまとめる。 1. よく目だつ ○人目につくもの……形や

・制作 イ、アイデアスケッチ	1時間	<ul style="list-style-type: none"> 色のくふう ○訴える力の強いもの ○強い印象を与えるもの
ロ、アイデアスケッチをもとにして画面構成をする。		<ul style="list-style-type: none"> 2. よくわかる ○一目で内容や目的がわかる。
スケッチブック ↓ 画用紙		<ul style="list-style-type: none"> 3. その他 ○美しく上品 ○独創的
ハ、着色	2.5時間	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなポスターにするか構想を練り、スケッチブックに何枚も描かせる。 ・何枚もアイデアスケッチの中から「条件」に最も合致しているのを選び、それをもとに本格的に画面構成をさせる。 ・自分の主張したい点を強調させる。 ・内容を適切に代弁する図柄となるよう心がけさせる。 ○伝達したい内容に適切な図柄 ○全体の位置は美しくわかりよいこと ○人目につくような形 ・配色計画をたてさせる。 ○目だつ配色 ○美しい配色 ○ふん囲気をかもし出す配色
・作品の鑑賞	0.5時間	<ul style="list-style-type: none"> ・できた作品を互いに鑑賞させる ○苦心した点 ○努力した点 ・最も効果的な展示場所を考えさせる



- ・基礎能力として創造性を高めるために、アイデアスケッチの段階でアイデアをできるだけ何枚もかかせた。この段階で生徒が自分の考えをのびのびと楽な気持で描くということが創造性を高めるのに大きな効果があると思う。はじめから一つだけ良いものを造ろうと思うと自信をなくしたり模倣に陥りやすい。

次にここでかかれた何枚ものアイデアスケッチの中からポスターの条件に最もかなっているものとか、独創的なもの、実現の可能性のあるものといった見方で一枚のアイデアスケッチを抜き出させ、それにもう一度検討を加えさせて、一つの画面に構成させた。

またつりあいのとれた形や配色をくふうすることによりそこにうまれる美しさをここで感覚として受けとめさせておくことは、おそらく今後の制作の際に生かされることであらう。

- ・アイデアスケッチをする前に、先輩の比較的良好な作品を提示したがこれはまずかったように思う。いわゆる芸術的センスとしての感覚を育成するのであれば、この作品も悪いものではないが、この段階では創造意欲をもりあげなければならぬ時にもかかわらず、それを提示したということは、逆に創造性を阻害するようなことになったように思わ

れ、反省している。

- ・生徒がおかすと予想される失敗を、生活作品を何枚も準備しておきそれを見せながらあらかじめ、説明しておいたことはよかった。
- ・折角すばらしいアイデアをもちながら表現がともなわなかったり、表現に必要な用具等の不足といった条件に災いされて、そのアイデアを作品に十分に生かせない生徒を々見受ける。それを少しでも補うために、面想筆、平筆、平刷毛、絵の具とき、直定規(45cm)を準備し、デザン授業の際、フルに使用させたことは、いろいろと効果であった。
- ・文字をかく際、明朝体、角ゴシック体のひらがなについてのみOHPを使用させたが、いろいろと問題点が多かった。ひらがなと漢字とのつりあいがとれない。字の大きさについては調節できるので問題なかったが、字の太さ書体についてまずいがあった。
- ・OHPが1台しかないため、時間的に無駄が多かった。
- ・ハ、大部分の生徒がこの2つの書体のいずれかを使用し、自分で造り出した形の文字がほとんど見られなかった。
- ・ニ、反面、1年生の時のレタリングで基本がきちんとしていた生徒は、OHPを使用することによって、均整とれた美しい文字が速くかけた。

中学校版画領域

提言者 築山尚明（北都中）

1. 領域のおさえ

版画の領域は絵画的な要素を大部分しめながらも版画としての独自の要素がある。単純化、表現材料がちがうこと。画面の構成をしっかり決めてかかることなどは充分におさえおかなければならない。また、そのための材料・技法用具などについての知識や理解が充分であることなども是非おさえなければならない。これらは自分なりの発想を具現化する制作の過程で一つ一つとりだして指導することによって能力化する必要があるものと考えている。

旭川での中学校版画領域の指導の系統のおさえは別表の通りであるが、これはあくまでも、めやすであって各学校ともあてはまるものではない。それぞれの学校で工夫された独自の指導体系もあっていいはずである。ただこの系統表を作成した時点での願いは中学校3年間に、小学校で積み上げられたこの分野での造形能力を深め発展させるものとしてとらえ、個々の造形的なもの見方、考え方をのぼし、自分の願いを適切に表現できる能力をつけさせたいと考えたのである。そのために学年別にいろいろな版形式を経験させることによって、個々の発想が豊かな広がりを持って表現できることを願い、1年生では木版の単色版画、2年生では木版の多色版画、3年生では凹版という系統をおさえ、その内容は絵画の要素と密接なつながりをもったものとしてとらえている。

以上の観点から学年別の版画領域のおさをぬきだしてみると、

第1学年の木版画は、技法的に陰刻、陽刻を適切に使い分けて表現することによって絵画的な表現から画面を整理する。単純化して構成するなどの版画にするための操作を通して版画としての独自な要素を理解させるのである。

第2学年の陰刻による多色版画は、本格的な多色版画に移行する前の段階とおさえるならば、これは絵画的な表現と表裏一体をなすものとしてきわめて有効な題材と考えている。すなわち、絵画における線の持つ意味と版画における線的なとらえとが、制作の過程で必然的な要素としてとらえ理解させることが可能と考えている。そして木版画による三版の多色版画に展開させるのである。

第3学年の凹版はこれまでの版形式が凸版であるために技

法的にまた表現形式に限りがあったのであるが、ここでは凹版の比較的簡単なドライポイントの技法を深め、版画による表現の幅を広げさせたいと願っている。以上簡単に旭川での版画領域のおさを述べたが、これはあくまでも絵画の中での版画の分野とした見かたであるが、美術科の各領域はそれぞれ独立したものではなく互いに有機的なつながりをもつものであることから、この領域で学びとった造形能力がデザインなどの他の領域に発展していったり、絵画の領域にもどっていったりするなどの転移度の高い造形能力を身につけさせることが指導の重要なものとなろう。



中学校版画指導の系統表

	中 1 年	中 2 年	中 3 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・白・黒の面積の配置 ・線の効果的表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫り方・刷り方の効果的表現 ・線・面の効果的表現 ・重色の効果 ・配色の効果 ・主版法 ・色版法 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げを予想し、計画性をもって版画をつくる。 ・線の効果的表現 ・画面構成 ・技法・効果の理解
材 料 ・ 技 法	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">版木他 ～木版画</div> <ul style="list-style-type: none"> ・セルロイド版～ドライポイント ・加工紙～板紙おう版 ・うす紙他～ステンシル ・彫刻刀の効果的な使用法 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">版木他 ～木版画</div> <ul style="list-style-type: none"> ・多色刷り ・版木～木版画 ・線や面の表現法 ・刷りの効果 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">セルロイド版 ～ドライポイント</div> <ul style="list-style-type: none"> ・セルロイド版他～ドライポイント ・版木～木版画（共同） ・石版～リトグラフ ・計画性
指 導 の 要 素	<ul style="list-style-type: none"> ・白、黒のバランス ・ムーブマン ・単純化 	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的表現 ・変化と統一 ・立体感 ・単純化 	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的表現 ・変化と統一 ・単純化 ・変形



題材 表示練習 <中2>

題材について 中学生の年齢の特長として客観的に対象をとらえようとする傾向が多くあらわれ、観察力が表現能力を越して自分の作品にも考えを表現することのバランスを失なう。
そこで、客観的に物を見る力があるのであるから、身近かなものを対象として表現する手だてを的確に与え、考えることによって更に良い物の見方、表現へと高まりたい。

- 指導のめあて
1. 客観的なものの見方や、観察の活動をのばす。
 2. 身近かなものに対する関心をもたせる。
 3. 物の形を正確にかき表わすことは構造や性質、物と物との関係を理解したり、深めたりするのに大切である。

指導計画 1. 表示練習 2時間

身近かなもの

単純形としてとらえる

くわしくとらえる

- 反省
1. 表現材料を限定した方が効果的のようだ。
 2. 目の高さや見る方向によって変形されるもののとらえ方に工夫がほしい。
 3. できた作品が写生による表現の素描と区別しにくいことがある。
 4. 立体感と共に材質感もねらったが、なかなか大変である。
 5. 大きく描く形と、そのものが狂って来るようである。

題材 風景<公園にて> <中2>

題材について 公園の風景を対象にして絵をかく。初夏の美しさを見だし、あらたな感動がもてるように、良く観察する習慣や能力を身につける。見えるものがあるがままに表現するのではなく、対象からうけた感動を率直に表現する。

- 指導のめあて
1. 客観的な表現に興味をもち始める生徒達に細密に観察させ、自然を深く味わう態

度を養う。

2. 構図のとり方、表わし方を工夫させて風景写生の表現力を養う。

指導計画 風景写生 5時間

構図・下絵 1時間

着色 3.5時間

整理 0.5時間

- 反省
1. 構図のおさえがまずい。主題をはっきりさせることが必要。
 2. 限られた場所での写生なので、題材の様性に欠けるが、彩色を豊富に出せることによって効果も出た。

題材 黒い紙との対話

題材について 今までに数多くの版画を作り、作品を観れぞれの特性等も幾分か理解されてきた。色刷り版画は技術的にも高度であるが、中には興味深いものである。身近なものから今までとは違った版による表現でその魅力を幾分か満足させながら長時間の造形過程を意欲的に取り組ませ、版画の興味を一層高めたいと思う。線彫りと言う最も基礎的な線と輪かく線による色の配置、スケッチを構想を練る等の基礎的能力を着実に身に付けさせ、意図が的確に表現出来るようになることによって生徒の造形能力は高められていくと考えている。

- 題材のめあて
- ・版画の表現形式と技法や効果を理解し、その興味を深めさせる。
 - ・技術的に抵抗の少ない簡易多色版画を製作させ、生徒の興味を誘発させ、意欲を高め、計画的に仕事をする態度を養う。
 - ・描画と異った美しさを発見させ、表現力あふくして創造的でいきいきした作品をつくる。

指導計画 描画 (表示練習・静物・風景物)

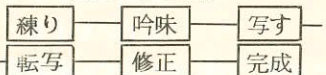
↓
下絵づくり (2時間)



版画
* 黒い紙との対話 *

8時間

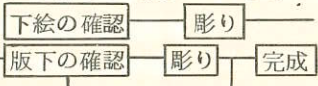
- ・ 版画の特性・技法説明
- ・ スケッチを基に構想を練り下絵を版木に描く。
- ・ 特に仕上がりは黒い紙にての刷りであるので、配色の効果、黒い線の残し方、出し方などをも予測して考え仕事を進ませる。
- ・ より早く、より確実に作業を進めさせる。



◎下絵が出来上がる

適確な彫り (2時間)

- ・ 下絵のイメージを大切にし効果的に線彫りをする。
- ・ 彫った線によって、初めて版画のもつ単純された線、絵となるので注意したい。
- ・ 特に彫った部分が黒く残るのであるから、その効果を十分に考えておく。
- ・ 彫らなくても刷らなければ黒として残ることも考える。



◎版木が出来上がる

効果的な刷り (3.6時間)

- ・ 版木に絵具を塗りわけて着色し多色刷りをする。
- ・ 水の分量、えのぐの分量の適量の使い方に特に注意をはらわせる。
- ・ 刷っている段階で、刷らない方がいいと思われるような時(黒の効果の良いような時)など、考えに入れておく。
- ・ 彫ったら良いと思われるよ

うな所、つけたした方がよい絵となると思われるような時には思いきって修正をさせる。



◎版画が出来上がる

作品鑑賞 (0.4時間)

- ・ お互いの作品を鑑賞する。
- ・ 工夫したところなど発表しねらいが生かされたかを話し合い、美意識を高める。

デザイン (ポスター・案内状・年賀状カレンダー)

- 反省
- 版画学習におけるテーマの設定は、分野としては絵画の中で位置づけられているが、絵画のそれと同質にとらえていいのか。
 - 技術的な指導をも多分に要求されるのであるが、各学年毎の指導の組み立てをどのようにおさえたらよいか。
 - 刷りにかかる時間をどうにか縮める事が出来たらいいのだが。
 - 黒い紙との関係が刷りに入るまでなかなか理解出来ないようである。
 - 版画的な絵の指導はどのようなものが好ましいのか。
 - ためし刷りと本刷りをやる事は大変な作業であるが、この場合も必要だろうか。

題材 木の版との対話

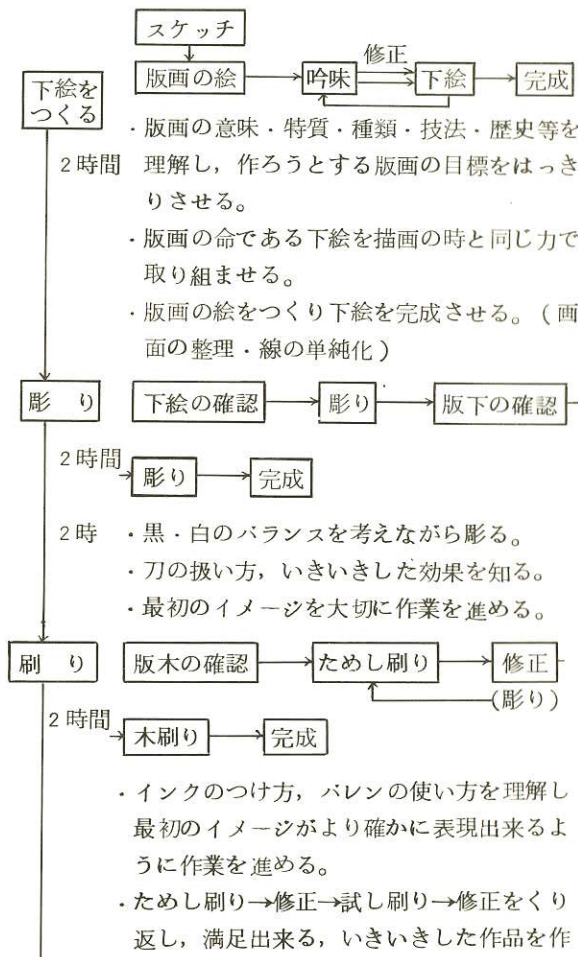
題材について 小学校時代にした版画や、作品鑑賞を通して、ある程度よさや特色を知っていて、版画に対する興味も幾分か高い様に感じられる。既習の描画(版画も含め)の中で自分の工夫や発見を整理させ、作ろうとする版画の目標をはっきりさせて、素朴な白と黒とにより、すなおに表現させる事は、彼等の表現をよりゆたかな、たしかなものにするものであると考える。従って今後の基礎要素となるべき事



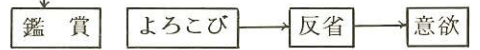
項を理解させ、造形能力の深化、発展の基になると考えている。

- 題材のめあて
1. 版画の意味、性質、種類、技法、歴史を知識として一応理解させる。
 2. 身近かなもの（生活・風景・人物・静物）の観察から、版画の絵としてまとめ、工夫させ創造的できいきした作品をつくらせる。
 3. 作ろうとする版画の目標をはっきり持って、最後までやりとげる態度を身につけさせる。
 4. 版画の学習が、教室のみに終る事なく、生活に生かされ取り入れられる態度を養う。

指導計画 6時間



らせる。



反省

省

- ・完成のよろこびを味わわせる。
- ・自分のあらわしたい事が版画に表現出来たかを話し合う。
- ・作業を通し、他と比べ、自分の作品を観て新しい工夫、発見を知り、次の意欲をおこさせる。
- ・応用美術として、生活へ発展するような話し合いをする。

1. すでに経験された題材を興味深く、いきいきと作業を進める為の導入をどのようにすべきか。
2. 刷り上がりの瞬間の子供のいきいきとした動きと、他と比べてからの動きをどのようにに話したらよいか。
3. 刀の効果の指導は、どの場面でどのようにすべきか。
4. 下絵の段階での版画的な絵の指導をいかにすべきか。

題材

板紙との対話

(板紙による凹版凸版)

題材について

1, 2年では単色による木版画と陰刻による多色版画を経験してきたが、3年生では自分の表現しようとするものが、どんな版形式に適合するかを判断して、それぞれが版形式を決めて自分の願っている表現を適切に表わす能力をつけさせるのである。

ここでは表現材料として板紙を使用させるがそれは材質として凸板、凹板いずれにも転用できることから選ばれたものである。

板紙であるという点で、軽便な準備と容易な作業とによって1時間毎の進展、仕上がりの美しさ等から、創作の喜びと関心を高める事が出来るものと考えている。

題材のねらい

- ・版画の表現形式・技法・特質・効果を理解し創作能力を養う。
- ・生徒自身の発想を重視し、個性を生かした表現をさせ、版表現活動の幅を広げさせ、

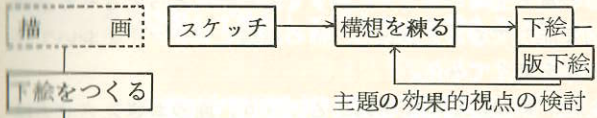


活用能力を高める。

- ・版表現への興味を高め、版画に楽しみ、美術作品への親しみの心を深めさせる。

指導計画 6時間

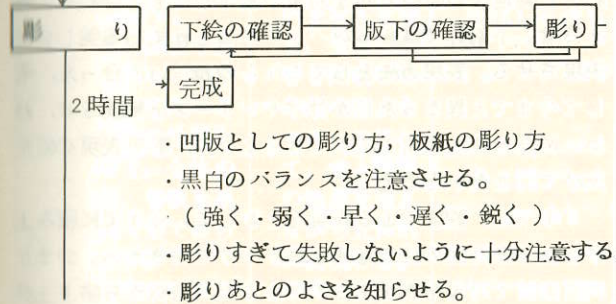
- ・仕上がりへの予測
- ・略図



2時間

生命 → 完成

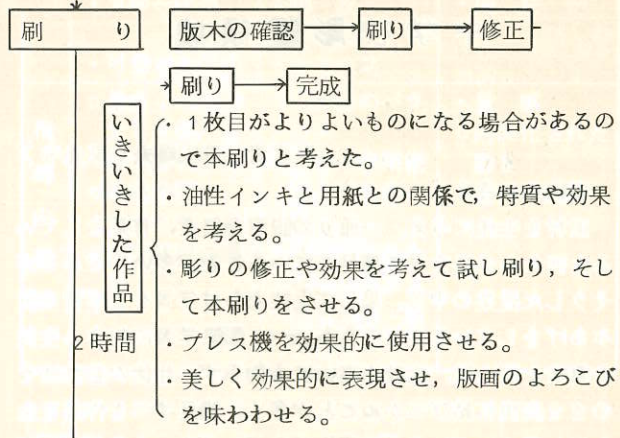
- ・主題意識を持ったモチーフを選び、緊密な画面構成をする。
- ・略図で構図を色々組んでみる。
- ・これからの作業の予測と決定を自分なりにはっきりさせ、長時間の造形過程を有効に活動させる心構えをさせる。
- ・明暗のバランスを計画的に考えさせる。



2時間

完成

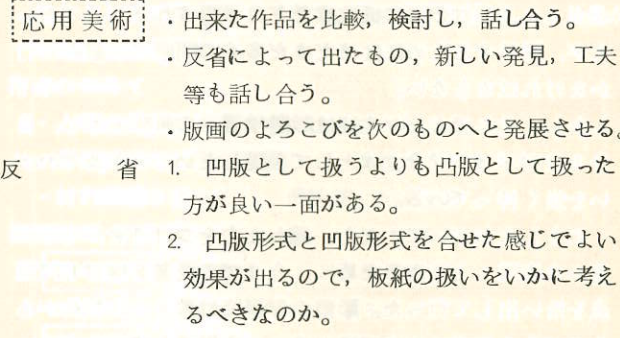
- ・凹版としての彫り方、板紙の彫り方
- ・黒白のバランスを注意させる。
- ・(強く・弱く・早く・遅く・鋭く)
- ・彫りすぎて失敗しないように十分注意する。
- ・彫りあとのよさを知らせる。



2時間

いきいきした作品

- ・1枚目がよりよいものになる場合があるので本刷りと考えた。
- ・油性インキと用紙との関係で、特質や効果を考える。
- ・彫りの修正や効果を考えて試し刷り、そして本刷りをさせる。
- ・プレス機を効果的に使用させる。
- ・美しく効果的に表現させ、版画のよろこびを味わわせる。



反省

発見 反省 工夫

応用美術

- ・出来た作品を比較、検討し、話し合う。
- ・反省によって出たもの、新しい発見、工夫等も話し合う。
- ・版画のよろこびを次のものへと発展させる。

1. 凹版として扱うよりも凸版として扱った方が良い一面がある。

2. 凸版形式と凹版形式を合せた感じでよい効果が出るので、板紙の扱いをいかに考えるべきなのか。

中学校彫塑領域

中影



98

提言者 及川輝夫(東光中)

○ 領域のおさえ

素材を生徒に与え、一通りの説明を終え、作業をしている生徒たちの姿を見て満足していることが多いのであるがそうした授業の中で、果して生徒たちは学習をし学習の積みあげをしているのだろうか。——彫塑学習に対する生徒の興味と関心は、比較的高いにも拘らず、生徒の意欲はそのまま表現に結びつかぬことが多く、満足すべき作品を生み出し得ないのが現状である。(もっとも、教師により、生徒により、その満足すべき到達点というものには差があるだろう)教師の説明は、頭の中でのみの理解に終わり、仕事を進めるうえにはあまり役立たぬものであることも、現状分析のための生徒へのアンケートの結果からもわかった。素材のもつ抵抗感などは予想されたことであったが、解消するためにはまだまだ多くの問題に取り組んで行かなければならない。

しかし、それでもなお生徒は彫塑学習への興味を示し、自分なりのイメージを立体として表現したいという夢やねがいを強く持っている。

こうしたねがいにこたえ、確かな力をつけさせ、さらに豊かな表現へと高めるために、今までの授業を検討し問題点を拾い出して行った。彫塑の学習には数多くの制約があるのである。が、ここではどのような指導をするのかという点を考えて行くこととし、授業のねらいを明確にし、何を、どのように、どのような手順で与えるかを次のような指導の系統表(99頁)におさえて題材配当表を考えた。ここでは、彫塑の表現要素はいくつかあるが、その中の量感に中心をおき、量感をいかにつかませるかということ表現の中に展開していったわけであるが、過去の授業の実態をとらえてみても、生徒の立体把握には、楽観することができぬのが本当のところである。デッサンはたくみであるが、作品に直接生かされることがないし、量感・バランス・ムーブマンと繰り返し繰り返し言っても生き生きする気配もない。そうした悪循環を食い止め、生き生きした制作をさせるには、もっと具体的な指示がなされなければならないし、素材の与え方や用具の扱い方にも教師の細かな

配慮がなければならないのである。表現要素についてのおさえにも同様なことが言えるのではないだろうか。彫塑は立体であり、彫塑の学習とは立体を表現することである。平面から立体へと移ったときに既に“面”が存在するのであり、この面をおさえさせなくては彫塑学習は成り立たない。彫塑領域では、基本的な面を的確に把握させることが物の量や空間の深さや広がりを感じさせる基礎的な能力であると仮し、面の指導にポイントをおいて三カ年を考えてみた。

ただ、系統表を見てもわかるとおり、面のおさえさせ方はあくまでも基本的にということであって、面の指導だけをやっていけばよいというものではない。

1年では、対称を基本的な大きな面としてとらえさせたい。それらの面がつくり出す量の把握や量と量のバランスを考えさせて行く。彫る・削るの両方(可塑材・彫刻材)を扱うことにより、彫塑の表現材料の経験を豊かにさせ、表現の豊かさへと発展させることを考えた。

2年では、対象の全体の動きから、立体のつりあいや、動きと関連する面の方向を対象の基本的な形と合わせて考えさせ、対称ではあるがバランスのとれている美しさを表現させる。表現方法としてこれらのねらいに合った、そして今までと異なったじか付けやレリーフを経験させ、ねらいに合わせた表現方法ができるように、彫塑表現の幅を広げて行きたいと考える。

3年では、観察による表現をとおして、今までに積み上げられて来た面の持つ意味を掘り下げて行きたい。つまり同質素材で対象を表現するのであるが、内側から盛り上がった面とか、内側におさえられた面、硬い面と柔らかい面など、面の強弱や軽重といったものを考えさせながら表現させて行きたい。

一貫した面の指導を根底として生徒の観察による表現を重視して行ったわけであるがこれは構想表現そのものを無視したわけではなくて、生徒は観察を通して認識を深め、考え方を身につけて行くのであり、こうして身につけた基礎的な表現力を構想の分野へも発展させようと考えたからである。従って、題材の取り上げも、比較的観察表現が容易である生徒の身近な友だちの中に求めることになったのである。このことは、個から周囲への人々への興味や生活経験の拡がる発達段階にある中学生に適当と考えた。

領域研究の基本的な姿勢は、授業実践の積み上げという



てとであり、授業や作品を通して問題点を探り出し、解決する方向を一仮説として実証授業を試み、分析し、検討を加えることにより、さらに確かなものへと迫ろうということであった。時間不足や設備不足を問うことの前に、どんな題材を、どんな素材を用いて、どのような順序で指導するかを考えることであった。柱とする面の指導は、果してこれでよいのか、題材の取り上げはこれでよいのか、さらに次の授業を通して検討して行きたいと考える。

中学校彫塑指導の系統表

	中 1 年	中 2 年	中 3 年
ね ら ん	<ul style="list-style-type: none"> 人物や動物の特徴を大きなかたまりでとらえる。 喜怒哀楽の表情を強調してかたまりであらわす。 材料経験を豊かにし、興味関心を高める。 素材の性質を考え、全体の形、特徴を単純な形であらわす。 作業の手順と用具の理解。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物や動物の全体の動きをつかむ。 組立ての順序を考えて骨組みをする。 各部のつり合いを考えながら、全体の動きを表現する。 身近な友人をモチーフにして、光と陰影の効果を考えながら立体的に表現する。 用具の使用に慣れる。 石こうのとかし方、石こう取り（焼成）を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 感情のあらわれている顔をよく観察し、かたまりでとらえる。 全体の調和に注意しながら仕上げる。
材 料 ・ 技 法	<ul style="list-style-type: none"> 粘土 <ul style="list-style-type: none"> 紙 乾燥 着色 焼成 木材、軟石、石こう 素材の特質を理解し、表現に適する扱い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 針金（心棒） 構築材 石こう 粘土 <ul style="list-style-type: none"> 石こう 焼成 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土 <ul style="list-style-type: none"> 焼成 石こう

	<ul style="list-style-type: none"> 丸彫 彫造 可塑性を削る 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 じか付け レリーフ 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左
指 導 の 要 素	<ul style="list-style-type: none"> 量感（バランス） 大きな面、全体部分の比例 単純な形 大きな面・量 用具使用の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 不对称のバランス 動き・空間把握、つり合い量 多様な組み合わせのバランス 光と陰影・制作方法 	<ul style="list-style-type: none"> 量 感 内面化された動き 全体の調和

実践例 1 1 年 指 導 案

題材 わらうおめん おこるおめん

題材について

生徒は粘土に対して興味を示し、粘土をこねて熱心に何かを作っているが本当に満足できる立体へと形づくる手がかかりとして立体が面でできていることを知らせ、より豊かな表現へと導きたい。

指導のめあて

- 人物の特徴を大きなかたまりでとらえる。
- 喜怒哀楽の表現を強調して、かたまりであらわす。
- 材料経験を豊かにし、興味関心を高める。

指導計画（9時間）

顔の基本形づくり	3. 素材理解 デッサン
↓	
顔の表情づくり	2. 喜怒哀楽の強調
↓	
紙での型取り	2. はりこ作り
↓	
着色、まとめ	2. ニス仕上げ

準 備

粘土、粘土ペラ、和紙、のり、ニス、ビニール、布、スケッチブック、水絵具

展開

時間	学習活動	留意点
1 (導入)	○題材と素材についての話し合い ○デッサンをする	○粘土の性質について理解させる。 ○デッサンは顔のさまざまな方向から描かせる。
2・3 (展開)	○顔の基本形をつくる ・粘土、板の配分 直方体→基本形 (大きな面で彫る)	各部を大きな面であらえさせる
4・5	○喜怒哀楽の表現についての話し合い ・各部の変化を観察 わらうかお、おこるかお (表情の強調)	○平面的にならぬように側面スケッチや観察をさせながら作業を進めさせる。 ○各自に表情をとらせて、スケッチさせる ○表情が強調されるための
6・7	○はりこをつくる わらうおめん・おこるかおめん ・和紙の裁断 ・のりづけ ・ふちどり	強弱(凸凹) について理解させる。 ○場所に応じた紙の裁断をさせる。 ○ふちどりは、はさみで切り、ふちどりさせる。
8・9	○着色とニスぬり ○各自の反省と相互鑑賞	○表情が充分表現されるよう工夫して着色させる。 ○作品は表情がよく表現されたか。

反省

・彫塑学習の導入としての作業であるが、始めに基本的な顔のつくりをつかませて行き、その後生徒の気持ちを大切にしたい作業へと発展させて行ったが、生徒は喜々として作業にあたり、作品から完成の喜びを味わった。満足感の大きな題材であった。

実践例2 1年指導案

題材 **友だちの頭像を作る**
題材について

・中学生の段階で、彫る学習は大きな面をつかむ指導をするのに効果的で、発泡セメントは適度な抵抗感もあるので制作意欲を高めるものと考えられる。
また、この時期は、写実的な表現に対する関心を示すが、表現力につながらない。身近な友だちの顔の観察を通して客観的なとらえ方を身につけて、より高い造形表現へと発展させたい。

指導のめあて

・対象についての観察力を深め、立体としての表現を高めるために、対称を大きな面であらえさせる。

指導計画(9時間)

題材のおさえ、デッサン	2	
↓		
木取り・荒彫り	5	側面と前面の彫り
↓		
小づくり・まとめ	2	

準備

スケッチブック、鉛筆、新聞紙、ビニール、雑布、作業服、軍手、手ぬぐい、糸のこ、のこ、小刀、のみ、彫刻刀、発泡セメント

展開

時間	学習活動	留意点
(導入)	・素材についての話し合い。	・材質についての理解を深めさせる。
(展開)	・作品の完成度について理解を深める。	・鑑賞作品を用意する
1・2	・デッサンをする。	・側面、耳の位置に注意させる。
3・4	・木取りをし、荒彫りをする。 見る→さわる→木取り→彫る	・頭の幅に合わせて側面を彫らせる。 ・余分を残さずに切り取らせる。 ・おでこ、あご、鼻の3点をおさえさせる
5・6・7	・前面を彫る	・随時木取り(必要な線を記入)させながら作業を進めさせる





準備

スケッチブック、粘土、粘土ペラ、ビニール、布、石こう、石こうペラ、容器

展開

時間	学習活動	留意点
1 (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ・題材及び素材についての話し合い。 ・浮き彫りの技法について知る。 ・粘土の配分 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土及び作品の保存について理解させる ・粘土の板をつくらせる。 ・粘土の板の上に描かせる。
2 (展開)	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンをする。 ・構図の研究 	
3・4	<p>荒けづり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の背景をけづり落とす。 ・人物の前後関係を考えてけづりとる。 ・体の前後の関係を考えてけづりとる。 ・光と陰影の効果を考えながら仕事を進める。 	
5 6・7	<ul style="list-style-type: none"> ・小づくり ・石こう取り 石こうの性質と技法を理解する。 め型を作る 流し込みをする 割り出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・面をとらえて大きな表現をさせる。 ・全体的な作業の進め方をさせる。 ・高さの違う平面と平面の角度に注意させる。 ・光と陰影による効果を考えさせる。 ・全体のバランスを考えて仕上げさせる。 ・厚さを一定に・まわりを強くする。 ・石けん水のぬり方 ・あわだたないようにする ・わり出し用具の使用について ・立体的な表現に工夫がなされたか。
(まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の反省をする。 相互鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮き彫りの美しさはどこにあるか。

反省

・絵画表現に近く、予想外に抵抗なく仕事が進められていく。

触覚(さわる)で

の観察も充分活用させる。

- ・顔の部分を彫る
- ・頭部から首へと彫る
- ・小づくり
- ・相互鑑賞と反省

- ・ひたい、後頭部の彫り→耳のうしろ、顔の側面全体、首、あごの順に彫らせる。
- ・作業に応じた用具を使わせる。
- ・全体のバランスを考えて仕上げさせる。
- ・完成した作品が後頭部のかたまりを表現しているか。

反省
 ・素材そのものに大きさの制約があり、表現活動に制約がある。
 ・作業に応じた用具の使用をさせることにより、能率的に仕事を進めさせることができた。

実践例3 2年指導案

題材 **学校での友人** (レリーフ)

題材について
 ・丸彫りでは表現することのできない構成や壁面効果を、身近な友人をモチーフにして、絵画的表現の中から立体が自然に表現できるようにさせ、立体把握に結びつけたい。

指導のめあて
 ・光と陰影の効果を考えながら立体的に表現させる。
 ・郷土の粘土を使い、その特徴や、用具の使い方、表現方法を理解させる。

指導計画(7時間)

オリエンテーション	1. 題材のおさえ粘土の配分
↓	
構想をねる	2. デッサン、構図の研究
↓	
荒けづり	2. 面のおさえ
↓	
小づくり	1. まとめ
↓	
め型づくり, 流し込み	2. (焼成)



・削って面の前後関係や方向をつかませることは有効な方法と思う。

実践例4 3年指導案

題材 **感情のあらわれた顔**

題材について

友人の顔をモチーフに、顔の表情や特徴をとらえて、生き生きと表現させたい。頭部の制作は、心棒づくり、保存上また時間的にも制約を受けるのでここでは準備に比較的容易な半面像として表現させ、できあがった作品を壁に飾ることなどを考えてテラコッタとして残し、あわせて表現技法を理解させる。半面像ではあるが、奥行きや立体感を失なわせないように、基本的な頭部の面のおさえをし、面の強弱、軽重もおさえて行きたい。

題材のめあて

- ・対象をよく観察し、表情をとらえてかたまりであらわす。
- ・頭部と首のつりあい、全体の調和を考えて仕上げる。

指導計画(7時間)

表情の研究

1. オリエンテーションスケッチ, 構図研究

荒づけ

1. 顔の基本形づくり

肉づけ

1. 筋肉をとらえる

動きをつける

1. 頭部と首の移動, 表情に合った向き

小づくり

2. 表情や動きとの関連

仕上げ

1. テラコッタの作品へ

(焼成は課外に行なう)

準備

スケッチブック, 粘土, 粘土板, 湿布, ビニール風呂敷, 粘土ペラ, カキペラ, 新聞紙, 針金, 参考作品

展開

時間	学習活動	留意点
	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部と首の組合せによる表情や感情の表現効果を考える。 ・友人の顔のデッサン ・表情の決定, 各自でテーマ決定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を見せ, 顔の持つ意味を考えさせる。 ・頭と首の組合せによる表情や感情の強調を工夫させる。

荒づけ

頭と首を大まかにつくる。

肉づけ

顔や首の筋肉をかたまりでつける。

動きをつける

うつむく顔, 見上げる顔, 横むき,

小づくり

表情を強調する筋肉の動き
面の強弱, 軽重, 疎密を考える。

仕上げ

裏側から一定の厚さに粘土を削る。

・表情のあらわれた作品を鑑賞する。

・中に空気が密閉されないようにつける。
・大まかな面の指導をする。

・顔の向きによる形の変化に注意させる。

・表情を強調する表現をさせる。
・頭部のつくりから, 面の強弱などを表現させる。

・充分乾燥させ, 課外に焼成する。
・制作過程を反省し, 作品の鑑賞をする。

反省

- ・半面像では, 頭部と首との関係表現が困難である。
- ・面の強弱の表現は, これをおさえさせることによりかたまりを大切に持って行った。

旭川における彫塑学習の方向

中学校彫塑領域提言

1. はじめに

新しい題材に取り組むとき, それは生徒にとっては言うまでもありませんが, 教師にとっても意欲に燃え, 新たな期待感の高まるときであります。けれども同じスタートラインに立った子どもたちが, 授業開始5分後には3分の1のものしか教師のねらいが理解できず, 10分後には2分の1に減り, 授業の終了時には, わずか数人のものだけが教師のねらいに到達するという例え話があります。どの教科にも存在する厳しい現実の一面ですが, 彫塑学習に目を転じると, その差はますます拡大するばかりと言うのが本筋のところかも知れません。

生徒はどのようにとらえているのでしょうか。「彫る」



習」について、市内の中学生にアンケートをとってみました。彫塑の学習が「好きだ」と答えたものは、男子の約70%、女子の約40%、全体として50%以上の生徒の好む学習であるということがわかりました。しかし、70%の生徒は「難しかった」とも答えているのです。適度な抵抗感、表現上欠くべからざるものとは思われますが、「難しかった」との解答の多いことや「満足すべき作品はできなかった」との解答の多いことなど、例え話が現実の問題として私たちに強く迫って来るような気がしてなりません。指導の担当をされた先生方の説明は細かく行なわれているようですので、説明が「理解できた」と答えたものは、66%以上でした。このことは、説明は理解されたけれど、素材に無理があったり、生徒の用具が素材に不適合であって制作上困難したとも考えられますし、説明がよくわかり、知的な理解度は高まったが、反面表現技術が指導が抜けたために、一層「難しい」と感じたのではないとも考えられます。

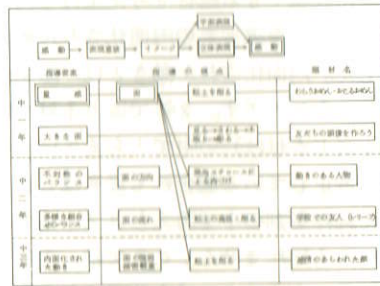
こうした結果をもとに、彫塑学習の在り方を考えたわけですが、多くの問題の中からこうした結果をもとに、一人一人の生徒につけさせたいとねがい、立体表現に迫るための道すじとして面の指導という点的をしぼり、表現力を確かなものとし、積み上げや発展のある学習の在り方について研究を進めてきました。

2. 研究と実践のあゆみ

・面の指導と彫塑の学習とのかかわりあいについては、領域のおさえのところで述べたとおりであります。生徒が対象をとらえるときの一つの視点として面をとりあげ、教師は、1時間の授業の中で客観的にとらえることのできる最低の面のつくりを生徒に一つ一つ探り出させて確実に表現させることによって、生徒はこれを足がかりとし、一つの土台として自らのイメージを広げていくことができるのではないかと考え、こうした仮説のもとに授業を進めているのであります。

・1年における面の指導については、彫塑学習の導入という意味もあって、生徒の興味ある題材を取り上げてみました。この中で立体を大きな面にとらえさせることをねらいとし、対象(実践例では友だちの顔)を一般的な形として教師の側から、顔の前面、側面のつくりを一つずつ生徒の側におろしていき、立体をとらえるときの基本的な見方や手順を理解させていきました。ここで扱う素材としては、

以上のような点からも比較的自由のきく粘土以外に考えられなかったわけです。この粘土は、旭川近郊で多く産出される様々な形の製品として出荷され、郷土の特色ある産業を支えており、また陶芸の町として純粋に作陶する人口の多いのも優秀な粘土のおかげと言えるのです。こうした背景があるためか殆どの生徒は小学校時代に粘土で作品を作った経験を持っています。ここで粘土を扱うことは、郷土の素材を活用する意味も含まれ意義のあることと考えます。ただ1年の段階では、粘土の「つける(可塑性として)」概念だけでなく、粘土の「削る(彫刻材として)」概念を理解させていくのです。むしろ「削る」仕事を主体にした作業を進めさせているのです。粘土のかたまりを、粘土ペラなどで大きく削り取らせ、そこに出来る面が確かに立体を形造っていることをつかませたいという考えに立っています。大きく削り取られた塊りは顔の骨格をなしていることを知らせ、あとから細かな部分に「つける」ことは、全体の調子をとのえたり、面と面とのつなぎであることを知らせ、確実に骨組みをとらえることが量感を把握することにつながることを理解させて行きたいと考えています。粘土の彫刻材的な扱いは、面の指導を一層可能性の高いものへと押し進めていっています。彫刻材として、新しい素材の発泡セメントを使っての実践を行なってきました。ここでは観察表現としてとらえさせ、基本的には「見る→さわる→木取り→彫る」という学習のパターンを積み上げて制作をさせました。彫りすぎではやり直すことのできない彫刻の学習の中では、面のおさえは一層重要な意味があるのです。「頭像をつくる」実践の中で、問題としてとりあげられたことは、素材の持つ直方体の形が最後まで残る点でありましたが、確かに直方体の素材を与えられた生徒はイメージと結びつけることが困難であります。真四角な塊の中に人間の頭を探らせてもピンと来ないかも知れません。



しかしこの授業では側面から、正面からの荒彫りを一つずつ生徒の目を通してとらえた対象を、触覚で確かめ（手でさわりながら）木取りをする。それから、内側に予想される頭に接するぎりぎりの面で切り落させていくステップをふんだ授業を展開していったのです。大きな面で切り取られた素材は原形を残すことなく、頭部としての姿をあらわし、荒彫りを終えるあたりから生徒の意欲が出て来ました。しかし、学習の形態は、教師中心の一斉学習となり、生徒の発想を大切にすることがなござりになったきらいがありました。今後授業についても研究を進めて行かなければならないと考えているところです。

2年では、対象物全体の制作（実践例では人物全身像）を取り上げ、対象の全体の動きから立体のつりあいをとらえ、動きと関連する面の方向を対象の持つ基本的な形に合わせて考えさせていくことにしています。動きのあるポーズでは対象物は対称形をとります。しかし、その中でもバランスのとれた美しい形の存在することをつかませて行きたい。じか付けの内容については、後述することとし、ここではじか付けと面との関係だけで終わっておきます。もう一つの題材であるレリーフ制作では、粘土で板（画面）をつくり、板を少しづつ削り取り、面を出していくことによってレリーフでの立体表現を容易なものとするのができたと考えられます。

3年では、友だちの顔をテーマに頭像の半面像の制作を実践してみました。半面像としたのは、丸彫りでは、心棒づくりや作品の保管に困難であること、授業時数が少ないことなどの理由によります。1、2年の積み上げとしての3年生ではありますが、時間数の問題は大きく、頭像丸彫りの実践も試みたのですが、保管等の関係で作品の破損が多く、仕事の進みぐあいも思わしくなかったという経験をふまえ、3年生の彫塑領域に与えられている時間数、7時間の中で確実に表現できる題材を考えて行ったわけです。半面像の題材の中に指導要素の内面化された動きをねらうことにしました。内面化された動きとは、彫塑の造型要素である動きということです。2年で取り上げている「動きのある人物」（じか付け）の中でとらえている動きとは異なり、対称が静止している場合にも動きは存在するのですが、そうした純粹彫刻の中で考えられている動きであると言ってもよいかも知れません。ここでは、生徒が対象（友だち）の中に見いだすイメージを強調された動きとして表

現させて行くことを願ったのであります。また頭像（半面像）を構成する面の質についても理解させて行くことをねらったわけです。ひたいを構成している面と、ほおを構成している面とでは、質感のちがひがあるのです。前者は、内側に頭がい骨があり、その上の面であり、後者は、ほお骨の下のやわらかな筋肉がつくる面なのです。そうした面の硬軟や軽重や疎密感を制作する時におさえさせて行くのであります。実践の結果、この要素をおさえすることは非常に難しいことがわかりましたが、生徒は、あるいは粘土ペラでたたいたり、押しつけたりする面や、指先で軽くおさえたい面として表現しようと試みていました。そして、生徒たちは、人間を何とか表現して行こうとする姿勢を示していたようです。指導要素として3年であげられている中味の検討は当然されなければなりません。こうした姿勢の中に、内面に迫るものを感じて、一つの段階に来たことを知りました。

3年生は中学校最後の学年であり、義務教育9年間の最後でもありますので、各学校では卒業制作を共同作業として取り上げているようです。彫塑の題材配当表の中に、こうした、卒業制作をテーマとしたモニュマンを入れることは意義深いことと思われまますが、現段階での指導が完全とまで行かぬまでも積み上げられた時点で、そうしたことも考えて行かなければならぬと思っています。

実践例5 2年指導案

題材 **動きのある人物** 8時間

題材について

日常生活の中で、生徒は動きのあるものを見たり、自ら経験したりしており、中学生の段階から考えても多くの者はスポーツ等に力強く、美しいフォームを見出し、感動した経験をもっている。そこで彼らの生活の中で、彼ら自身が経験しているものの中から題材をとりあげることにより、生徒の興味と関心を高め、それを造型的な表現活動へと導きたい。

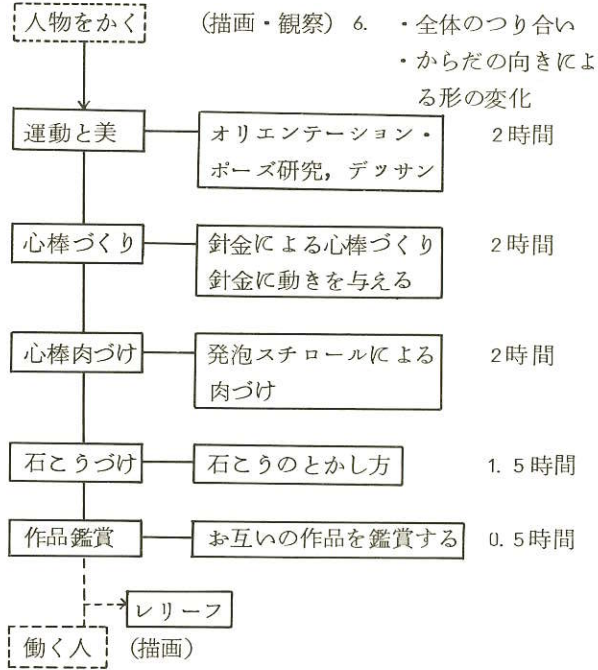
彫塑学習においては、量感・動勢・バランス等・表現要素として欠くことができないものであるが、この学習では動きのある人物の中で特にプロポーションや面の流れ、つながりによる動きをつかませ、さらに面として表現しやすい素材を与えることにより、生徒のもっているイメージがより豊かな表現へと高まるものと考え、この題材を設定し

た。

指導のめあて

- ・人物全体の動きをつかむ
- ・適切な心棒づくりをさせる
- ・各部の動きを考えながら全体の動きを表現する
- ・石こうのとかし方を理解させる
- ・空間の美しさを感覚的にとらえさせる

指導計画



展開

時間	学習活動	留意点
(導入) 1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・題材についての話し合い。 ・素材についての話し合い。 ○作業の計画をたてる ○デッサンをいくつかし、ポーズを研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品 ○材質についての理解を深めさせる。
(展開)	<ul style="list-style-type: none"> ○ポーズを決定する。 ・決定したポーズにつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツをしている友だちのポーズを考えさせる。 ○動き、バランスの良いものを選ばせる。 ○全体と各部分の関連

いて、さらに前後左右からデッサンをする。

- 心棒をつくる。
- ・デッサンを参考にし、骨組みをする。

- ・心棒をポーズに合わせて動きをつける。
- ・心棒を台にとりつける。

○発泡スチロールによる心棒の肉づけ。

- ・各部を大きなかたまりでとらえる。
- ・全体の補充、修正する。

○石こうづけ

- ・石こうのとかし方を理解する。

- ・いろいろな方向から見つける。

- ・さらに全体から見てけづったりつけたりして形をととのえる

○でき上がった作品を鑑賞する。

○作業を反省をする。

に注意させる。

- ・首、肩、腰、足の向きをたしかめる。

○全体と部分の割合に注意しながら作業を進める。

- ・ぐらつかないようにしっかりつくらせる
- ・思い切って動きをつける。

○スチロールをつけさせることによって、より動きがでてるようにさせる。

○必要な量だけとくすように。

- ・全体の動きに注意してつけさせる。

- ・時々作品からはなれてたしかめさせる。

○次の点から作品を鑑賞させる。

- ・ポーズの動き、
- ・全体のバランス
- ・空間の美しさ



反省 (問題点も包めて)

- 心棒づくりの抵抗感

針金の硬さから来る抵抗感や、用具の不備な点から来る抵抗感、全体のプロポーションがしっかりとらえられぬことから来る抵抗感とあります。

現在、既成心棒を止め、ナマシ鉄線の10番を用いています。しかし、「曲げる」「切る」作業はなかなか大変な仕事です。学校によって技術科室を使って心棒づくりを進めているところもあります。

用具として、ベンチ、ブライヤー、ハンマー、万力など。

- ・接続固定の難しさ
- ・太さから来る誤差，太さを計算にいれずに仕事を進めると小差ではあるが誤差を生ずる。

○作品の大きさ

子どもの興味をもたせるには大きいほうがよいが，それも大きすぎると一本の針金では作るもののイメージがはっきりしなくなる。小さすぎると心棒づくりの抵抗感も増し肉づけによる誤差も大きくなる。(特に手足の関節部の肉づけ)

現在のところ，最大でも実物の3分の1と考えています。
最小でも1/5の1

○作品固定の方法

ポーズによって異なるが，支点は最低2つは必要と考えます。

ハードルを跳んでいる，といったポーズなどの場合，固定する心棒が見えることになるわけですが，それでもかわらないのではないかと思います。

方法はいくつかあり，釘を下から出して足を止める。足を少し長くしておいて石こうを上にかぶせる。などありますが，現在はその方法がもっともよいとは言えません。

○発泡スチロールを使う。

提言の中にも書きましたが，今までの麻ひも等による心棒づくりでは，人体のとらえ方があいまいになり，それだけ石こうをつける段階に重点をおいて行ったようですが，これをスチロールを使うことにより，面のとらえからの確かな表現ができ，石こうづけの必要も今までとは異なったものにするに改めて行きました。石こうは，面と面のつなぎや，表情の強調等に使う程度と考えています。

反省

・中学校美術科の中で彫塑領域として割り当てられている3カ年の総時数は，旭川の場合39時間です。私たちは，この時間の中で，どんなことを，何を使って，どのようにして生徒たちに与えれば，共に創作活動の喜びを分かち合えるのだろうか，ということについて検討し，実践を重ねながら今日に至りました。

彫塑学習への興味と関心は，素材への期待と共に，立体の持つ量感から受ける喜びであり，面の指導は，立体そのものへ迫る一方法であったわけですが，生徒たちは，面にとらえた立体が基本的な量感把握を容易にすることを知ることによって，喜びを持って学習に参加してくれました。

私たちは，単に面をとらえることのみにとどまらず，さらに発展することを願っているものであります。しかし，現段階では3カ年の継続には至っていないこともあって，各学年に面をおさえた指導が表面化しており，あたかもそれが全てといった印象を与えかねない状態です。

現在のところ，旭川の生徒は彫塑における表現手段の一つを知っただけかも知れません。しかし，このわずか一つのこととて，こんなにも自分の持っているイメージを容易に造形化する楽しみを味わったのです。確かにものを見つめることのできる喜びを知ったのではないのでしょうか。この興味と関心の新たな高まりを大切に，これからの学習の中に，ゆたかに生きる子どもを育てていきたいと願っているのであります。

中学校鑑賞領域

提言者 杉山 徹 (聖園中)



○ 鑑賞領域のおさえ

中学生の段階になると知的感受性が著しく発達し判断力も増すので表現活動と関連づけた鑑賞とは別に特設の鑑賞の時間をもうけて行うことが必要である。

鑑賞活動は、累積され繰り返されて意味をもつ内面的な活動であることからその活動は多様である。

また、鑑賞活動は、表現活動と密接な関係をもち鑑賞活動自体が創造的活動の一分野である。この領域では、ともすれば東西の各時代の代表作、名作とされたものを選び知的理解、美術史解説そのものに終わりがちになる危険をさけ、鑑賞活動を子どもが主体的に学びとるといふ能動的な活動ととらえている。

鑑賞の対象は、美術作品などや自然美などであるが前者については、子どもの目でとらえた色や形を感賞的に理解するだけでなく、その作品の制作された時代背景や作者の意図までも知った上でのものでなければならない。

現状では子どもが作品を理解する能力がそれほど高くないので作者の時代や製作動機を調べさせたり、社会と美術との関係を具体的に示す内容を教師が適切に解説したりして、子どもが美術作品へ興味や関心を高めさせるのである。

鑑賞活動は、作品とそれを見る子どもの飽くなき対話であり、彼ら自身が十分に本ものの美しさを味わい楽しむことと考えている。生活経験を異にする個々の子どもたちが、一つの作品を鑑賞し、同一の美しさを汲みとることはむずかしいが、子どもがもっているであろう共通な人間性にふれた扱いをすることによって願いに近づけたい。ここでは、美しいとか、すばらしいとか言う直感的・感覚的 素朴な感動を子どもが分析的・総合的に理解することによって、より高い美的判断力を誘発させ、新たな感動へと発展させ、高められた美的判断力は、次の鑑賞活動の理解となり表現活動の助けにもなることをねがっている。

中学校で扱う鑑賞作品は子どもの素直な共感をうる作品であることと、これからの創造活動の助けとなるものであることから、私たちは近代以後の作品を主に取り扱い、鑑賞が鑑賞の領域のみに終ることなく巾広い内容をおりこませたいと考えている。以上の観点から学年的な系統性を考えてみると、

第1学年では、自然美や美術文化への関心を深めるねらいで、自分の感じたものを大切に素直に作品を味わわせたい。

第2学年では、作品を通して、作者の心情や造形的な効果への関心を深め細かく観察し材料の特色をさぐらせたい。

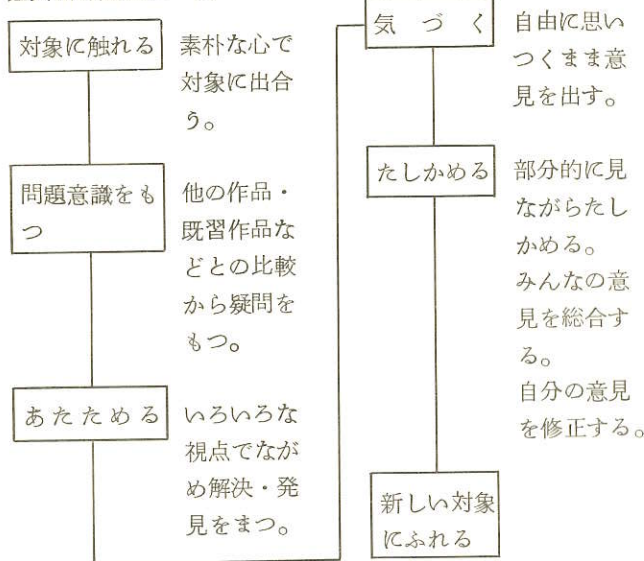
第3学年では、主体的に見る態度や能力をつけさせ、生活美術との関連による東西の美術の内面的な特質を理解し、時代・民族・風土・作者などの相違による作品のよさや美しさを味わわせたい。

以上、旭川で扱う鑑賞領域のおさえと、系統の要約をのべたが、具体的な授業実践の展開例や系統表を以下に集録してみた。

中学校鑑賞指導の系統表

	中 1 年	中 2 年	中 3 年
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 作品をすなおに味わう(自分で感じた事をたいせつに) 自然美・美術文化への関心(身近なものから) いろいろな技法について気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かく観察し深く味わう。 作者の心情や個性をさぐる。 美術に関心をもち、大切に(時代・民族・風土・作者について) 材料の特色をさぐる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会と美術の関連を知り、創造の喜びを持つ。 名作・先人の遺作への理解を深める。 時代・民族等による特色を理解する。
鑑賞対象例	身近な生活から 私たちの学校、生活用品など	郷土の美術品 旭川の美術品 郷土博物館 アイヌ民芸品	日本・西洋の美術 西洋美術館 日本の美術品など
指導の要素	<ul style="list-style-type: none"> 環境の美化 いろいろな技法 自然美と作品 	<ul style="list-style-type: none"> 表現内容と技法 郷土と美術 作者の個性 作品の特徴・技法 	<ul style="list-style-type: none"> 技法と効果 人間性と美術 国際理解 日本美術の特色

鑑賞指導過程の一例



鑑賞学習調査資料について その1

生徒たちが、現在までに美しい、すばらしいという美術的感動（鑑賞の芽ばえ——好奇心、興味、好き嫌いの感情）を受けたような経験があったかどうかを、「絵画」「彫塑」「建築」「デザイン」「工芸」「自然物」の6領域について次の3つの観点で調査をした。①何により感動したのか。②その感動を受けたのはどこでか。③それは「いつ」だったか

調査の協力校は、市内4つの中学校で、調査人員は二年生三年生合わせと334名であった。下記の表中、各領域が、必ずしも調査人員の数と一致しないのは、部分的に無解答なもの、感動した経験がないもの、などによる数が割引かれているためである。

<表1> 何により感動したのか。

<注>表中の数は、すべて実数である。

分類 項目	絵画	彫塑	建築	デザイン	工芸	自然物	合計
実物	558	66	75	154	166	192	711
写真、複製	165	173	132	86	104	106	766
部分無解答	111	95	127	94	64	36	527

<表2> 何処で感動したのか

分類 項目	絵画	彫塑	建築	デザイン	工芸	自然物	合計
学校	44	52	16	56	23	28	219

家庭	43	45	71	91	98	89	437
展覧会	56	51	11	17	46		181
社会見学	10	16	41	30	51	125	273
その他	70	75	68	46	52	56	367

<表3> 「いつ」感動したのか

分類 項目	絵画	彫塑	建築	デザイン	工芸	自然物	合計
小学校時代	78	88	82	86	113	117	564
中学校時代	145	151	125	154	157	181	913

調査分析

<表1> デザインによる感動が以外と多数を占めるのは、テレビ・雑誌など所謂、マスコミの影響で、しかも実物に接する機会も日常生活では多いためだろうが私たちとしては、商業主義的デザインと美術的デザインとの区別を明確におさえ、今後の学校における鑑賞を考えて行きたい。

工芸に最も沢山の生徒が感動したのは、特に旭川では、木工、民芸、陶芸などが盛んで、いろいろな形で日常から身近な存在として生活にとけこんでいるからと思われるが、地域社会に密着させた鑑賞へと進めるよう充分に検討したい。

概して、写真、複製などによる感動が多いのは、印刷技術の向上、常設美術館がないこと、優れた彫刻作品がある博物館などがあまり知られていないことなどによるものだろう。

<表2> 感動の場所が、家庭に多いとは？ 予想以上の原因に、調査協力校が、市内でもどちらかという経済的にも恵まれている環境にあり、各家庭で、美術全集画集などがあるためだろう。また同じものでも家庭での鑑賞が学校よりもじっくり見られ、より感動を受けることが多いためと考えられる。

<表3> 中学生の段階へ進むにつれ、感受性や知性が発達し、それにつれて鑑賞への興味関心も高まり、小学校時代よりも一層強く感銘を受けるためだろう。建築が各領域にくらべ、その増大が少ないのは、それだけ対象として鑑賞が、むずかしいことを物語っていると思う。

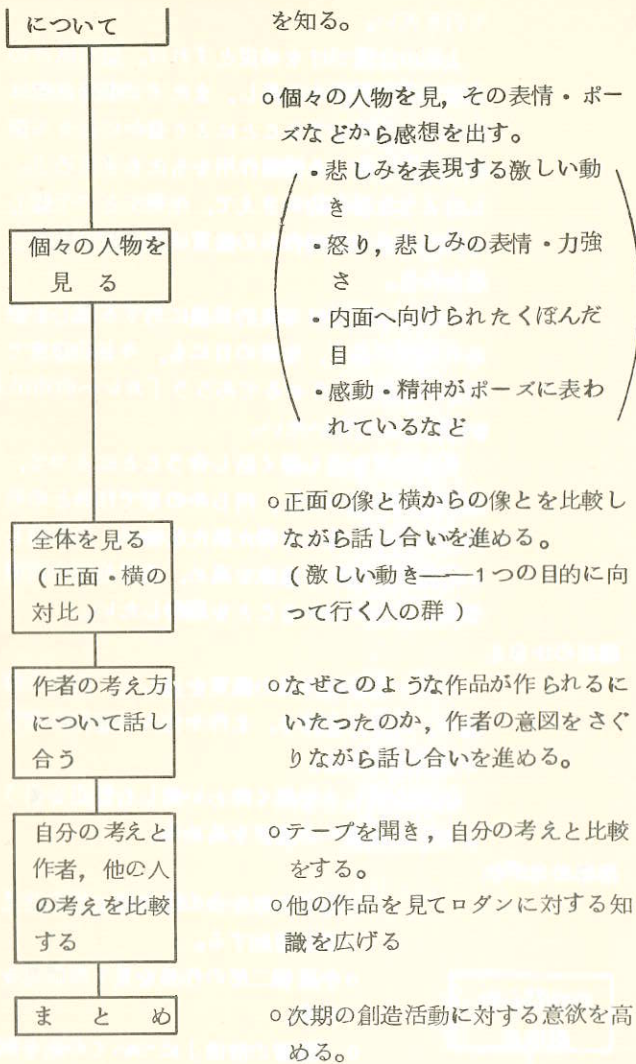
調査資料 その2

私たちが、先にふれた鑑賞指導過程の一例を考える時、子供たちの実状は、果してどうなのか、上記調査資料と同様にして行なってみた。

以下の表に示す結果が得られた。

<表4>

最初の印象よりも作	
-----------	--



反省

- 劇的な作品を鑑賞させた場合，生徒は作品自体よりもその中にあるストーリーに関心をもつ事がおうおうにしてある。美術作品の鑑賞からはずれる事を考えられるが，そのようになる事をさけるべきなのだろうか。
- また，書物などから資料を与える場合，どんな事に留意すべきなのか。
- 比較鑑賞をする場合，一方に重点を置いて鑑賞してもよいのか，また，その場合，大きくとり上げなかった作品に対してどうあるべきなのだろうか。

か。

題材名 <工場地帯をかく>を鑑賞する <中2>
題材について

鑑賞指導の領域や授業形態もいろいろあるが，ここでは同じ学級の仲間の作品で表現もどことなく共感性のあるものを主として，生徒に自由な雰囲気でも話し合いをさせ，意見を出させながら，美術作品に対する知的感受性を深め，批判力を高めさせたい。そこで鑑賞の観点を構図や色彩・形など細かな観察を通して，作者のねらいや個性，その他作品から感じられるものなどをさぐらせたい。また創造活動をする時に主体的にいかされる事を期待したい。

指導のおさえ

級友の作品を鑑賞し合い，良い所や特色を見つけることにより鑑賞力・批判力を高め，作者のねらいや個性をさぐらせ，美術作品への興味や感心を深める。

次の創造活動を助長させ，新しい対象へ向う意欲を高める。

指導計画 <工場地帯を描く>を鑑賞する 1時間

指導の流れ

指導のねらい	学習活動	留意点
○ 友達の作品に触れ，興味関心を高めさせる。	○ 工場地帯をかいた時のねらいについて話し合わせる。	○ どんな主題で？ <構図・色調・遠近感の工夫>
○ 作品を見て，直感的・感覚的判断によって見分けさせる。	○ 友達の作品を挙手により選ばせ作品を数点にしほらせる。	○ 数名の支持があれば作品を後へのこす。
○ よいと感じた理由を，主観的に考え，解決・発見させる。	○ 構図や形・色彩について自由に意見を出させる。	○ 断片的な言葉でよい。
○ 友達の意見からさらに鋭く観察させ，考え方を改善し，結合させる。	○ 作者のねらいや個性・その他感じられることを発表させる。	○ 対立意見も出るが1つの作品討論をあまり深めない。
○ 総合的に理解させ，主体的に整	○ 自分が最も印象に残ると思うも	○ 自分の思うまま素直に書く。

理させる。

のを1枚感想文
にまとめさせる。

反省

- 対象作品の選定をする場合、教師があらかじめ行なうのと、生徒が自由に行なうのとでは、かなりのちがいがあ
- 生徒の文章表現によるまとめは、創造活動が高まったかどうかこれで知ることができ、一時間の授業の中

で、その内容を教師が知る余裕、生徒達に知らせることができない。

- 虚心になって作品に接する場合、生徒作品と各画・名作との構想などのちがいによって、容易に作者の企図を乗り越えられる前者と、作品の価値が理解しづらい後者との兼合いとを、どのように授業の中へとり入れるかに今後の問題がある。





<デッサンと油絵>

提言者 野上好彦(東高)

高校の普通科における美術教育は将来アマチュア画家としてたてる位の専門的な技法習練から始めるべきだと考える。

先ずデッサンであるが、高校に入学したばかりの生徒に何も言わずに石膏デッサンをやらせると、2時間もかからず一枚仕上げてもうあきたという。見るとビーナスがアグリッパになったり、アグリッパが女性化したり、頭だけ描いたり紙の真中にちよこんと描いたり、頭がはみ出してしまったりしている。無理もない、中学でデッサンをやった者は、10%にも満たないから。それはそれでよいとしても、デッサンは絵画は勿論、彫刻、デザインをやる基礎をつくるもだし美術教育の態度を養うにも大切なものであるから私はかなり徹底した個人指導をやり16時間以上かけることにしている。今年はやりただけやらせてみたら20時間をこえてしまった。それでもまだやりたい者が10%はいた。勿論もうごめんだという者も10%はいたが。

デッサンの次は油絵具の使い方を教えながら色彩理論をやる。色相とか明度や彩度等を実践しながらつかむようにする之をやらないと色彩感覚が狭くて自分好みの色彩しか使えないからである。油絵具という新材料は生徒に多大の興味を呼ぶ。勿論油絵具の歴史や名画を見せたりしたあと、パレットの色の配置から油の性質など詳しく説明して手にとらせる。1年はそのあとポナールの模写で、色の重ね方、ぬる順序を考えさせながら、ポナールの技法の特色などを説明する。2年は、色彩理論の中に抽象形態の図形を描かせるが、そのあと風景を描かせると自分の形というものがだんだん固まってくる。2年という時期は抽象を教えるのに適した時期である。3年は色彩理論のあと、石膏を油絵具でかかせる。石膏デッサンを油絵でやるのは2学期の自画像、人物画につなげる為もある。

かなり自由な表現をとらせる。残念なことに3年の女子は2年時代に芸術をとれない為に男子に比べると、どうしても力量が劣る。男子に追いつく迄にかなりの時間がかかる。模倣的な才能は強いが創造的な才能は男子より低いという男女差がはっきり出る年頃でもある。何れにせよ油絵具は生徒の発表意欲をかきたて、授業を楽しくするものらしい。H・Rに

帰った後も油絵具の話で持ち切りだったり、絵についての関心もぐんと増すという事をよく生徒から聞く。校庭でイーゼルをたてて描いている生徒を他の生徒が2階や3階からうらやましそりに見ていたり、見に来たりする事もある。

鑑賞は美的感覚を鋭くするために必要欠くべからざるものである。道展や全道展、高文連展を授業中に鑑賞に出かけるが、油絵をやるようになって深く鑑賞する態度が出来てきた。展覧会中の絵の前で色々議論をたたくわしている姿も見られる。

鑑賞の第一歩は自分の絵のまわりから始めるので、一時間の合評会はしょつ中である。6月の美術クラブの野外展(市役所前)の作品は第2段階の鑑賞材料である。授業中に展覧会の鑑賞に出かけた時はレポートを出させる。このレポートを集計すると、授業の進め方のいい反省になる。

以上の私の教育法に対して3年卒業時にアンケートを取った所、将来とも絵を描いて楽しみたいという者80%であった。地元の展覧会に出品すれば、入選するであろうと思われる者はそのうちの50%であろう。

デッサン指導計画

	高 1	高 2	高 3
ね ら い	1.構 図 2.形(線と面) 3.量感(立体感) 4.調子(陰影・濃淡・明度) 5.質 感 6.プロポーション	1.構 図 2.形(線と面) 3.量感(ボリューム) 4.調子(光と明暗) 5.ムーブマン 6.質 感	1.構 図 2.形(面の見方) 3.量 感 4.調 子 5.ムーブマン 6.空 間 7.パルル 8.質 感
材 料	・画用紙4つ切 ・鉛筆H・2B 3B ・ねりごむ ・イーゼル・カ ルトン ・アグリッパ ・青年ブルー タ ス	・画用紙4つ切 ・鉛筆H・2B 3B ・ねりごむ ・イーゼル・カ ルトン ・メジチ ・カラカラ	・木炭紙MBM ・木 炭 ・ねりごむ(又は パン) ・イーゼル・カ ルトン ・アリアス ・ブルータス ・アポロ

指 導

- | | | |
|---|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 描く姿勢（画面との距離） 2. 鉛筆の持ち方 使い方 3. ねりごむの 使い方 4. 追求する イメージをはっきりつかむ 5. 石膏の見方 6. 形と調子とを 別々に考える 7. 形のとり方を スライドやOHPで説明 8. 一枚目は訂正しながら個人指導をやり二枚目から鉛筆をとらずアドバイスをする 9. 出来るだけよい所を見つけてのばすようにする。 10. 一枚目を描きあげたところで合評する 11. 部分的に仕上げて行くタイプがかなり多い。之はなぜ悪いかをよく教える | <ul style="list-style-type: none"> • 大体高1と同じことを最初に注意するがムーブマンのある石膏を描く為、解剖学的に石膏を説明し、見える通りにかくのではなくてねらいをはっきりさせてデッサン力をつける為にやることを強調する • 形と調子は同時に描き進めて行くようにする • ムード的なデッサンが出て来たり、タブローとして見た場合大変面白いのも現れる。合評会の時、そういう作品を特に取り上げてデッサンと絵の違いを考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> • 木炭は最初扱い難そうなので、技法を色色説明しながら木炭に慣れさせる。 • 木炭をこするタイプとこすらないタイプとがあるが、どちらでもいい。 • どの学年でもそうだが、形や調子が狂っていると悟ったとき直ちに訂正し改めて描く習慣をつけさせる。ねばり強くイメージを追求する態度を養うようにする。 • カルトンの中にその位置で描いている各学年各コースのデッサンが入っているから、放課後でもやって来てかけるし、自分のと比較も出来る。 |
|---|--|--|

	高 1	高 2	高 3
ねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 明度とグラジュエーション 2. 色 相 3. 彩 度 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 色の対比 2. 色の明視 3. 色の膨脹と収縮 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 色彩の対比 2. 絵画における色彩の心理的作用 3. 暖色寒色の分量
指 導	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書のデザインの部分を引用しながら、油絵具を使用して技法に慣れるのを目的とする 2. 色の心理的な働きを例をもって教える 3. 1年はどうしても色彩感覚に乏しく、色彩が片より勝ちであるから是正するように個人指導に力を入れる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年より高度の理論と技術を指導する 2. 技法の習練としてはマチュールの美しさを教える 3. 変化と統一、カラフルな画面やその反対等の効果について個人的な指導をする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの色彩理論（アマチュア用の色彩理論）を教える 2. マチュールの習練としてパレットナイフの使用法を、地塗の効用を指導する

題 材 模写<海水欲>ボナール
 油絵 6時間 1年 4つ切画用紙

題材について
 ボナールは最初ゴーギャンの影響を受け、更にルノアールのカラフルな色彩を受ついだ。典型的なフランスの色彩を伝えているカラリストである。60才をすぎて落ついた親しみやすい絵をかき、この絵なども、生徒によく鑑賞出来て、色彩の美しさもわかり、表現練習には手頃な絵である。



模写について

1年では自由模写でなく、鑑賞とメチェの習練がねらいであるから、そっくりにかくということに重点をおく

指 導

1. 構図について 水平線の位置、人物の配置、海岸線の割合
2. 色彩について 分析すると何色にちぢまるか。主題としてねらっているのは何か。ムーブマンはどうしたらいいか。
3. 描きはじめるとき、色はどこから塗ったらいいか。色の重ね方。地塗るとしたらどんな地塗か。
4. 描きながらボナールの伝記や、絵の見方、構図について話をし、ボナールの他の作品を見せたり、ボナールを取まく画家、フランス風な技術の話をする。

反 省

1. 油絵の技術習練としてこういうやり方は無理がなくていい。
2. 鑑賞力がぐんと進むのがよくわかる。個性の強い者は多少不満がある。
3. ボナールの影響を受ける者が多少出てくる。

題 材 風景<前庭にて>

油絵 6 時間 2 年 4 つ切画用紙

題材について

見なれている校舎や木だか構図のとり方によって生きたりも死んだりもする。1年は一定の所にイーゼルをならべて構図についての説明に時間をとるが、2年はスライドを見せて絵として適当な構図を説明し色彩理論の応用例を示す。

指 導

1. 感動なくしていい絵が生れない。描きたい気持ちが湧く迄風景ハントをする。
2. 抽象をやった後であるから、抽象に興味を持った者は風景にもかなり抽象化がすすみ、面白いのが出てくる。(こんな所に、小学校中学校の美術指導の潜在影響がある)
3. こちらもパレットを持ち、一巡するが、相談に乗るという態度で、技術的な指導をする。次の時間は早めに廻ってその日の計画を聞く。
4. 最後の時間は全部の前で短評を試み、仕上げをさせ

る。

反 省

1. 2年になると創造的教育を主眼におくから、様々な絵が出てくる。その種の画家の話をしたり絵を見せたりすると自分でも驚いている。ダリが好きになったりセザンヌが好きになったり、反応の鋭い学年でもある。
2. 男子ばかりだから、イーゼルや用具の扱いが乱暴になったり、後始末がぞんざいになったりし易い。

題 材 石膏<カッパピーナス>

油絵 6 時間 3 年 4 つ切画用紙

題材について

石膏デッサンの後油絵具で再び色彩を考えながら石膏を描く。3年は落ついた写実的な傾向があるので、この美しいピーナス像は喜んでかく。

指 導

1. 石膏像の鑑賞は、2学期の彫塑の勉強にも大切なので、美しい点を話し合ひ。
2. 自由な表現をさせるが、女子が加るので80%は写実的なデッサンの延長という感じで取組む者が多い。
3. 空間、バックの処理に注意する。その他は2年の指導と同じ。

反 省

1. 石膏のえらび方が大切だと思う。この石膏の外に、アポロ、ブルータ
2. モリエール等をかきたいという者にはそれも許可する。
3. 自分の表現意図と技法の未熟さのギャップに悩む者が多い。イメージに合った色彩のえらび方に苦しむ者が多い。なるべく多くの色を使って、実験的な制作を進める。
4. 生徒のパレットを使って混色の仕方を教える。
5. 地塗をして計画的に描く。うすくぬるか厚くぬるか等の基本的作画法も、色々試みさせる。

高等学校彫刻領域

提言者 佐藤範夫(旭川大附高)

領域のおさえ

彫刻の領域は、木・石・石膏等によって表現されていた時代のせまい意味での彫刻から今までにあまり使われていなか

った、我々の身のまわりにある、色々な素材（針金・樹脂・鉄・紙等）を生かした、空間造形としての広い意味での彫刻を考えることが大切である。今までの彫刻指導は、その対称にできるだけ類似するように作らせることに終始した教育であったが、これは彫刻の基礎をつみ上げていく上にたいせつなことで、必要である。しかし、新しい数々の素材が彫刻に可能になり、利用されている現在、一步前進し、目を自然に向け、自由にまわりものを生かした彫刻学習を考える必要がある。

このような、広く、自由な考えの上立った彫刻の概念を理解させた後、表現の基礎的な数々の要素（量・線・面等）をとり上げ、彫刻制作の過程で色々な素材を使い経験させることによって、必然的な要素があることを理解させ指導したいと思う。

彫刻の二大表現方法について、モデリングとカービングがあるが、モデリングは中心より外に向かって造り出され、カービングは外より内に向かって造っていく方法で、これらは制作上まったく逆の方法ではあるが、出来上がった作品については対称を見出し、自己を表現するという面から見れば、方法はちがっても造り出される作品については同じであることを理解させたい。

題材 友人
15時間

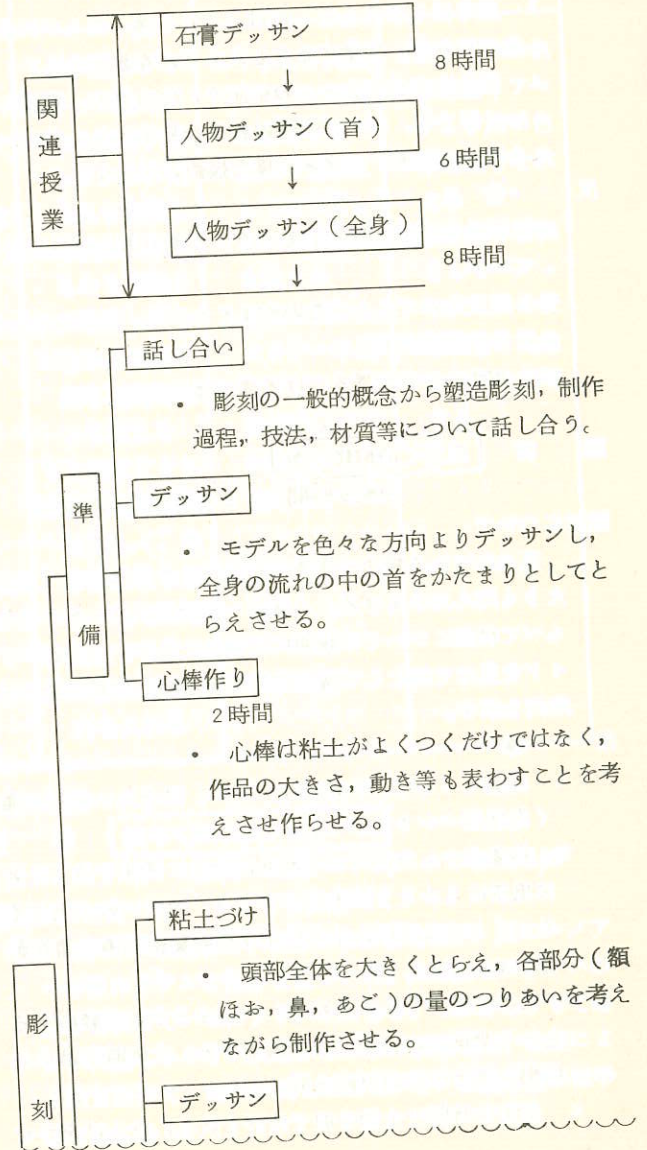
題材について

塑造彫刻については、小・中学校を通して、その基本的な要素・制作過程は理解されている。面・線・量等彫刻を形造っている重要な要素は、1個の作品を作る上にお互いに密接なつながりをもった要素であるので常に頭に入れて制作にかからなければならない。ここではその基礎の上に立って、彫刻とは表面的に形にのみとられることなく、その作品を見る人にとって、何かをうったえるような、又内面から働きかけてくるような表現が、その基本的な要素であることを理解させたい。頭部制作は単純で、かんたんに見えるが、その頭部だけで、全身を表現させ、全体の動きを感じとらせることがたいせつである。又日頃親しい友人（モデル）の個性・性格を表面的な特徴だけの類似におわることなく表現することが大切である。

題材のめあて

- ・ 彫刻の二大表現方法であるモデリング・カービングを理解させ、彫刻全般の概念をつかませる。
- ・ 頭部制作によって、全体の流の中の首を考え、個性的な作品をつくらせる。
- ・ 塑造彫刻の制作を通し、その過程を理解させ、技術的な訓練をさせる。

指導計画

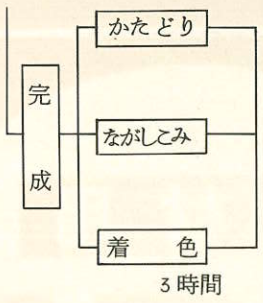


制作

- 1) だいたい出来た作品について、お互いに話し合わせる。
- 2) ここのデッサンは生徒自身の概念をすてさせ、前時までの反省の上に立って細部まで描きこませる。

粘土づけ
10時間

- 1) 作品をだいたんに修正させる。
- 2) 全体より細部に入り、そのモデルの持つ個性を見だし、表現させる。
- 3) 粘土づけを繰り返す、密度のあるしっかりした、かたまりとしてとらえさせる。



- 1) 材質の特徴をしっかり理解させ、技術的な面の指導をする。
- 2) 着色の場合は、よくかんそうしてからする。(着色のない方がよい場合もある)

反省

- 1) モデルに深く触れ、内部にまで立入っていく彫刻のデッサンを、生徒にいかに関心させ、かかせるか。
- 2) 表面的に走りやすい具象彫刻を、内面的にとらえさせるには、いかに指導したら良いか。
- 3) 頭部制作を、全身の中の頭部として表現させるにはどのように指導したら良いか。



クリンクロス

祝・全道造形芸術展開催中

造形と美術工業教育に必要な感性と実践の
研究開発で50年の歴史と信用を築きあげた

株式会社 一商店

東京都千代田区神田小川町1-1-0
電話 日本国営(03)574-0701

※10年ほど前からこの分野へ参入してありますが
ご入札の際は必ずご確認ください。

メモにご利用下さい

代筆る紙画の国全
スケッチブック

スケッチブック
スケッチブック
スケッチブック

吉理石膏
石膏



グリンクロス

祝 ● 全道造形教育研究大会

図工 と美術工芸教育に必要な機械と道具 の
研究開発で50年の歴史と信用を築きあげた店

株式会社 亀頭輝一商店

東京都千代田区神田小川町1-10
電話 東京03 (253) 3741(代) ~5

■ '70年度カタログは全国学校へ直送してありますが
ご入用の方はお申越下さい。

J I S R 9111

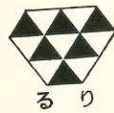


全国に広がる強力
なエリヤ ……
石膏工業のトップ
メーカー ……



東京
吉野石膏

TEL 03 944-6571 (代)



七宝用品

るり印七宝えのぐ ■ るり印七宝材料 ■ 七宝用電気炉

有限
会社 **日本七宝化学研究所**

日本国 141 東京卸売リセンター内郵便局私書箱第 328号
TEL (494) 3013 (代表)

JAPAN CLOISONNE CO., LTD.,

P. O. BOX 328, MERCHANDISE MART, TOKYO

141 JAPAN

全国500校のご指定品

マルマンの校章・校名入り

スケッチ・ブック

スケッチブックづくり40数年の伝統と信用で絶対の人気をもつ校章・校名入りスケッチブックです。

例年、全国多数の学校で採用されており豊富な品種と完璧な品質は定評があります。



マルマン株式会社 東京・中野

七宝焼なら

エダの七宝電気炉

一万台の信頼・五十年の経験

学校用 SA 1200 ・ SK 1000 ・ SC 650
手工芸用 B A-M KC 型

総代理店



函館・室蘭・苫小牧・札幌・旭川・釧路

陶芸用電気釜も併せて御愛用下さい。 カタログ贈呈

「教育版画」のあすを拓く新版画材

カラー紙版画

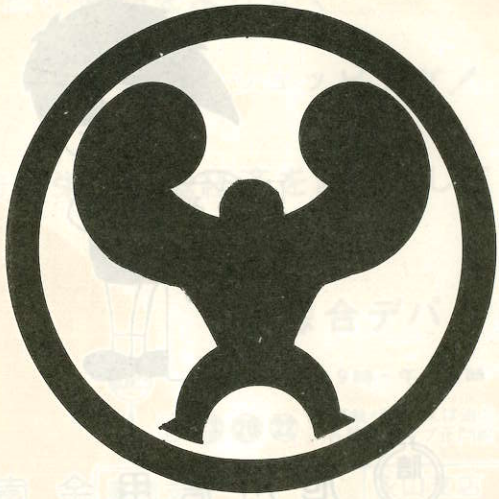
- ◆インキ不要で手や服を汚しません。
- ◆黒白版画とは別な夢のある多色刷のカラー版画が作れます。
- ◆準備が簡単で短時間に目的にかなった版画学習が可能です。
- ◆版画のあらゆる手法が応用出来るので幼稚園児から中・高校生まで全学年に亘って使用出来ます。
- ◆同じ素材で小品から四つ切大まで表現の目的にあわせて自由に大きさを選定出来ます。

あらゆる教育材料の総合メーカー

(御注文は全道ヒシエス会員へ)



株式会社 誠文社



世界に伸びる
TOPMAN BRAND
オカダの工具は
日本の誇りです

備品も個人用もこのマークで

岡田金属株式会社

教材部



道内総発売元

オカダの工具

旭川店 ○9 条11 丁目右 8 ・ T ②4832 ○ (姉妹店) 函館 ・ 室蘭 ・ 苫小牧 ・ 札幌 ・ 釧路

地元のしんきんを
ご利用ください

信用金庫はご預金、ご融資のほか
公共料金のお取扱いや地方へのご
送金などもいたしております。
どうぞお気軽にご利用ください。



 旭川信用金庫

株式会社 北 陸 銀 行

旭川大町支店

旭川市大町1条3丁目
支店長 遠藤隆弘
電話 51-4191

良い商品をより安く

楽しいショッピング!

国策共栄は家庭経済をお守りします



総合デパート

国策共栄



営業時間午前9時～午後5時

② ⑬ ⑳ ㉒

電軌バス・又は道北バス
各線共パルプ正門前下車

本社 旭川市パルプ町1の4 T(代)⑥3161

豊岡支店 5条25丁目 T③0724	永山支店 永山町8 T④1420	近文支店 緑町22丁目 T⑤5943	パルプ町分店 パルプ町1の7 T④4353
------------------------------	----------------------------	------------------------------	---------------------------------

安心して幸せづくりにおはげみいただける

勉学は親のねがいのねがい

農協貯金!

母なる大地と
太陽のめぐみをうけて
すくすく伸びる木の芽のように
こどもたちは成長します
あすはもっと大きく
もっとたくましく……
その無限の可能性を育くむため
こどもたちには
ぞんぶんに教育の機会を
つくってあげたいものです

旭正農協は

「全国農協貯金者保護制度」に加入しています。
お金に関することすべてあなたのパートナーです。

マイホーム、教育資金

あなたの生活プラン実現のため力になります。
生活を、べんりに豊かにするため
お気軽にご利用下さい。

旭正農業協同組合

本部 旭川市東旭川町旭正 TEL 016689-1
支所 旭川市豊岡4条1丁目 TEL 31-3161(代)
東光店 旭川市東光11条4丁目 TEL 24-0733
愛宕店 旭川市東旭川町愛宕 TEL 24-4688



マツダ
東洋工業

世界に誇る
堂々新登場 **カペラ**



全道最大の

サービス網で奉仕する

マツダ 全車種総販売代理店

北海道マツダ販賣株式會社

本社 札幌市北2条東1丁目 電話 代表 22-9181

支店 札幌・小樽・岩見沢・北空知・室蘭・苫小牧・静内・旭川・北見・釧路・帯広

救急指定

森山整形外科病院

院長 森山 元一

旭川市8条6丁目昭和通 T 22-4151

ナショナル

視聴覚機器
ビデオ, LL 装置
ボタン電話

技術と信用の店

(株) 電光舎

旭川市 4 条通 6 丁目右 10 号

電話 0166 代 22-7686

祝 全道造形教育研究大会

財団
法人

電気通信共済会の

盗難火災非常通報機

学校無人化の決め手! 警備と防災の王者!
火災通報の自動化は非常通報機で……

日本電信電話公社・警視庁・消防庁ご承認

設置のご相談は……

電 電気通信共済会旭川営業所指定

旭川市 1 の 16

TEL 24-9531, 22-5000



ホクレン牛乳

ドカーン!

皆さまの健康を守る

製造元 永山農業協同組合
工場 ホクレン牛乳永山工場
電話 48-2177, 2178, 2832

日本の酒造史に輝く =秘造り=

古今第一級の名酒として特に徳川將軍家ご指名の榮譽を贈られた名酒「男山」を300年来の秘伝の製法で現代に再現したのが「秘造り」です

特級酒規格 1.8ℓ詰 ¥670

御免酒 =正統男山=

享保年間、関白近衛家より特に別格の酒として興えられた称号これが<御免酒>正統オトコヤマで、その300年の正史を受継いでここに贈るものであります

一級酒造り 1.8ℓ詰 ¥600



山崎酒造株式会社

旭川市永山町4丁目
電話 48-1931

道北に力強く活躍する
旭川工場

日 糧 の パ ン

工場	旭川市永山町2丁目
営業所	名寄市西3条南12丁目
〃	紋別市南カ丘町2丁目
出張所	中川郡音威子府村

製菓

機 械・器 具
原 材 料・包 装 資 材

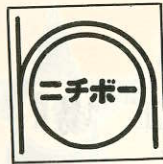


株式会社

大 門 屋

旭川市1条10丁目 電話 23-3146

ユニチカ



体育衣料

SSKニチボーラビニット

寝具と洋品

旭川地区
特約店

吉 おおぬま

旭川市旭町1の2 TEL51-0474

デザインから印刷まで...すべてOK!

シール印刷
箔押印刷
一般印刷

(有)金子★ニール

旭川市宮下18丁目左8号

TEL 24 - 2993

（男子学生服）
（女子制服）

丈夫で型のよい

前田呉服店

旭川市旭町2条3丁目 電話 51-5252

造材・素材・枕木・輸出材
輸出合板・一般製材・一般合板・オガタン

- ・木材チップ・ランバーコア合板
- ・ボンパネル・プライフローア



松岡木材産業株式会社

取締役会長 真 弓 政 久
取締役社長 松 岡 一 隆

本社 旭川市近文町19丁目
電話 (代) 51-1231
工場 近文・安足間
支店 東京

ベルストンは

石膏粉を特殊な製法で布に接着させたもので、次のような特性がある。

1. 焼石膏粉より取り扱いが簡単、粉が飛散しにくいので部屋をあまりよごさないし、低学年から高学年まで広く使える。
2. 硬化時間が早く(15分～30分)、作業時間が短かくてすむので、準備や仕上に充分時間がとれる。従って、学習計画がたてやすい。
3. 芯材はどんなものでも利用出来て、紙ねんどより被覆性が高く、乾いてもひびわれしない。

● 新しい石膏教材

ベルストン

● 丸石石膏株式会社

● 教材研究グループ

旭川市東光2条1丁目 TEL 24-4418

● 学校教材専門店

山城書店

旭川市4条21丁目 TEL 23-6595
TEL 26-1932

● 図工科教材なら

教材センター

旭川市4条9丁目右7号

T 23-1167 (山田裕義)

T 23-7553 (山田至幸)

コピーサービスは当店で

紙・文具・事務用品
教科書・学習参考書
スチール製品・事務機械

有限
会社



杉山紙文具店

旭川市旭町1条9丁目 電話 51-2422

取引銀行 北海道銀行旭橋支店

株式会社
北星堂書店

旭川市旭町2条3丁目 電話 51-2795

取締役社長 四方 瞭 一

ガンコなほど安定したフアックス
シャープな明るい「O・H・P」実物投映機
安心して学研におまかせ下さい

学研O・H・P・トラパン・関連商品一式

渡辺 騰 写 堂

旭川市6条11丁目 電話(23)2609・6724

理化学器械・度量衡計量器
視聴覚教具・一般教具事務用品
木工教具・楽器・スポーツ用品

営商事株式会社

旭川市1条5丁目右3号
電話 22-8658・3321
振替口座 旭川10000番

よいこの学習・よいこのくに
よいこの科学・お話絵本

幼児むき児童図書

学研特約店

旭川教販株式会社

旭川市大町1条6丁目
電話 51-2507・9637

- ・学校図書教材
- ・知能学力検査
- ・理科工作教材販売

株式会社

旭川教育同人社

旭川市4条通3丁目左1号
TEL 22-4751~2

旭ヒューム管工業株式会社

旭川市永山町 41 番地

代表取締役 山下 弘

三浦歯科医院

旭川市旭町 2 条 3 丁目

三浦 欣一

祝 ● 第 20 回全道造形教育研究大会

旭川市立北星中学校 P・T・A 会

会 長	田 口 一
副会長	相 山 正 道
	井 田 一 男
	佐 藤 もりえ

上坂木材株式会社

旭川市旭町1条7丁目

取締役社長 上坂 勝介

福田木材工業株式会社

旭川市北門町7丁目 T51-8111~5

代表取締役 福田 伸蔵

浅野木材株式会社

旭川市緑町17丁目 T51-4114

代表取締役 浅野 直也

大誠建設株式会社

旭川市旭町1条15丁目 電話(代)51-4111

代表取締役 中西義政

旭川魚菜卸売市場株式会社

旭川市永山町2丁目 電話(代)48-3141

取締役社長 筒井英樹

山田木材店

旭川市旭町1条5丁目 電話51-2913

山田己之作

一日一食 やながわのパン

旭川市大町1条2丁目 電話 51-3469

道北一を近代的設備，完全な衛生管理
道民の皆様と共に伸る新鮮で美味しい
美河屋の製品をどうぞ

パン。洋生。和生の総合メーカー



株式会社 美河屋

旭川市神居町神岡96番地の1
T 61-2221~6



銘菓の
ベストセラー!

登録
銘菓 **氷点**

◎おみやげに最適!
地方への発送承ります

鉄道弘済会売店
各デパート売店有名小売店にてお求め下さい

菓司 藤屋

旭川市4条21丁目 T 23-2480

うまいお酒

旭正宗

大谷酒造株式会社



北の誉酒造株式会社旭川支店

旭川市5条通15丁目左10号 電話 (代)23-2211

旭川で一番面白い

マンモスミュージックスナック

太陽

旭川市4条7丁目(3・4仲通) TEL 22-2562

今宵のいこいは優雅なスナック

ドリーム
でどうぞ

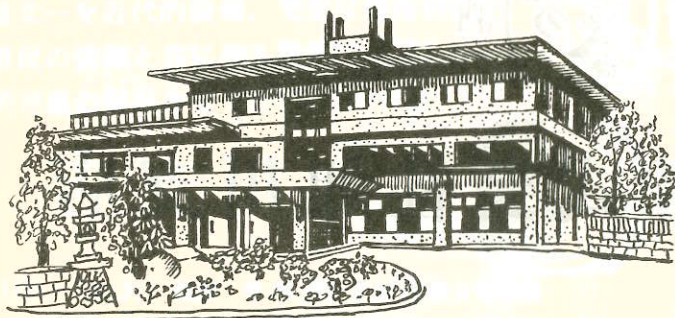
旭川市4条7丁目右6号早川ビル2階
T 22-1019

ペンてるえのぐ[®]T

和洋紙・文房具
事務用品 諸印刷

み 大江商店

旭川市7条通15丁目左1号
電話 23-2908・23-3011 番



友愛会館は北海道護国神社の神苑に、皆様の集いの場所として建設されました。
ご婚礼・諸会議・宴会・ご商談・宿泊等
最高の雰囲気・優雅な施設・
低廉な経費で
安心して満足のいただけるよう配慮しております。

 友愛会館

旭川市花咲町1丁目（護国神社境内）
TEL 51-6265

● 御写真の御用命は是非当館へ！！

学校・幼稚園集合スナップ撮影
遠近に依らずお伺い致します。

技術と信用の店

久保写真館

旭川市神楽町本通5丁目
TEL 61-1037

● 都市ガスのある豊かな暮らし

ウマイ・ヤスイ・ハヤイ三拍子そろった
いつでもたっぷり熱いお湯
早く・安全・経済的・便利・お風呂の王様

ガス自動炊飯器
ガス湯沸器
ガス風呂

旭川瓦斯株式会社

旭川市4条通16丁目左6号
TEL(代)23-4151

● 土木・建築・設計・施行

株式会社

菅原組

取締役社長 菅原正二
事務所 旭川市旭町1条5丁目
電話 51-1441

● 玩具は不思議な商品です

家中を明るくし
街中を明るくし
世界中を明るくします

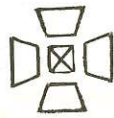
業界のトップを進む高級玩具人形問屋

新田玩具店

旭川市1条9丁目
TEL(0166)(代)26-2311

健康創りに奉仕する

保健飲料



ヤクルト

旭川ヤクルト株式会社

本社 旭川市東4条5丁目 T代24-3456
道北工場 東鷹栖町1線10号

敷物及業務用大型プラスチック容器

工事用シート・合羽・軽包装・農業資材・ビニール水槽

有限会社 カービニール商事

旭川市9条7丁目右10号

T 26-0391 (代)

馬鈴をジャランと鳴らしてズット奥に入るとそこに画材コーナーがあります。その画材コーナーに ♥ 365日プレゼントシステム ♥ が誕生しました。絵を描くみんなのためのシステムです。

- システム 1. 画材のプレゼント
- システム 2. 梅鳳堂画廊の無料提供
- システム 3. 無料の“友の会”

- ♥ えのぐは値上げしません!
- ♥ キャンパス安くなりました!
- ♥ 安い仮額があります!

◎
の
店



美術と工芸の店

梅鳳堂

旭川市3条平和通 T 23-4082

梅鳳堂画材コーナー

4 トン 4.5 トン

ENGINE POWER UP
中型車最大

日野レンジャーKL

- ・普通免許で乗れる3人乗り！
- ・130馬力 最高速度105Km！

＜＜ ディーゼル車は日野 ＞＞

旭川日野自動車株式会社

TEL代表 48-3131 旭川市永山町7丁目

一輪車ガレージから高層鉄骨建築まで



田島工業株式会社

取締役社長 田 島 由 松

本 社 旭川市永山町6丁目鉄工団地
電話 代表 48-1235~9番

ボイラー・配管材料

株式会社 岸井良太郎商店

取締役社長 …… 岸 井 啓 祐
住 所 …… 旭川市1条13丁目右6号
電 話 …… 26-3211

学 校 制 服 調 製
園 児 服

続木被服工業株式会社

旭川市豊岡2条1丁目 電話 24-3918

全道造形教育研究大会指定旅館

松 前 屋 旅 館	2条通り9丁目左6号	T. 26-5596
よ ね や 旅 館	1条通り7丁目左7号	T. 22-7188
二 見 旅 館	3条通り5丁目左7号	T. 22-1125
松 坂 屋 旅 館	5条通り9丁目左3号	T. 26-4555

旭川旅館組合

旭川市2条7丁目左7号
旭川市旅館組合事務所 T22-5132

高級印刷と
事務改善の御相談なら

(有)北海事務機印刷工業

本社 旭川市2条通14丁目右5号
TEL 代表(26)3281

工場 旭川市神楽町17区
TEL 代表(61)2101

ユニチカグループ

水と緑の都 旭川

シンホクポー

道内唯一の毛糸一貫生産工場
若く明るい女子社員が高校教
育を受けつつ美しい毛糸を生
産しています。

- ◎創立 昭和40年6月1日
- ◎資本金 2000万円
- ◎従業員 女子380名 男子70名 計450名
- ◎報徳学園 高等科4ヶ年 専科2ヶ年
北海道有朋高等学校と技能連携に
より4ヶ年で高校卒業

旭川市春光町6区

新北紡株式会社

取締役社長 塩塚 忠美
専務取締役工場長 鈴木 忠男
(報徳学園長)